論　説

2021：変
――百周年の再起動 「紅羊劫」の前奏曲？（3）

夏　　剛

初の夏・冬両季開催，亜細亜雁行型高度成長，1/3 世紀程の日中発展時間差

2022 年 2 月 4～20 日，第 24 回五輪冬季競技大会が北京・張家口市（河北）で行われた。前回（2018.2.9～25，江原道平昌郡）と 20 年（名義，21 年実施）東京夏季五輪の次に，五輪は東亜細亜で 3 連続開催された。中国初の冬季五輪は日本 2 回→韓国 1 回に次ぐ亜細亜の 4 回目であるが，北京は冬季五輪開始（1924）後の初の夏・冬両季開催都市の栄誉を得た。

第 128 回国際五輪委員会総会（2015.7.31，馬来西亜・吉隆坡）の開催地決定は，挙行経験（第 5 回，1952.2.14～25）が有る奥斯陸（諾威）も，同じ氷雪運動が盛んな北欧の斯徳哥爾摩（瑞典）も，財政難を懸念する市民の反対で立候補（前者は 1 次選考通過）後に撤退した故，招致競争で初めて欧米勢不参戦の二者択一に成り，五輪の第 2 の百年期の異変を思わせる。

北京が 44 対 40 票の僅差で中央亜細亜の阿拉木図（哈薩克斯坦）に辛勝した結果は，2008・10 年の夏季五輪開催・中国の世界 2 位の経済大国への上昇に負う処が大きい。自然の雪に恵まれる対抗馬が人工雪に頼る勝者に振り切られた要因は，石油・天然瓦斯への依存度が高い小国（人口 165 万）の不安定・脆弱に在り，準超大国の後ろ盾を持つ相手に及ばなかった。

開催決定に一番快哉を叫んだのは習近平に違い無く，何しろ国家主席 2 期目（～2023.3）在任中に自ら歴史的な開会宣言が出来る。日本流の「来年の事を言うと鬼が笑う」感覚や単年度主義からすれば，1 期目の半ばに 2 期目の終盤を見通す事は違和感が持たれようが，当時から国家主席の任期制限撤廃や党首3期目続投を目論んでいたとしても可笑しくない。

1 切れの肉を口に銜えながら 2 つ目を箸で挟み，皿の中の肉を睨む様な劉伯承の貪欲は，1 期目の内に 2 期目に手を伸ばし 3 期目へと目を配る同時多発の追求にも置き換えられる。「4.8 空難」の王若飛を悼んで常務副総理として支えて欲しかったと言う周恩来の本音も，内戦前から内戦突入→政権奪取→自分の総理就任・閣僚任命権所有を想定した物である。

周は更に3年半前の1942年冬，重慶で宋慶齢邸の茶話会に出席した時，宋が飾りの稲穂を五穀豊穣の象徴と称えたのに共鳴し，国家が人民の手に戻れば我々はこの穂を国章に画くと語った。抗日戦争中の国共合作下の弱小傍流に関らず天下取りまで見据えた意欲と成算は，習もその伝統を受け継いでいるなら政権転覆を伴わない制度の変革は何でもない。

中国人の肉食系の傾向を体現する様に，毛沢東も廖承志も肥満に拘らず妻の制止を無視して「肥肉」（肉の脂身）を好んだ。据え膳を表す「送到嘴辺的肥肉」（口元に送り届けられた脂身の肉）等の様に，中国語の「肥肉」は利得や旨い汁の形容に用いる。習近平は前任と自分の代の治世を比べて，「肥肉」が食べ尽くされ骨（難題）しか残っていないと零（こぼ）した事が有る。

北京の慶豊包子舗（肉饅屋）で庶民的な食事を取る一幕（2013.12.28）の様に肉好きの彼は，第1期に腐敗一掃・政敵排除を兼ねて，徐才厚・周永康（前政治局常委，1942.12.3生）・令計劃・郭伯雄を粛清した（党籍剥奪＝14.6.30，同年12.5，15.7.20，同月30）。負の遺産の処理が一区切りした翌日の北京冬季五輪開催決定は，自ら調理した美味しい御馳走の様に思われる。

1940年東京五輪の返上と共に，紀元2600年記念日本万国博覧会（同年3.15～8.31予定）も延期が決り幻に成った。1964年東京五輪の8年後の日本万国博覧会（大阪府吹田市，70.3.15～9.13）は亜細亜初で，翌々年の札幌（北海道）冬季五輪（72.2.3～13）は亜細亜・有色人種圏・島での第1号で，26年後の長野（県・市）冬季五輪（98.2.7～22）は歴代の最南地域で行った。

日本は2005年万博（愛知県，3.25～9.25）と直近の東京夏季五輪で，亜細亜雁行型高度成長の先達の貫禄を示した。韓国は初東京五輪に24年遅行した漢城（ソウル）夏季五輪（1988.9.17～10.2）の5年後，同じ亜細亜2回目の大田（テジョン）（直轄市）万博（大阪万博の23年後の93.8.7～11.7）を開催し，更に四半世紀後（札幌・長野の46・20年後）に同2回目の国で平昌冬季五輪を挙行した。

北京の2000年五輪開催申請は第99回国際五輪委員会総会（摩納哥（モナコ），1993.9.23）の投票で，第1～3回（土耳古（トルコ）の伊斯坦布爾（イスタンブール）・独逸の伯林・英国の曼徹斯特（マンチェスター）が順次落選）とも1位だったのに，2・7・3票差で抑えた濠州の悉尼（シドニー）との一騎打ちで43対45の逆転負けを喫した。人権・環境問題の国際的な不評の所為で，中共建国51周年時閉幕の異邦開催（9.15～10.1）を許した。

日本の近代文学の起点と成る二葉亭四迷（小説家・翻訳家，1864.4.4～1909.5.10）の長篇『浮雲』（87・88・90年に第1・2・3編）の初刊行（金港堂，6.20）の31年後に，魯迅の短篇『狂人日記』（『新青年』1918年4巻5号，5.15）が中国の現代（＝日本流の近代）文学の第一声を上げた。其々59年後に始まった戦後文学と「文革」後文学も，各10年の間に似た趨（すう）勢が見られる。

敗戦の廃墟から「第1次戦後派」→「第2次戦後派」→「第3の新人」が現れた展開と，復興期の「傷痕文学」→「反思（反省）文学」→「尋根（［民族文化の］根（ルーツ）探し）文学」の潮流は，戦争・「文革」の破壊→再建の共通性や20世紀の激動・受難の宿命を認識させる。両国の発展も日清戦争（1894.7.25～95.4.17）に由る力関係の逆転後，1/3世紀程の落差が随所に有る。

明治維新（大政奉還［1867.11.9］・王政復古の大号令［68.1.3］・五箇条の『御誓文』発布［4.6］等）の

31～30 年後に，同じ立憲君主制に由る近代化を目指す中国の政治改革派が「戊戌（ほじゅつ）変法（制度改造）」運動を起した。光緒帝（愛新覚羅・載湉（てん），1875.2.25～1908.11.14 在位，71.8.14～同前）の『明定国是詔』発布から保守派の政変まで，103 日（98.6.11～9.21）で終る「百日維新」と成った。

変法の失敗で光緒は中南海の瀛（えい）台に幽閉され，推進者の康有為（維新派領袖・思想家，1858.3.19～1927.3.31）・梁啓超（同・学者，73.2.23～29.1.19）は日本に亡命し，新政に参与した譚嗣同（政治家・思想家，65.3.10～98.9.28）等「戊戌六君子」が刑場の露と消えた。中共政権の国号・国都・紀年・国歌・国旗決定は，近代史上初の改革者に対する処刑の 51 周年時に巡り合せた。

院政で政権を専らにした慈禧（西）太后（葉赫那拉氏，1835.11.29～1908.11.15）は光緒の翌日に歿し，廃位同然の帝は彼女（又は袁世凱・李蓮英［宦官総管，1848.11.12～1911.3.4］）に毒殺されたと言う。君に親政を促した珍妃（1876.2.27～1900.8.15）を殺しただけに彼女の指図の可能性が高いが，「11.14・15」の連環は 113・114 年後の谷開来毒殺犯行・習近平党首当選と重なる。

西太后は居所再建（1884～95，完成後「頤和園」に改称）の為に北洋艦隊整備の予算を流用し，対して明治天皇（睦仁，1852.11.3～1912.7.30，67.2.13 即位）は，軍事費調達の為 6 年間内廷費 30 万円ずつ下付，官吏の俸給 10 分の 1 を製艦費に差し出す旨の勅命を下した（93.2.10）。軍備増強の温度差の結果，翌年の黄海海戦（9.17）で北洋艦隊が日本の連合艦隊に大敗した。

日清戦争は豊島沖（朝鮮半島西岸）海戦（1894.7.25）で勃発し，宣戦布告（8.1）は 33 年後に中共建軍の日と成った。翌年の日本完勝（4.17『日清両国講和条約』調印，11.30 台湾平定）後，亜細亜最強国は入れ替った。5 年後の 8 ヵ国連合軍（出兵数順で日本・露西亜・英国・仏蘭西・米国・独逸・墺太利（オーストリア）－洪牙利（ハンガリー）帝国・伊太利）侵攻で，列強入りの実力で再び没落の老大国を痛み付けた。

義和団の乱から公使館・自国民を保護する名目での北京攻略（6.11～8.15）は，光緒帝・西太后の西安への逃亡と不平等条約調印（『中国と 11 ヵ国間の 1900 年動乱に対する賠償の最終協定』，01.9.7）の戦果を上げた。北京占領の 45 年後に日本はポツダム宣言（米・英・中首脳，7.26［8.9 ソ連追加］）受諾（前日）を発表し，無条件降伏の敗戦国として戦勝国の中国と再逆転した。

「もはや“戦後”ではない」（経済企画庁『昭和 31 年年次経済報告書』［1956.7.17］の題）の頃から，1 人当りの実質国民総生産（GNP）が戦前を超えた日本は，朝鮮戦争で消耗した中国への優位を取り戻した。同じ敗戦国の西独は前年に英国を抜いて世界 2 位の経済大国と成り，日本は東京五輪と大阪万博の中間点（1968）に追い越し，42 年後に中国に譲った後も発展の落差が有る。

日本の海外渡航自由化（1964.4.1）と中国の団体海外旅行解禁（97.7.1）の時間差（タイム・ラグ）が好例で，昨今の世界中の中国人観光客の爆買は外国で大挙に買い漁った昔の日本人の足跡をなぞる。中国の民間債務対名目域内総生産（GDP）比率の近年の推移と危険水域への突入（2016.3 の 200％超）も，日本の泡沫（バブル）経済崩壊（1991.3～93.10）前（89.9 同）と 26.5 年差で不気味な瓜二つに成る。

総人口に占める 65 歳超の割合も 1970～87 年の日本と 2000～17 年の中国は重なり，各起点の高齢化社会への突入（目安の 7％辺りの 7.1・6.9％）を経て，中国の加速で 21 年の 13.1％

対 91 年の 12.3％と差が開いたが，26～27 年（国連の低位推計値）には再び 30 年前の日本に近付き，35 年の 21％（超高齢社会の入り口）の見通しも 05 年の日本の 2 割と余り変らない。

世界銀行（1946.6.25 発足）が『東亜細亜の奇跡――経済成長と政府の役割』（93.9）で称えた 65 年以降の東亜の高度成長は，「昇龍」日本が先頭を飛び，「4 小龍」（亜細亜新興工業経済地域（NIEs）の韓国・台湾・香港・新嘉坡（シンガポール））が後を追い，「4 小虎」（東南亜細亜諸国連合（ASEAN）［67.8.8 設立］の印度尼西亜（インドネシア）・泰（タイ）・馬来西亜（マレーシア）・比律賓）に波及したが，報告書の発表後「巨龍」中国が著しい飛躍を遂げた。

中国の初五輪開催は招致の失敗で順当な対日本比 36 年遅れより更に 8 年延び，韓国にも 20 年の差を付けられた。2 年後の初万博（上海，2010.5.1～10.31）は日・韓の 38・17 年後に縮まり，初冬季五輪は韓国の次期に続き，日本とは回数が半分，時期も大差（50・24 年）が有るが，「後来者居上」（後から来る者は上に居る）の下剋上で 1 都市両季開催の記録を作った。

「呪われた大会」前の不祥事密集暴露，5 大禁忌の常識，醜い悪行・逸脱の国辱

北京冬季五輪開催決定の直前，佐野研二郎（印刷視覚情報図案設計者（グラフィック・デザイナー），1972.7.29 生）作の 2000 東京五輪・国際身体障害者競技大会（バラリンピック）（8.25～9.6 予定，翌年 8.24～9.5 実施）公式標章（エンブレム）の盗作騒動が起きた。御披露目（2015.7.24）後に白耳義（ベルギー）の劇場名称図案（ロゴタイプ）との酷似や複数の盗作疑惑が浮上し，当人・組織委員会の苦しい弁解も世論と海外発の訴訟に抗し得ず撤回と成った（9.1）。

開催 5 年前のこの 1 件は「呪われた大会」の不祥事の前奏に過ぎず，予定通り開催の当否の判断が迫られる時期に，両大会組織委会長の森喜朗（1937.7.14 生）は日本五輪委員会（JOC）臨時評議員会（2020.2.3）で，首相時代（00.4.5～01.4.26）も含めて懲りない剽軽な失言癖で女性蔑視の冗句（ジョーク）を飛ばし，国際五輪委員会の批判まで浴び 9 日後に痛恨の辞任で退場した。

延期決定後に開閉会式の準備は一時停止を経て再開し，演出を受注した電通（広告代理店最大手）は総合統括の MIKIKO（演出振付家，本名水野幹子，1977.8.11 生）を，無断で自社出身の佐々木宏（広告制作演出家（クリエイティブ・ディレクター），54.10.18 生）に交代した（12.23 組織委発表）。MIKIKO は半年放置後の新体制下の部分参与を辞退し（11.9），不誠実な処置を巡る対立で和の雰囲気が損われた。

佐々木は演出集団（チーム）に送信した渡辺直美（お笑い芸人（タレント），1987.10.23 生）登場の創意（アイデア）として，体形を揶揄し五輪に非礼でイスラム教徒の食の禁忌に触れる「オリンピッグ（pig（豚））」を提案した。「文春砲」（2016 年新語・流行語大賞候補。10 傑（ベスト・テン）入賞の「ゲス不倫」が『週刊文春』の醜聞暴露の産物）に由り，翌朝（21.3.18）謝罪・辞任し，完成間近の故に後任を充てない事態と成った。

組織委発表（7.14）の開会式作曲担当に小山田圭吾（音楽家（ミュージシャン），1969.1.27 生）が居た事で，小学生時代の虐めの自慢話（94・95 年音楽誌掲載）が問題視された。彼は謝罪し組織委は翌 17 日に現在は高い倫理観を有すると容認したが，『五輪憲章』（1925.5.27）の差別撤廃の宗旨に反する言動は社会の寛恕が得られず，19 日に辞任し冒頭の 4 分間の音楽は差し替えられた。

開閉会式演出役職１番手（式典演出家）の小林賢太郎（劇作家・演出家，1973.4.17 生）は 21 日夜，喜劇俳優時代の諷刺・諧謔寸劇（98）の「猶太人大量惨殺ごっこ」の例示が網上騒動を起した。中山泰秀（防衛副大臣，1970.10.14 生）の通報に由り，猶太人大量虐殺記録保存・反猶太主義監視を行う国際非政府組織（本部＝米・羅府）が抗議し，一撃で翌朝に解任された。

猶，関連行事に参加予定だったのぶみ（絵本作家，本名斎藤信実，1978.4.4 生）は，自伝に記した昔の教師虐めへの批判が相継いだ為，20 日までに主催の組識委に辞退し了承された。開会式の演劇に出演予定だった竹中直人（俳優，1956.3.20 生）も，喜劇俳優時代の映像作品（85）の視覚障害者を嘲笑う内容が拡散・非難され，悪影響を避ける当く直前に辞退した。

初日の３大紙朝刊の１面上段に出た小林解任の記事は恰好が悪く，『マルコポーロ』（文芸春秋社，1991.6.1 創刊）の筆禍事件が甦る。猶太人大虐殺を否定する西岡昌紀（内科医，1956 年生）論文の掲載（95 年２月号）で，猶太人団体（今回と同一）・以色列大使館の抗議や外国企業の広告出稿停止に遭い，編集長解任・雑誌廃刊（1.31）と社長辞任（2.14）の結末を迎えた。

花田紀凱編集長（1942.9.13 生）は『週刊文春』編集長（88～94）時代に，「皇后非難」の誹りを意に介さず「菊の窓掛」に切り込み宮内庁の抗議も出たが，外国に関る歴史認識の禁域の不可侵度は自国に限る皇室の威厳の聖域の比ではない。問題作でも有り得ない題目として却下する設定と成るが，不謹慎な「～ごっこ」（真似をする遊戯）は情状酌量の余地が無い。

劇曲『愛の渦』（三浦大輔［劇作家・演出家，1975.12.12 生］脚本・演出，2006，第 50 回岸田國士戯曲賞受賞）を改編した映画（当人監督，14）で，裏風俗店で乱交する男女の緒戦後の休憩時の本音吐露で，臨時雇いの男が先刻に交媾した契約社員の陰部の強烈な異臭（「超まんこくせえ」）を他者に吹き込むと，既婚の営業員が「マン臭事変」と洒落に成らない駄洒落で突っ込んだ。

「まんこ / おまんこ」（女性器 / 女性器，又性交を表す俗語）は放送禁止用語（曾て公共放送で Oman［亜剌比亜半島東南端の首長国］の地名「オマーン湖」を取り上げる際に，目の不自由な視聴者への配慮よりも品位を重んじて字幕で表示し，「御覧の湖」で糊塗したと言う）で，略語を用いた件の卑猥な冗句は「満州事変」に引っ掛けた故，日本加害・中国被害の破壊・苦痛の歴史の禁忌に触れる。

国際社会で他者と関る時の禁忌の話題には，①相手の国・民族・人種・個人の尊厳を傷付ける言辞，②排他的な宗教の主張，③対立の危険を孕む政治の議論，④品位が疑われる猥談，⑤生理的な不快感を与える事柄（汚穢・病状等）が有る。害の大きい順の首位の中でも，過去の侵略側や宗主国の人の被害側や植民地の人に対する正当化や優越感の発露が特に酷い。

18 歳未満の観賞を禁じる映画『愛の渦』は，完全着衣の場面が 15％（123 分中 18 分半）しか無く，性欲を剥き出す面々は前・後戯として臆面無く色事談義に興じる。異端の性戯に耽る異色の好色者に倫理を求めるのは場違いであるが，彼等の赤裸々な無礼譚（「無礼講」に擬えた造語）以外にも，①④⑤を兼ねた不謹慎極まり無い例の成句は電脳網に膨大な数で出る。

満州事変 72 周年の前々夜～当日（2003.9.16～18），大阪の改築・改装会社 K（1992.12 設立）

の社員慰安旅行参加者（380 人）の内の相当数が，広東珠海市（経済特区）で大々的に集団買春をした。中国の朝野とも国恥に激怒し，外交部の日本への厳重抗議，売春斡旋の中国人への厳罰（2 人が無期懲役），日本側の 3 人への国際指名手配等，外交問題にまで発展した。

K 社は 2005 年に高齢者を食い物にする詐欺営業の悪徳業者として再び世間を騒がせ，終戦 63 周年時（08.8.15）に京都地裁が元社長等 4 人を懲役（4 年 6 ヵ月～3 年，実刑）に処した。日本の「国家の品格」（藤原正彦［数学者・お茶の水女子大学教授，1943.7.9 生］の著書［2005］題）の毀損は，この様に他者や他国に恥辱を与え自分の汚辱に無自覚な輩の悪行や愚行で加速される。

2003 年 8 月 4 日，黒龍江斉斉哈爾（チチハル）市の建築現場で旧日本軍の遺棄化学兵器に由る毒瓦斯が漏出し，建国後の同種事件の最大の被害（死・傷各 1・42 人）を齎した。戦争の遺物は歴史認識を巡る両国間の不協和音と相俟って怨念を喚起し，翌月の珠海集団買春事件で一般人を対象とする嫌日感情が刺激され，又その翌月に民間人同士の文化摩擦が飛び火を広げた。

西安の西北大学（前身 1902 年創立，12 年改称）の文化祭（10.29）で，日本の同じ古都の大学の男子学生が乳押（ブラジャー）えを着け擬似（ぎじ）性器の紙杯（コップ）を股間にぶら下げて寸劇を演じた。背中の札や見せた紙の文字（「日本 / 中国 / ♡（ハート）」「寿司 忍者 毛沢東 謝謝（シェシェ）［有難う］日中友好 看什麼［何を見ている］」）は善意を窺わせるが，無邪気な恰好や意味不明な奇声が卑猥・乱痴気の印象を与えた。

翌日に同大学・同市で学生の抗議示威が起り，学長に由る学生除籍・日本人教員解雇の決定後も収まらず，31 日に市内全大学は暴徒化の恐れから閉鎖された。反省文を提出し強制帰国と為った 3 人の若者（20～21 歳頃）に就いて，先般の集団買春醜聞に対し遺憾を表明した川口順子外相（1941.1.14 生）は，翌日（11.4）に現地の風習に対する無知・無感覚を咎めた。

沙翁（シェークスピア）（英国の劇作家・詩人，1564.4.26～1616.4.23）の劇を披露する欧米の留学生と，志村けん（喜劇俳優・お笑い芸人，1950.2.20～2020.3.29）風の物真似を行（や）る彼等の品格差は歴然である。演芸会は学習成果の披露や自国文化の紹介の場で，下らない即興は白眼視される。無自覚の自作自演の出し物で自爆した新成人は，自国の低俗文化に由る自家中毒の被害者と言える。

歴史的事件・人物は全て 2 度繰り返される，というヘーゲル（独逸の哲学者，1770.8.27～1831.11.14）の論断に，マルクス（独逸の経済学者・思想者・革命家，1818.5.5～83.3.14）は，1 回目は悲劇，2 回目は茶番（喜 / 笑）劇としてと付け加えた（『ルイ・ボナパルトの霧月（ブリュメール）18 日』，52）。遺棄兵器致死・集団買春に続く 3 度目の感情悪化は，東京五輪騒動と通じて笑劇的である。

露悪笑劇の衝撃，日中文化摩擦全面多発元年，当代日本の劣化と「平和惚け」

森喜朗は笑いを取って座を持ち上げる為の失言で，女性の尊厳を無視すると糾弾された。佐々木宏は観客を喜ばせる当くお笑い芸人に豚の形象を与えようとし，同じ不快を招いた。小林賢太郎が猶太人大虐殺を諷刺の素材にし，竹中直人が視覚障碍者を嘲笑した過去は，

倶に喜劇俳優時代の寸劇や映像作品の中の事で，禁忌①を破った笑劇の衝撃は全く笑えない。

のぶみは女性教師に腐った牛乳を飲ませ，高校時代に暴走族の総長であったと告白し，昔の不良で今の成功を引き立てて名声欲求を満たしたい心理が指摘される。小山田圭吾が嬉々として語った武勇伝も不純な動機の有無に関らず，虐めの被害者を実名で明かす不見識，「オナニーさしてさ，ウンコを喰わしたりさ」等の下劣・不潔には，目を掩いたくなる。

最初に虐めを載せた『ROCKIN'ON JAPAN』（1985 年創刊，月刊）はこの件で，趣旨（「シリアスなロックをシリアスに語る」）中の serious の両義（真面目 / 厳粛な様。深刻 / 重大な様）を現した。次の『Quick Japan』（1994 年創刊，隔月刊）は東京五輪の直前，27 年前の小山田面談取材（第 3 号の『いじめ紀行』連載）の問題化で，謝罪し次号（8 月予定の No.157）の販売を休止した。

日本では蜚蠊や便器が出る放送広告は嫌悪感を避ける為に，食事の時間帯には流さない。音楽・音楽家は情感・形象が売りと成るのに，糞・害の吹聴に憤慨せず寧ろ楽しむ専門誌・読者が居る事は信じ難い。小山田は降板後に未熟・軽率を反省した上で当初の記事の一部を否定したが，人の道に反する話を面白く可笑しく盛るのは日本的な自虐・露悪に帰す可きか。

満州事変後の西安事変（1936.12.12，張学良［張作霖の長子，西北剿匪副総司令，1 級上将，01.6.3～2001.10.14］・楊虎城［西安綏靖公署主任，2 級上将，1893.11.26～49.9.6］麾下の旧東北軍・西北軍［第 17 路軍］が，中共軍討伐の督戦に来た蒋介石を監禁して内戦停止・団結抗日を迫る）を捩って，日本流の卑猥寸劇が抗議を招き蒋生誕 116 周年時（10.31）に極まった騒動は，西安変事と名付けられよう。

留学生 3 人組が数分間も只管ハッハッハッと笑い声を発し続けた光景は，外国語学習の初級段階の「単純・限定・反復」の要領と妙に合うが，日本で高い視聴率を取る煽情的・怪奇・無意味の奇行・醜態に他ならない。重厚長大を好み軽薄短小を嫌い，起承転結を求め 1 発爆笑誘発怪奇言動が受けない中国では，そのいい加減な即興は呆気無く自滅した訳である。

不真面目な虐め談義を売り物にした音楽誌が標榜する serious の「厳粛・重大」から，「厳粛な綱渡り」（大江健三郎［小説家，1994 年ノーベル文学賞受賞，35.1.31 生］の随筆集［65］題）を連想する。2008 年北京五輪開会式の出演集団の閲兵式行進隊列並みの一糸乱れぬ振る舞い方は，後の東京五輪開会式の現・元お笑い芸人多数起用計画と対照的に厳粛な綱渡りの観が強い。

相手国の風習・習慣に十分な理解を持って行動するのは留学生として当然だ，と川口外相が卑猥寸劇変事に辛辣な寸評を加えた 1 ヵ月後（12.4），日本企業の雄（株式時価総額 1 位）を成すトヨタ自動車（1937.8.28 設立）は，中国で 11 月から販売を始めた現地合弁生産の車種の雑誌広告に就いて，民族感情を傷付けたとの批判を受け入れて謝罪し掲載を取り止めた。

体育型多目的車のランドクルーザー（中国名「陸地巡洋艦」）が中国の旧型貨物自動車を牽引している図案，ランドクルーザープラド（同「霸道」）が石造りの獅子の敬礼を受ける図案が問題視された。前者は新旧・優劣の対比で中国を見下し，後者は盧溝橋の欄干に大小 502 個も有る伝統文化・権勢の表徴から同地での日中戦争勃発を連想させ，何れも禁忌に触れた。

「覇道（bàdào）」は「武力･刑罰･権勢に由る支配」（日本語と共通）と「横暴に振る舞う」の両義で，1字の声調が異なる「覇道（dào）」は「猛烈。きつい」意である。関連の「覇気（qì）」（横暴･専横）も，肯定的な和製語義（①覇者を目指す気概。積極的に立ち向う意気。勝気。②山気。野心）と違う。「覇道（dào）」は「横行（横柄・横暴）～」の4字熟語の様に，元より威圧や悪辣の形象が強い。

豊田車の中国語を用いる惹句（キャッチ･フレーズ）には日本企業の中国向け広告の最高傑作も有り，その「車到山前必有路，有路必有豊田車」（車が山の前に到ると必ず路（みち）が有り，路が有るところに必ず豊田の車が有る）は，覇気満々な誇大宣伝の様でありながら，前半で中国の熟語（下の句は「船到橋頭自然直」［船が橋頭（はしのたもと）に到ると自然にまっ直ぐになる］）を巧みに用い，中国人を唸（うな）らせ又擽（くすぐ）らせる。

考案者の八木章（生年未詳）は電通入社（1980）後に社内で0.1％程の中国語使い手として，広告業再開が間も無い中国でのトヨタの新聞広告の表現を捻（ひね）り出すよう先輩に頼まれた。その台湾留学中に使っていた成語辞典を渡され，中の文句を巧く改編（アレンジ）するよう助言された。偶々（たまたま）開いていた頁に例の対句が載っており，彼は天啓の閃でき3分も掛らず即座に出来た。

障碍に当っても絶対に道が開き，難関に差し掛っても自ずと通り抜ける，という人生訓の神通力を借りた名科白は，発表（1982）後40年経っても語り継がれる。電通は前身の日本広告の創業（1901.7.1）54周年時に改称したが，21年に成立し「7.1」を「党慶日」にする中共と此処で繋がり，他方，「1大」開幕100周年時の東京五輪開会式の電通人（マン）統括が消えた。

「日中文化摩擦全面多発元年」と言える2003年の集団買春・卑猥寸劇に次ぐ「覇道」宣伝は，21年前の金字塔的な名作と比べて昭和に対する平成の退化を感じさせる。電通創立120周年の前日にソニー（1946.5.7前身［東京通信工業］創業，58.1改称，時価総額2位）が予告した新製品発売も，盧溝橋事変84周年の「7.7」が中国で地雷を踏み2日に中止と成った。

村西とおる（成人向け映像作品（アダルト・ビデオ）監督･実業家，本名草野博美，1948.9.9生）は反米感情を込めて，真珠湾上空で零式艦上戦闘機の攻撃航路（コース）を辿って機内性交場面（シーン）を撮影し実芭蕉（バナナ）を投下した。45年前の汚辱を想起した米国側は赤裸々な挑発と見て100人の捜査隊で逮捕し（1986.12.5），作戦暗号名（オペレーション･コード）“TORA・TORA・TORA”は日本軍が攻撃開始を伝えた電信の暗号略号である。

2罪（旅券法違反，売春・不道徳の為の女性に対する州間・国際間移動）の一行16人分を被る形で，彼は懲役370年の求刑を受けた。罰金・弁護費用等で1億円を使い司法取引で釈放された（1987.6.9）。生還後の自叙伝『村西とおるの挑戦状 ナイスですね』刊行（JICC出版局，同年12.8）は，露骨な懲罰への意趣返しの様に「トラ！トラ！トラ！」発信の46周年時に当る。

北京朝陽区市場監督管理局はソニーの中国法人に対し，国家の尊厳を損ねたとして100万円（1778万円）の罰金を科した（2021.10.18まで）。日清食品（1948.9.4前身「中交継社」創業，58.12.1改称）に由る世界初の即席麺（インスタント･ラーメン）発売（71.9.18）は国内向けの故，満州事変40周年の時機が渉外事件に成り得ないが，両国共通の七夕（たなばた）は今回の「政冷」期の中で敏感であった。

俵万智の「七月六日はサラダ記念日」は特別の意味が無い日を記憶に留める発想に由り，

男友達（ボーイ・フレンド）の褒め言葉を引きつつ恋愛の形象が濃い「7.7」の前日に設定するのも妙味（ミソ）である。東京五輪開催年に現れたソニー・小林賢太郎の対外禁忌未回避は新人類の感覚よりも軽く，57 年前の東京五輪開催時の日本と比べられない程のだらしなさで深刻な劣化を物語る。

件の『戦後世界史最大のタブーに挑む / ナチ「ガス室」はソ連の捏造だった』は 1 月 17 日，同日発売の『MARCO』の広告の一部として 3 大紙（『讀賣 / 朝日 / 毎日新聞』）の朝刊に出た。阪神・淡路大震災（5 時 46 分，全体規模（マグニチュード）7.3，6434 人犠牲）の電視（テレビ）報道に目を奪われた人が多く，爆弾記事の後に付く域外関連の異説が激震・破局を惹起するとは，誰も予想できなかった。

前（2 本目）の『緊急特集　松本サリン事件急展開！ / オウム真理教に「毒ガス疑惑」』（江川紹子［報道人, 1958.8.4 生］）は, 翌々月の東京地下鉄車内サリン（神経瓦斯）使用多数殺人事件（3.22, 14 人歿，5 千人超負傷），世界史上初の平時の大都市で化学兵器を使って大量に殺傷したオウム真理教（新興宗教団体，87.7［登記上は 8.27］発足）教団本部への強制捜査（22）で新証拠を得た。

関東大震災（1923.9.1，M（マグニチュード）7.9，死者・行方不明者 10.5 万人）以来の損害を齎した大地震の惨状は, 村山富市首相（第 87 代［94.6.30～97.1.11］, 24.3.3 生）が夕刊を見て漸く緊張感を覚えた。警察庁長官（國松孝次，1937.6.28 生）狙撃事件（3.30，重傷・瀕死，15 年後時効成立，未解決）で，安全も水と同じ無償・無尽の様に思い込む日本人の「平和惚け」は完全に打ち砕かれた。

東京都知事選（4.9）の勝者青島幸男（作家・政治家，1932.7.17～2006.12.20），次の石原慎太郎（第 14～17 代［99.4.23～12.10.31］，32.9.30～22.2.1）・猪瀬直樹（作家，46.11.20 生）・舛添要一（国際政治学者・政治家，14.2.11～16.6.21 在任，48.11.29 生）も，第 6～8 代（67.4.23 より 12 年）の美濃部亮吉（マルクス経済学者・政治家・教育者，04.2.5～84.12.24）も，文学・学問の香りが高い。

同日の大阪府知事選は陽気な府民性が現れる様に，横山ノック（漫才師・お笑い芸人・政治家，本名山田勇，1932.1.30～2007.5.3）が当選したが，新記録の高得票に由る 2 期目（第 49 代）続投の 8 ヵ月後，強制猥褻の責任を取って辞任した（99.12.22）。悲惨な結末（賠償金 1100 万円支払い，懲役 1 年 6 ヵ月・執行猶予 3 年，芸能界追放）は，華麗な経歴・絶大な人気と落差が大きい。

彼は就任（4.23）後の『知事の履歴書――横山ノック一代記』（太田出版, 7.3）の青春回顧で，17 歳時に勤め先の神戸の米軍兵営（キャンプ）で R. アリアン少尉に童貞を奪われた事を赤裸々に記す。10 歳近く上の彼女から玩具（おもちゃ）にされ体を重ねる内に互いに恋情が涌き，相手が部下の軍曹と結婚した後も逢瀬（おう）を楽しみ，帰国の際に共に悲涙を流した，と甘美・感傷を交えて綴る。

衝撃的な筆下ろしを経て米国式の愛撫が濃厚で会話が途切れない性技を徹底的に仕込まれ，英語力も飛躍的に上達したと恥も外聞も無く吹聴する処は，前年に小山田圭吾が他の生徒に排泄物を食わせ自慰を強要した過去を得意気に告白した事や，前後の竹中直人・小林賢太の喜劇俳優時代の不適切な表現と併せ考えれば，東京五輪騒動の特徴の一端が窺われる。

両国の「東方礼義 / 儀の邦」，異例尽めの王女降嫁，暗部不明・身上不問の代償

愉楽を求める大衆の普遍的な欲求と日本の社会・文芸の平和・繁栄を反映して，日本テレビ系列の演劇娯楽番組『笑点』（1966.5.15 発足，毎週日曜日夕方）は，演劇・娯楽番組放送期間の日本最長記録（毎日テレビ系列の『素人名人会』，60.5.8～2002.3.17）を大幅に塗り替え，56年（22.5.15，2810 回）の実績を見れば同範疇初の百年長寿も夢ではなさそうな感じがする。

国語辞書に収録されない名称は『氷点』に擬えた物で，義理の兄妹間の恋情を描き原罪を主題とする三浦綾子（小説家，基督教徒，1922.4.25～99.10.12）の長篇（『朝日新聞』懸賞入選作，64.12.9～65.11.14 連載）の大成功（破格の賞金 1 千万円），電視劇（テレビ朝日，65.1.23～4.17）の高視聴率（全 13 話平均 3 割超，最終回は同局 60 年代最高の 42.7%）に肖る趣向が上手く行った。

『笑点』の「売点」は愉快な気分を誘う軽妙な言葉遊びであるが，「諧謔」の字面に含まれる「皆・虐」は全員参加の「虐め」合戦と妙に符合する。「性的嫌がらせ」「法令順守」「性的少数者」の概念の普及（其々 1989・2007・15 年に複数の新語・流行語賞で受賞か候補推薦）に伴って，悪巫山戯の人身攻撃も差別表現・猥談も世間の常識を憚って息を潜める様に成った。

国内向けの『笑点』は長年の伝統と出演者の個性に由って一定の許容が得られて来たが，中国・韓国と共に「東方礼義 / 儀の邦」を以て自任する日本では元より道徳的な潔癖が強く，競技の実力・緊張感と共に参加者の品格・道徳律が高度に求められるこの人類の盛典では，笑いを取る為の露悪・低俗・妄言が命取りの炎上を招く事は火を見るよりも明らかである。

蒼井そら（芸能人・女優，1981.4.26［長年の公称は 83.11.11］生）は，『笑点』発足 56 周年・沖縄復帰 50 周年時（2022.5.15）の出演番組（沖縄笑点 ABEMA『ABEMA 的ニュース』）で，絶大の人気が有る中国で成功する心得を披露した。その 3 ヵ条（「7・8・9 月は注意」「直前の取消には慣れるしか無い」「挨拶，時間通りに登場するだけで超感動される」）は，政治的な配慮が最重要と為る。

9 月に日本で網上「ライブ超楽しい！」と投稿したら中国で炎上した体験から，夏は日中戦争勃発の七夕も含めて両国間に政治絡みで緊張感が有るとした。「金鳥の夏，日本の夏」（大日本除虫菊［1885.1.8 創業］製蚊取り線香の謳い文句）を捩って，「緊張の夏，日中の夏」と「笑点」流に言えるが，外国や他者への緊張感の欠如が 2022 年夏の日本で衝突の渦巻を起した。

25～26・25・29 歳時の小山田・小林・竹中は，26～27・23・36 年後の大役が予測できないから軽率な言動を残した。想像を超える情報化社会の発達と「網民」の加勢に由って，本人の自覚や記憶も稀薄な過去の痕跡も簡単に発見・拡散・論評される。「一言既に出ずれば駟馬も追い難し」「覆水盆に返らず」と言う教訓は，その重い償いから痛感し得る。

1964 年東京五輪の際に日本では駅に痰壺を設置する等で，中国で今だに有る唾を吐く悪習が改善された。清潔好きの国民性に由る日本の人・環境の清潔感は，「軟実力」（外国に好感を与える文化力）の一部を成す。今回の続出し外交問題まで発展した汚点は言わば来る道に付いた唾の迹であるが，当人も身辺整理で禊を済ませず，起用者も身体検査・処置を怠った。

安倍晋三（第90・96～98代首相［2006.9.26～07.9.26，12.12.26～20.9.16］，1954.9.21～22.7.8）の長期政権の末期に，第4次内閣（第2次改造）発足（19.9.11）の翌月の25・31日，菅原一秀経済相（62.1.7生）・河井克行法相（63.3.11生）が選挙関連買収疑惑の報道で辞任し（後者は翌年6.18に逮捕，丸1年後に懲役3年実刑判決），醜聞・悶着（トラブル）を備（つぶさ）に掴める意識・能力の低さが露呈した。

「呪われた」五輪の予定・開催年の法相（第101代）初の逮捕・実刑懲役（2021.10.21確定）は，妻案里（1973.9.23生）の同期参議院議員選挙（第25回・通常，19.7.21，夫より23年遅く初当選）での公職選挙法違反・逮捕（夫と同日）・有罪判決（1年4ヵ月・執行猶予5年，21.1.23）・当選無効及び公民権停止5年（有罪判決確定の2.5）・自殺未遂（22.1.20）と対の不祥事に成る。

入閣候補に対する暗部調査の不充分は長らく再三指摘されて来たが，関係筋が一応行い完全無欠に成らずとも完全欠落ではない。「文春砲」で倒れた2人の入閣は史上最長在職（連続2822日，通算3188日）の首相の慣れと慢心や，五輪開・閉会式演出陣主力の寄せ集めと通じる仲良し集団（グループ）の感覚も有ろうが，より重大な無審査通過（フリー・パス）の悪い結果が新王朝に現れた。

秋篠宮文仁親王（皇弟・皇嗣［皇位継承順位1位］，1965.11.30生）は自由尊重の方針に由り，眞子内親王（第1皇女子，91.10.23生）と小室圭（法律事務所勤務，同月5日生）の婚約に就いて，相手は未来の天皇（第3子・長男の悠仁親王，同順位2位，2006.9.6生）の義兄に成ると分り切った上で，娘を全幅に信頼し皇族の慣例を無視して家族等の身上に就いて調査しなかった。

内定発表（2017.9.3）から間も無く，小室の母親と元婚約者の間の金銭を巡る紛糾，父親と祖父・母の相継ぐ自殺（翌週/年）等が週刊誌で続々と暴かれ，翌秋予定の結婚は情勢の変化で延期と成った（2.6）。秋篠宮は一連の情報を基に，多くの人が納得し喜ぶ状況でないと納采の儀（結納相当）を行えないと記者会見で述べ（11.22），態度の転換で愛嬢と不仲に成った。

眞子は生活拠点作りの要請に沿った圭の米国留学（2018.8渡航，21.5大学院修了）中，『お気持ち』（20.11.13）で結婚は2人の生きて行く為に必要な選択だと決意を表明した。7日後に秋篠宮は憲法が自由を保障した結婚の容認と共に，納采の儀の実施と切り離す考えを示した。天皇も民意を汲んで，多くの人が納得・祝福する状況を願った（2021.2.19の記者会見）。

圭は冗漫な文書（28頁・4万字）で紛糾を釈明した（4.8）が，非を認めぬ強弁は火に油を注ぎ，解決金に由る和解を拒む姿勢の急転換（4日後）も無定見と評された。9月の現地就職（法律事務所の法務助手）で経済基盤が整ったとして年内結婚が決った（『讀賣新聞』9.1独自報道（スクープ））が，皇族結婚の関連儀式も結婚式も皇籍離脱時の一時金（1.37億円）支給も行わない事と成った。

宮内庁発表（10.1）は26日成婚の予定と共に，眞子の複雑性心的（P）外傷（T）後精神（S）緊張障害（D）を公表し，両者・両家族への誹謗中傷と感じられる事が続く状況に耐え難いのを決断の動因に挙げた。小室眞子に成った入籍の日の会見で圭の留学・紛糾対処は自分が主導した事を明かし，夫妻が述懐を読み上げた後に事前質問で受けた衝撃を理由に回答文書を配布して退室した。

文仁親王・妃紀子（旧名川嶋紀子，1966.9.11生）は当日の論評（コメント）で晴れない気持を以て，予

期せぬ事態に由る異例の皇族結婚に就いて迷惑を掛けた人々に詫びると述べた。爽快な気分に浸る新婦と断腸の思いを抱く両親は3日後に，新郎の弁護士資格取得の為の司法試験受験（紐育州，7.27～28）の不合格の悲報で，満悦や安堵が吹っ飛んで大変な心労に苛（さいな）まれた。

一時帰国（9.27）中の圭は11月12日に母親の元婚約者と金銭紛糾報道後の初面会で，解決金（相手が請求した母子支援用の409.3万円）支払い（15日振り込み）に由る決着を確認した。眞子は祖父（母方）川嶋辰彦（経済学者，1940.4.20～2021.11.4）に別れを告げた後，14日に夫妻同行で念願の渡米を果し世界の金融中心都市の1部屋（ワン・ルーム）賃貸住宅で蜜月（ハネムーン）を楽しみ続けて来た。

秋篠宮は愛子内親王（天皇第1皇女子）の20歳の誕生日（2021.12.1）への配慮からか，前日の56歳の誕生日の記者会見を11月25日に済ませ30日の新聞に掲載された。その中で氏名を呼ばぬ「娘の夫」の例の長い文書説明には納得しておらず，久し振りの面会は20分程度で印象に残る事が無い，と冷たく突き放す言い方で公私倶に有る心残りを表した。

天皇は62歳の誕生日（2022.2.23）の2日前の記者会見で姪（めい）眞子の結婚に就いて，多くの人に心配を掛けた事を心苦しく思っていると語り，納采の儀と朝見の儀（降嫁皇族が単独で天皇・皇后に会い，祝福を受け別れの杯を交す儀式）等は，其々秋篠家と自分の判断で執り行わなかった，と関与を明言した。世間を騒がせ天皇を煩わした騒動は，斯くして只事（ただごと）ではない。

皇后雅子（元外交官，旧名小和田雅子）は4年前の誕生日（2017.12.9，54歳）文書で，眞子内親王の3ヵ月前の婚約内定を喜び，心から幸せを祈り，自分の皇室入り（1993.6.9成婚）時に1歳半余りだった女の子の立派な成長を感慨深く思うと記した。今回の同文書は1ヵ月半前の眞子結婚に全く触れず，皇室を揺るがす小室家発・秋篠宮家波及の乱の深刻さを物語る。

変化・変調・変事多き年の「小室劇場」，「防人之心不可無」「人善被人欺」

変化・変調・変事が多い2021年の日本では，東京五輪・首相交代・眞子成婚の3大見物が有る。最後に完遂した3番目は五輪1期以上の年数が有り，起因を成す親子と帰着に成る降嫁者の新規取得の姓氏，又「小泉劇場」（小泉純一郎首相［第87～89代，2001.4.26～06.9.26］，1942.1.8生］の激情に由る大衆煽動の劇場効果）に擬えて，「小室劇場」と名付けてみたい。

中国では長年の帝政と辛亥革命以降の共和制の違いに関らず，国民性に基づく思考・行動様式から「小室劇場」は発生の余地が無い。2021年に山場に達した平成（1989.1.7～2019.4.30）末～令和（19.5.1改元）初のこの連続劇（ドラマ）は，126代（一部非実在）続いて来た天皇・皇室の伝統と変容だけでなく，同年が歴史の節目に当る中国の現実及び古層との相異を映し出す。

両者は国際基督教大学（I C U）（1953.4.1設置）教養学部2・3回生時（2012.6），留学説明会で前後の席に坐ったのが馴れ初（そ）めである。文仁親王も学習院大学（同1949.4.1）法学部2回生の頃（85.4），構内の書店で新入生の川嶋紀子（文学部）と出会い，同好会（サークル）活動を通じて交際を深

め求婚（プロポーズ）（翌年 6.26）に至った。学友が赤い糸で結ばれる事は，中国でも自然な成り行きである。

紀子妃は父親が学習院大学教授で，同校の教職員共同住宅に住んでいた為，「3LDK の妃（プリンセス）」「一般家庭から誕生した灰被り（シンデレラ）の小娘」と称えられた。文仁親王も昭和天皇（裕仁，1926.12.25～89.1.7 在位，01.4.29～同）の意志に由り，皇族子弟が多く皇室と縁が深い学習院に入ったが，祖形（1877.10.17 創設の学習院）の華族中心の名残を嫌うのか子女に勧めなかった。

中共治下では「貴族学校」が有り，習近平等の要人子弟が通った特定の中・高校は，後継者育成の役割が有り優秀な一般人出身者も居る。学習院と似た性質の大学は無く，文・理系最高学府の北京・清華大学（1911.3.30 前身開校）が万人憧憬の進学先である。悠仁の 3 年後の東京大学（1877.4.12 創設）進学が予測されるが，日本の中国化の現れと捉える事も出来る。

眞子は慣例に従って学習院に進むなら圭との出会いが無く，一連の厄介な事とは無関係でいられた筈である。但し，婿候補に対する親の無審査承認の儘では，別の恋人の場合でも無危険性（ノー・リスク）とは限らない。当人同士の恋愛・結婚は自由で，親の賛成や他者の祝福が無くとも今回の様に貫けるが，予め禍根を発見し速やかに除去すれば残念な展開は回避できよう。

日本語の「何処の馬の骨」は素性（すじょう）の知れない者を罵る言葉で，「―とも分らぬ奴」の用例に「―にうちの娘は渡さないぞ」が可く知られる。広く婚約者（フィアンセ）を言う漢風和語「許婚（いいなずけ）」は，昔の意味（言い名付け。双方の親の合意で幼少時から婚約を結んで置く事。又その当人同士）が薄れたが，字面通り親の婚約許可は略し難く，大事に育てた娘を渡す親は自ずと軽易に認めない。

通過儀礼（人が一生に経験する誕生・成年・結婚・死亡等の儀礼習俗）に対応する冠婚葬祭の内，非婚で素通りできる結婚は最大級の慶事として，結納・挙式等の荘重・華麗な儀式が有る。求婚に続く相手の親への受諾要請は，日本では中国以上に重んじられる通過礼儀である。親の経験に基づく二重点検（ダブル・チェック）は有益の場合が多いが，今回は親が監督・助言の役目を放棄した。

両国共通の親の関心事は，相手の年齢・出身地・経歴・職業・人柄・健康・収入等と共に，育った家庭・環境も身元確認の重要な部分である。「有其父必有其子 / 此の父有りて此処に此の子有り」と言う様に，子供が親の強い影響を受けて育つとの認識から，家柄関係で特に父親が重視される。調査が掛らなかった小室家は幸い，父親は反社会勢力や犯罪と無縁である。

父と祖父・母の自殺を早く知っていれば，中国の親なら本人の自殺願望の有無を心配する。母親と元婚約者の間の金銭紛糾も早期に把握すれば，速やかな返済等で片付ける手が有る。娘に対する自由放任は自己責任を負わせる事でもあり，世故に疎い深窓の令嬢が主導した対処は結局，悪手が悪手を呼ぶ悪循環に陥り，自浄・自助を期待する関係者を失望させた。

桐野夏生（小説家，日本ペンクラブ［1935.11.26 創立］第 18 代会長［2021.5.25 当選］，51.10.7 生）は，衝撃的な長篇『燕は戻ってこない』（『すばる』19 年 3 月号～21 年 5 月号，22.3 集英社刊）で，北海道から上京した非正規労働者の独身女性（29）が極貧から脱出する為に，舞台舞踊劇界（バレエ）の「優秀純血種（サラブレッド）」たる男性（43）の妊娠不能の妻（44）の代理で出産する物語を織（お）り成す。

主人公が登録する電脳網上の卵子提供者募集情報集結所の入力項目は微に入り細を穿ち（「名前，住所，職業，血液型，身長，体重，靴のサイズ，既往症，持病，視力，髪質，膚の色，瞼は一重か二重か，喫煙歴，タトゥーやピアスの有無，パスポートナンバー，海外渡航歴，将来の夢，志願動機，学歴。そして両親と祖父母の既往症や職歴」），両親・祖父母の重要情報も当然ながら必須と成る。

連載初回時に始まった小説より奇なる実話として，東京在住の30代の女性経営者が夫（両者間10代の息子居り）の遺伝性難病の判明を受けて，電脳網上の会員制交流場所で精子提供者を募り，意中の男性（20代，東京の会社員）との性交渉に由り第2子を妊娠・出産したが，後に相手の国籍・学歴詐称に対して3.32億円の損害賠償を求める訴訟を起した（2021.12.27）。

訴状に記された電脳網試問の遣り取り（「国立大学卒とのことですが，どの大学ですか」/「京都です」/「主人が東大卒で同じような方を探していたので京都大学出身とのことで嬉しく思います」/「よかったです」）で，女性は学歴面で合格と判定した。本番交渉前の面談でも卒業証書の提示を求めなかったが，中絶可能の時期が過ぎた後に嘘（実際は静岡大学［1949.5.31設置］）だと判った。

双方への取材に基づく『週刊女性』2020年6月2日号の記事『SNS取引の危険，精子提供を「受けた女性」と「提供した男性」のドロドロ愛憎劇』に拠ると，女性は夫と同じ知能指数130超で，偏差値が頂上級の大学に入れる子供が欲しく，夫に内緒で非配偶者間人工授精を決意し，遺伝子検査さえしなれば発覚しない外見・血液型・知能を持つ精子が所望であった。

面接で性病・精神病の罹患歴・家系の遺伝病が無いと説明を受けた事から，新生児の健康を慮る母親の責任感と常識人の心構えも感じ取れる。出会いの翌月（2019.4）から成功の確率が高い性交を10数回した結果，芽出度く6月に懐妊が確認されたが，然る当き御役御免後の7～9月にも余分の肉体関係を続けた所為で，疑惑が浮上し衝突・決裂・裁判に至った。

彼女は11月頃に電脳網上対話で相手の態度が粗暴に成ったと感じ，若し犯罪者だったら取り返しが付かないと思って身元を調べた。勤務先（日本生命，姓を伏せて示した社員証で把握済み）の社員寮で訊き込みを行い，専門業者に調査を依頼した結果，本名・学歴・国籍（中国）・家族構成（既婚）を突き止めて仰天したが，素性の偽りに腹を立てても後の祭であった。

夫の公認が無い婚外性交渉は子作りの為と雖も不貞とされる恐れを孕むが，桐野夏生が描いた人工授精の苦痛を見れば手っ取り早い手段は理解できる。日本では婚姻か事実婚の関係に無い人工授精が出来ない故，夫は偽装離婚で代理母を法律上の妻にし，出産後に婚姻を解消して元妻を鞘に戻すとしたが，遺伝子継承の為の制限時間との闘いは悲壮を極める。

生れた子供に障害が有っても夫婦が責任を以て育てるという契約書の条項の通り，防げない僅かな危険性も周到な思慮で想定され対応の用意が有る。件の女性はその用心深さと比べて，国籍・学歴に拘りながら公的な証明の提示を得ない儘で自己申告を信じた。匿名提供で互いに個人情報を詮索しない約束だとしても，切迫の割には無防備の印象が持たれる。

度重なる通信・会話・合体にも関らず異邦人の正体に気付かなかったのも迂闊であるが，

日中国交正常化（1972.9.29）50周年前の民間人交流のこんな挿話（エピソード）は隔世の感を禁じ得ない。日本に10年余り居住し一流企業に勤め多国語を操る男性は出身大学の虚言が頂けないが，海外で同じ程度の活躍・融合が出来る同年代の日本人の少なさを思えば有能の部類に入る。

彼は「国立大学卒」「京都方面の大学」としか言わず国籍も訊かれなかったとしつつ，経歴をきちんと伝えなかった事に罪悪感も後悔も有ると表明し，相手が夫にばれて離婚し赤ん坊を養い難いなら，妻の承諾も得た親権を主張しても可いと述べた。女性は心身の不調に陥り第2子を都内の児童福祉施設に入所させ，勝算不明の巨額賠償請求の裁判に突入した。

京大卒の独身日本人でないと知っていれば関りも無いという主張通りなら，腹を痛めて産み養育を放棄する犠牲も裁判費用の負担も生じずに済む。不都合の真実を掴んで置かない代償は小室圭に対する秋篠宮の調査免除と通じ，同列に論じ得ない2つの特異な事件は其々2〜3年の発酵を経て，変事が多い2021年の最後の四半期に劇的な形で耳目を集めた。

中国では「害人之心不可有，防人之心不可無」（人を害する心は有っては行けず，人を警戒する心は無くては成らない），「馬善被人騎，人善被人欺」（馬は善良であれば人に扱（こ）き使われ，人はお人好し過ぎれば人に欺かれる）という警句の様に，他者を軽易に信用しない性悪説が昔から根強い。性善説を信じ他者への警戒心が薄い日本では，この種の悲喜劇は後を絶たないであろう。

「法匪」「先義而後利者栄」「動之以情，暁之以理」

長い沈黙を破った圭の第2（2019.1.22以来）の説明文書は，概略・本文・脚注各4・11・13頁から成る。宮内庁長官（西村康彦，1955.6.29生）は「非常に丁寧」と太鼓判を押し（「丁寧」は犯罪計画にも使う「綿密・緻密・詳細」と違って完全肯定の表現），主導者（翌日宮内庁発表に拠る）の眞子も理解してくれる方が居れば有り難いと言うが，理解者は文字通り有るのが難しい。

2007年の新語・流行語大賞候補入（エントリー）りの「KY」（空気が読めない。空気を読め）や，同03年の上位10（トップ・テン）中の「バカの壁」（養老孟司［医学者・解剖学者，1937.11.11生］の同年刊著書題。知りたくない情報を遮断する習性の意）は，この事例に用いるのは流石に酷過ぎるが，真摯な誠意と解決の本気を見たい社会の要請と，返済不要の論拠を列挙する一点張りの強情の乖離は縮まらない。

渦中に在る圭の母親佳代（洋菓子店勤務，旧姓角田，1966.8.27生）は，夫敏勝（横浜市役所勤務）の急逝（2002.3.5焼身自死，歿年38）後，女手一つで愛称「王子」と呼ぶ独り息子を育てた。2010年に交際相手の男性（外資系商社勤務，還暦頃）と婚約し，圭の大学入学金・授業料・留学費用（45.3万，40万，200万円）等，10回に亘って多額の金銭供与を受けたと報じられる。

男性は相手の常習的な援助要請と愛情の稀薄に嫌気が差して婚約を解消し（2012.9.13），申し入れの場で同席の圭に配慮して理由を言わず，金は返して貰う心算は無かったと述べた。翌年8月に貸した金の返済を求めたが，母子は秋の交渉で貸付ならぬ贈与と認識し，

一方的な破棄で精神的な苦痛を蒙ったと訴え，謝罪・保証（賠償？）が無い事に不満を表した。

弱冠22歳の圭は咄嗟に携帯電話の録音釦（ボタン）を押し，後年の弁護士の卵の片鱗を窺わせた。「4.8」文書で隠し録りの言質を23回引き，宛（さなが）ら米国流の法廷闘争の様な執拗さを見せた。贈与なら贈与税未納の疑惑が出ると週刊『女性自身』（1958年創刊）で指摘された（2019.2）後，時効（7年）前に納め文書で無謬の証として宣揚したが，最も肝心な事は抜けている。

長く馴れ親しみ父親代りに苦しい家計を助けてくれた相手への感謝が一言も無い点は，「丁寧」の両義（「注意深く心が行き届くこと」「手厚く礼儀正しいこと」）に該当せず良識に悖（もと）る。今の自分が有る結果に寄与した年長者への敬意が一欠（か）けらも見えぬ不敵不敵（ふてぶて）しい態度は，攻撃（「婚約解消時の確認事項に反する突然の要求」等）を防御とする戦法だとしても節度を欠く。

『義勇軍行進曲』が識者座談会で暫定国歌に選ばれた23年後（1972.9.25），田中角栄首相（18.5.4～93.12.16）等が国交正常化交渉の為に訪中した。翌日の外相（姫鵬飛・大平正芳）会談で，高島益郎（外務省条約局長，1919.10.6～88.5.2）が諸問題（中国の承認，台湾の地位，日華平和条約の扱い，戦争状態の終結，戦争賠償の請求権）に就いて日本の立場を説明し，強い反撥を招いた。

彼は『日本国と中華民国との間の平和条約』（1952.4.28）に則（のっと）って，両国間の戦争状態は既に終結しており，戦争賠償権も蒋介石政権が放棄したので今回の共同声明に書き入れる必要が無い，等と法的な建前・整合性に基づく主張を展開した。直後の首脳会談で周恩来は憤慨し，台湾問題は政治問題であり，法律論で行（や）ろうなんて間違いだと凄い剣幕で詰（なじ）った。

周が高島を指差して「貴方は“法匪だ！”」と激しい口調で非難したと言われた（訪中随行記者匿名座談会『いまだから明かす 周恩来が激怒 田中は応戦！』，『週刊文春』1972年10月23日号）が，張香山（対日工作担当政治家，外交部顧問，翌年より中聯部→中宣部副部長，14～2009.10.10）の否定（『張香山回顧録［中］』，『論座』97年12月号）等に由り，『文春』「巨砲」の虚報は明らかである。

A記者が披露した裏付けの無い物語を受けて，D記者が「法律を弄くり回す大悪人」と「法匪」の意を説明した。この語源未詳・両言語共通の罵り言葉は『広辞苑』（新村出［言語学者・辞書編纂者，1876.10.4～1967.8.17］編，岩波書店，55年初版）で第6版（2008）から立項し，「（“匪”は賊の意）法律を絶対視して人を損なう役人や法律家をののしっていう語」と解釈される。

国内最大規模の『日本国語大辞典』（小学館）は，同年に刊行が始まった初版（日本大辞典刊行会編，本編20巻＋別冊1，1972～76）でも，新世紀の第2版（日本国語大辞典編集委員会編，同13＋1，2000～02）でも不採録と為る。第3版に向けて新項目・用例を募集する「日国友の会」（編集部主宰，2002.5網（ネット）上開設）から，読者の投稿（江東遊民，2018.3.6）で古い出典が浮上した。

その実例（「竹内君が申されました法律萬能が敗戦の一原因であることは，是は申すまでもないのであります，支那人に於きましても，日本が支那に進出した時に，日本人を指して法匪と言つて居る，所謂國内に於ても法匪的な人が多分にあつたことが敗戦の原因であると私は考へて居るのである」，『第89回帝国議会衆議院予算委員会』1945年12月12日［発言者］楢橋渡委員）は，敗戦及び日中関係と関る。

時の内閣法制局長官（弁護士・政治家［後に内閣書記官長・運輸大臣］，1902.3.22～73.11.17）の発言は，法律万能と敗戦を結び付ける見方，中国でそう呼ばれる日本人の存在を示唆した。中国最大の『漢語大詞典』（漢語大詞典編輯委員会・漢語大詞典編纂処編纂，正編 22 巻＋別冊 1，上海辞書出版社，1986～94）にも無いこの単語は，「満州国」の日系法務官僚に対する罵語が由来か。

周総理は高島局長を特別視した（『毎日新聞』9.26 記事［『列島改造も話題 / 本会談前の田中・周首相 / 酒談義まで花咲く』］に拠ると，要人の初顔合せで彼に就いて，「中国はこれまで余り条約を研究していなかった。国連にも入らず，自由な立場で事を処理できたからです。ところが最近は書類が沢山上がって来て適いません。高島さん余り書類を上げない方が好いですよ」と冗談を飛ばした）が，偏見や悪印象は無い。

外務省条約局（2004.8.1 より国際法局）の設立（1919.7.2）は高島が生れる 3 ヵ月前に当り，中国の外交部国際条約司（ニクソン訪中の 72 年 2 月に整備）は当時 7 ヵ月の新生児であった。周は寧ろ高島の様な人材が欲しいと感じ，中国で馴染まない「法匪」で面罵する真似は無い。但し国益を守る法務外交官の当然の姿勢は，「法匪」的な独善と捉えられても可笑しくない。

田中は周主催の歓迎夕食会で挨拶する際に，往年の加害に就いて深謝を表した（「過去数十年にわたって日中関係は遺憾ながら不幸な経過を辿ってまいりました。この間，わが国が中国国民に多大なご迷惑をおかけしたことについて，私は改めて深い反省の念を表明するものであります」）が，漢訳の文言（下線部分に当る「添了很大的麻煩」［とても大きな面倒を掛けた］）は朝野の総好かんを食った。

作成者の橋本恕（外務省アジア局中国課長，1926.4.7～2014.4.6）は，「土下座外交」の批判を慮る表現は翻訳の問題ではないとしたが，日本で許容された共同声明の文言（「日本側は，過去において日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し，深く反省する」）と比べて，国内の親台勢力と中国の国民感情を天秤に掛けた計算は得策とは言い難い。

橋本が精魂を傾けて起草した首相挨拶の次の部分（「第二次大戦後においても，なお不正常かつ不自然な状態が続いたことは，歴史の事実としてこれを率直に認めざるを得ません。/ しかしながら，われわれは過去の暗い袋小路にいつまでも沈淪（ちんりん）することはできません。私はいまこそ日中両国の指導者が明日のために話合うことが重要であると考えます」）は，未来志向の解決への道筋を示している。

周の喝破の通り法律の解釈に拘るなら解決は望めなく，袋小路から脱出する為に双方は歩み寄った。結局「戦争状態」は日本側提案の「不自然な状態」を踏まえて，中国側が田中挨拶の内の「不正常な状態」を了承し，戦争賠償の請求権の放棄も「権」を取って決着した。「両敗倶傷」（両方敗けて倶に傷付く）ならぬ「双嬴」（共に勝つ（ウィン・ウィン））は，互譲・妥結の所産である。

高島は駐ソ大使・最高裁判事の拝命前の外務事務次官在任中（1979.7.10～81.7.28），鈴木善幸首相（80.7.17～82.11.27 在任，11.1.11～2004.7.19）と伊東正義外相（同～81.5.18，13.12.15～94.5.20）が日米首脳会談共同声明（81.5.8）の解釈（軍事同盟の性格の有無）で対立し，後者が引責・病弱で辞任した際に共に辞表を出し（首相の慰留で撤回），筋論・剛直男の評判・名声を高めた。

筋を通すか情（なさけ）を掛けるか，勘定と感情を両立させるか，という選択は人生でも外交でも

可く求められる。荀子（戦国末の思想家・教育家，名は況，前 313 頃～前 238）の「先義而後利者栄」（義を先にして利を後にする者は栄える），渋沢栄一（実業家，1840.3.16～1931.11.11）の『論語と算盤』(16) 結合論は，日中国交正常化の交渉にも小室家金銭紛糾の解決にも示唆を持つ。

『孟子』の冒頭の「孟子見梁恵王。王曰：“叟！不遠千里而来，亦将有以利吾国乎？”孟子対曰：“王！何必曰利？亦有仁義而已矣。”」（孟子，梁恵王に見ゆ。王曰く，「叟，千里を遠しとせずして来る。亦将に以て吾が国を利する有らんとする乎。」孟子対えて曰く，「王，何ぞ必ずしも利と曰わん。亦仁義有るのみ」）も，梁恵王（前 369 即位，前 400～前 319）を諭す「義＞利」説である。

小室圭は母親の「借金を踏み倒す」汚名を回避する為，己の大義に基づいて踏ん張ったが，相手に対する「何必曰利」の主張は不義理・不条理を否めない。中国流の説得術の「動之以情，暁之以理」（情を以て之を動かし，理を以て之を暁らせる）と照らせば，温情無き強情の智術無き強弁は情理に訴える姿勢の欠如で情理に適わず，琴線に触れるどころか癪に障った。

高島局長は中共政権樹立後の「日華平和条約」（中国語＝『中日和平条約』）を根拠に，戦争状態の終結も中国の戦争賠償請求権も解決済みで特記は要らないとしたが，当時の中華人民共和国の国際的地位の未確立を考えても一方的である。他方，小室圭の返済不要の主張も策 / 弁士が策 / 弁に溺れる感が有り，「得理不譲人」（道理が有ると人に譲らない）の態度が禍した。

「与人為善」「敬天愛人」「至誠神に通ずる」「以徳 / 直報怨」「以血洗血」

蒋介石は昭和天皇の「玉音放送」と同日の無線発信演説『抗戦勝利告全国軍民及世界人士書』（抗戦に勝利し全国の軍民及び世界の人士に告ぐ書）で，我が民族伝統の高貴な徳性である「不念旧悪」（旧悪を念わず）と「与人為善」（人に善を為す）を持ち出して，投降する敵軍への報復も敵国の無辜の人民への汚辱もしては行けず，慈愛を以て接するのみだと呼び掛けた。

高島益郎は外務省入省の翌年（1942）陸軍に召集され主計少尉と成り，終戦時に北朝鮮でソ連軍に捕まえられ，西比利亜抑留中に極寒に由る凍傷で足の小指を失った。日本軍捕虜・民間人に対する長期隔離・労働強制で 1 割（5.8 万人）を死なせた惨事は，エリツィン露大統領（1991.7.10～99.12.31 在任，31.2.1～2007.4.23）の謝罪（93.10.12）の通り非人道的である。

蒋は憎悪・蛮行の連鎖を断つ当く，若し暴行を以て曾て敵が行った暴行に応え，奴隷的な屈辱を以て今までの彼等の優越感に応えるなら，仇討ちは仇討ちを呼び，永遠に終る事は無い；これは決して我々仁義の師の目的ではない，と軍民同胞に留意を求めた。高島の嫌ソ（体制）感を招いた俘虜・民間人集団に対する組織的な酷使・虐待は，中国では起きなかった。

ソ連は英・米・ソ首脳会談（ソ連・ヤルタ，1945.2.4～11）と米・ソ秘密協定で対日参戦を承諾し，日本の敗色が濃厚に成った 4 月 5 日（戦艦「大和」戦没の前々日），両国間中立条約（41.4.13 締結，日本側名称＝『大日本帝國及「ソビエト」社會主義共和国聯邦間中立条約』）の破棄を通達し

た（有効期間満了［46.4.25］後に延長しない旨は，日本側では通達後も期限内に効力を有すると解釈した）。

ソ連は猶仲介・和平工作を依頼して来た日本の期待を打ち砕き，密約通り独逸敗戦（5.8，連合国に降伏）の 90 日後に宣戦した。8 月 8 日 17 時（莫斯科（モスクワ）時間）に突如ポツダム宣言への参加，連合国の要請に由る日本への参戦を宣告した。日本大使館の本国向けの電話通信回線を切断した上で，1 時間後（満州との国境地帯のザバイカル時間 9 日 0 時）に奇襲を始めた。

南樺太・千島列島と中国東北部・朝鮮半島への侵攻は中立条約の破棄を意味する背信行為で，同日の米軍の長崎市への原爆投下（史上 2 回目，実戦使用の最終回）と共に止（とど）めを刺した。前日調印の『国際軍事裁判所憲章』（英・仏・米・ソ，倫敦にて）の戦争犯罪の概念規定（A・B・C 項＝「平和に対する罪」「通例の戦争犯罪」「人道に対する罪」）も，間も無く殺傷力を発揮した。

『極東国際軍事裁判条例』（1946.1.19 発効）も踏襲した 3 類型から，軽重の差が無い A・B・C（中国語＝甲・乙・丙）級戦犯の名が生じた。東京裁判起訴の A 級戦犯 28 人中 7 人が死刑（終身刑 16 人，懲役 20・7 年各 1 人，判決前死亡 2 名，精神障害に由る訴追免除 1 名），世界 49 ヵ所の軍事法廷で裁かれた日本の B・C 級（殆ど前者）約 5700 人中約 1 千人が極刑と為った。

中華民国の全 605 裁判で 884 人の被告は無罪判決が 4 割に上り，処刑は南京軍事裁判で南京大虐殺（1937.12～38.1）の責任者とされた谷寿夫（当時第 10 軍第 6 師団長，中将［最終階級同じ］，1882.12.23～47.4.26），「300/ 百人斬り」実行犯とされた田中軍吉（当時同師団中隊長，大尉，05.3.19～48.1.28）/ 向井敏明（同少尉→少佐，12.6.3～同）・野田毅（同，12～同）等と少ない。

野田は死刑判決（1947.12.18）の 10 日後に綴った『日本国民に告ぐ』で，先ず無実を訴え（新聞で宣揚された向井との百人斬競争は虚報の武勇伝），軽率を詫び（冗談話で世間を騒がせた恥は罵倒嘲笑されても甘受する），次に死刑を受け入れる代りに，両国間の怨みや仇を止め，血を以て血を洗う様な馬鹿げた事はせず，恩讐を越えて手を取り合い平和に邁進して欲しいと願う。

次の熱弁（「日本人が至誠を以ってするなら中国人にも解らない筈はありません。/ 至誠神に通ずると申します。同じ東洋人たる日本人の血の叫びは必ず通じます。/ 西郷さんは“敬天愛人”と申しました。何卒中国を愛して頂きます」）は，西郷隆盛（幕末・維新期の政治家。1828.1.23～77.9.24）の座右の銘（首唱＝中村正直［洋学者・教育家，32.6.24～91.6.7］『敬天愛人説』［68］）の普及度・説得力を思わせる。

続いて世界平和の大道を進む日本に必要な根本精神の普遍性を説き（「愛と至誠には国境はありません」），この 2 語を同胞への餞（はなむけ）（原文＝花むけ）として贈る思慮・情念を記す（「私自身が身を捨てて中国提携の楔となり東洋平和の人柱となり，何等中国に対して恨みを抱かないと云う大愛の心境に達し得た事を以って日本国民之を諒とせられ，私の死を意義あらしめる様にして頂きたいのです」）。

祖国の覚醒を促す「日本男児の血の叫び」で締め括る遺文と対に成る『死刑に臨みての辞世』（処刑当日）は，死刑宣告を聞いて裁判官に御辞儀する様な日本人特有の折り目正しさで礼に始まり（「此の度中国法廷各位，弁護士，国防部各位，蒋主席の方々を煩はしましたる事に就き厚く御礼申し上げます」），「迷惑を掛けた」に当る中国語の「添了麻煩」は正に下線部分と重なる。

次は一転して，冤罪を主張し裁判を批判する（「只俘虜，非戦闘員の虐殺，南京屠殺事件の罪名は絶対にお受け出来ません。［中略］/ 今後は［中略］我々の生命を以つて残余の戦犯嫌疑者の公正なる裁判に代へられん事をお願ひ致します。/ 宣伝や政策的意味を以って死刑を判決したり，面目を以て感情的に判決したり，或は抗戦八年の恨みをはらさんがため，一方的裁判をしたりされない様に祈願致します」）。

最後の達観と祈念（「我々は死刑を執行されて雨花台に散りましても貴国を怨むものではありません。我々の死が中国と日本の楔となり，両国の提携の基礎となり，東洋平和の人柱となり，ひいては世界平和が到来する事を喜ぶものであります。何卒我々の死を犬死，徒死たらしめない様に，それだけを祈願致します。/ 中国万歳 / 日本万歳 / 天皇陛下万歳」）は，崇高な内容も「中国万歳」も同情や感動を誘う。

向井の『辞世』（12.31）も不服と超脱（「我は天地神明に誓ひ捕虜住民を殺害せる事全然なし。南京虐殺事件等の罪は絶対に受けません。/［中略］我が死を以て中国抗戦八年の苦杯の遺恨流れ去り日華親善，東洋平和の因ともなれば捨石となり幸です」）の後に，自分を極刑に処す旧敵国に祝意を表す（「中国の御奮闘を祈る / 日本の敢闘を祈る / 中国万歳 / 日本万歳 / 天皇陛下万歳 / 死して護国の鬼となります」）。

蒋介石は「8.15」演説の第３段落で，世界平和に対し，抗戦以来の犠牲と為った忠勇な軍民・先烈に感謝しよう；正義・平和の為に共に戦った盟友に感謝しよう；取り分け国父が辛苦艱難な中に革命を正しい途（みち）に導き，我々に今日の勝利の日を迎えさせてくれた事に感謝しよう；取り分け全世界の基督教徒は一致して公平で慈悲深い上帝に感謝しよう，と述べた。

蒋の妻宋美齢は父嘉澍（新教（プロテスタント）美以教会（メソジスト）の宣教師・牧師，実業家，1861.10.17?～1918.5.4）の影響で，基督教を信仰し布教活動の経験も有る。宋宅での結婚（1927.12.1）は基督教形式と為り，中国基督教青年会全国協会総幹事（余日章，1882.10.15～36.1.22）が牧師の代理役を務めた。蒋が妻の影響で洗礼を受けた（1930.10.23）事は，基督教の中国進出の特筆す当き成果と言える。

蒋は自分の霊柩に３枚の勲章（采玉・青天白日・国光）と共に３冊の本を置くよう指定し，『聖経（書）』『荒漠甘泉』（カウマン［在日経験が有る米人宣教師，1870.3.3～1960.4.17］著 *Streams in the Desert*［25］，初漢訳版は 39 年刊，初和訳版は『荒野の泉』［60］）と唐詩選集の「西高中低」を直す当く，夫人は孫文の『三民主義』（24）を追加したが，それでも基督教関係は半分を占める。

祈祷や『聖書』引用の習慣を持つ蒋は「不念旧悪・与人為善」を以て，持論（「日本人民を敵とせず，只日本の横暴非道な武力を用いる軍閥のみを敵と考える」）を説く前に，中国で信者の比率が低い基督教の格言を引く（「私は基督の垂訓に述べられる“人々からして欲しいと望む事は，人々にもその通りにせよ”，“敵を愛せよ”という２つの言葉を思い，無限の感慨を覚えるものであります」）。

前者（『新約聖書･マタイ / ルカの福音書』7/6 章）は，イエス（基督教の創設者。前 4/7 頃～後 30 頃）が「山上の垂訓」で示した基督教倫理の根本原理で，黄金律（ゴールデン・ルール）（深遠で有益な金言）と呼ばれる。孔子の「己所不欲，勿施於人」（己の欲せざる所は，人に施す勿れ。『論語顔淵 / 衛霊公』より）は，古代猶太社会で知れ渡った同義の否定形（「して欲しくない事は，人にもするな」）とも通じる。

耶蘇（ヤソ）の「汝の敵を愛せよ」（『マタイ伝 / ルカ伝』5/6 章）は，神が全ての人を愛する様に，自

分に敵対し迫害する者をも愛す当きだと諭す。蒋演説の対日寛恕は好く「以徳報怨」（徳を以て怨みに報いる）に要約されるが，孔子は他者のこの言葉に同調せず，「何以報徳？以直報怨，以徳報徳」（何を以て徳に報いん。直を以て怨みに報い，徳を以て徳に報いる）と教えた（『論語憲問』）。

蒋の最初の妻毛福梅は南京陥落1周年の前日（1938.12.12）に，蒋の故居（浙江奉化市溪口鎮に在る豊鎬房）で日本軍に爆死された（歿年56）。3日後に凶報を聞いた実子の経国は敵の空爆（実際に七七日法要の為の帰郷時に有り）を顧みずに駆け付け，満腔の激憤を込めて「以血洗血」（血を以て血を洗う）と揮毫し，復讐の4字誓言を刻んだ石碑を遭難の場所に立てさせた。

『ハムラビ法典』（ハムラビ［バビロン第1王朝［前1830～前1530］第6代の王，同1792～1750又は1728～1686在位，生歿年不詳］が発布した，完全な形で遺る最古の法典）に見え，『旧約聖書・出埃及記』にも出て，基督の「山上の垂訓」で有名な「目には目を，歯には歯を」は，『ハムラビ法典』等に規定が有る「同害報復」（拉丁語のtalioの和訳）と同じく，被害に相応した報復を肯定する。

中国でも「以眼還眼，以牙還牙」（眼を以て眼に還し，牙を以て牙に還す）は人口に膾炙し，「以血洗血」と共に孔子垂訓の「以直報怨」（「直」＝公平・正直）の許容範囲内と解せる。対して「百人斬」の両死刑囚は，血を以て血を洗う報復や不公平な裁きを戒める一方，両国間の恩讐を超える提携を望み，処刑されても貴国を怨まない明言で「以徳報怨」の姿勢を示した。

「以眼還眼，以牙還牙」「以命抵命」「殺人償命，欠債還銭」「血債」「約法三章」

中国歴代の正史の総称「二十四史」（『史記』『漢書』『後漢書』『三国志』『晋書』『宋書』『南斉書』『梁書』『陳書』『魏書』『北斉書』『周書』『隋書』『南史』『北史』『旧唐書』『新唐書』『旧五代史』『新五代史』『宋史』『遼史』『金史』『元史』『明史』）は，清の乾隆帝（愛新覚羅・弘暦，1735.10.8～96.2.9）に由って欽定され（39），清の正史は終焉の百年後も出来ていない故，24節気と同数に止まる。

司馬遷（前漢［前202～後8］の歴史家，前145か前135頃～前86頃）著『史記』（同104～91頃完成）を始め，二十四史は経験・教訓や啓示・忠告を満載する（同書の「狡兎死，良狗烹；高鳥尽，良弓蔵；敵国破，謀臣亡」等）。「以血洗血」の出典（『旧唐書・源休伝』）も唐代（618～907）正史の一に在り，劉昫（五代後晋［936～46］の政治家，888～947）監修の奉勅撰で45年に成立した。

『日（本）国（語大辞典）』の成句項（【血＝で血を［＝を血で・＝をもって血を・＝が血を］洗う】1［血で血を洗えば，ますますよごれることから］悪事に悪事をもって対処する。暴力にむくいるのに暴力をもってする。殺傷に対して殺傷をもって報復する。2血族どうしが相争う。自分の利益のため，血族の悪事をあばく）は，1に漢籍典拠（「旧唐書－源休伝“吾又殺レ汝，猶二以レ血洗レ血，汙益甚爾”」）が付く。

各4点の和文用例は1（「発心集［1216頃か］一」）が最古で，和製の2は4世紀余り遅い（初出＝「浮世草子・本朝桜陰比事［1689］」）が，『広辞苑』の【血で血を洗う】（「①［旧唐書源休伝］殺傷に対し，殺傷をもって報復する。②悪事に対して悪事で対処する。③血族が相争う。同胞同士がた

たかう」）の区分の通り，中国語では『日国』の1の諸義一体と違って悪事と捉える発想が薄い。

『旧唐書』完結の千年後，枢軸国（独・伊・日同盟側の諸国）の敗北で第２次大戦が終った。1の第４例（「モンテーニュと人喰人［1947］〈渡辺一夫〉二“［前略］新旧両教とも血で血を洗う残虐振りを示した［下略］”」）は，彼の思想家（1533.2.28～92.9.13）が両派の融和を務めた仏蘭西宗教戦争（62～98）の有様を表すが，野田毅は同じ終戦の翌々年に用いて両国の和解を唱えた。

両書収録の「目には目を，歯には歯を」は，『日国』の初出（「旧約全書［1888］出埃及記・二一“若害ある時は生命にて生命を償ひ，目にて目を償ひ歯には歯を償ひ手にて手を償ひ足にて足を償ひ”」）の通り，損害への償いを求める仕返しの意である。以下の例（「引照旧新約全書［1904］利末記・二四」「鳥獣戯話［1960－62］〈花田清輝〉二・二」）が示す様に，戦前の実用は確認されていない。

【徳をもって怨みを報ず】（「［『論語－憲問』の“或曰，以レ徳報レ怨，何如，子曰，何以報レ徳，以レ直報レ怨，以レ徳報レ徳”，『老子－六三』の“大小多少，報レ怨以レ徳”による］怨恨ある者を憎まず，かえって恩恵・善意で報いる。＊太平記［14C後］〈篇名略〉“三軍をば帥を奪ふ可しとは，彼をぞ云べき。以レ徳報レ怨［トクヲもっテウラミヲホウス］とは是をぞ申べき”」）は，近世以前の１例しか入らない。

『広辞苑』には同じ【汝の敵を愛せよ】【黄金律】の他，【徳をもって怨みに報いる】も有る（語釈＝「怨みのある者に怨みで報いず，かえって恩恵を施す」）。蔣介石の「不忘旧悪」「与人為善」も日本で両国共通の成句で要約されたが，儒教・道教の始祖の語録に見える「以徳報怨 / 報怨以徳」は，「人柱（ひとばしら）」覚悟の両元軍人の末期（まつご）の声に現れた様に日本人の心性と通底する。

三島由紀夫（小説家・劇作家，本名平岡公威，1925.1.14～70.11.25）の戯曲『白蟻の巣』（56）に，「目には目を，歯には歯を，さうして，寛大さには寛大さを」という悟りを語る台詞が有る。伯剌西爾（ブラジル）で珈琲（コーヒー）農園を経営する夫婦と使用人夫婦の間の複雑に絡み合う姦通関係の中で，使用人の運転手が共同経営者の妻に告げる言葉は孔子の「以直報怨，以徳報徳」と合致する。

「目には目を，歯には歯を」の同害報復 / 刑は無限に繰り広げる報復や処罰より益しであるが，被害を上回る加害に歯止めが掛る進歩で一定の評価に値しても近代法では容認されない。昨今の世界では中国語の「以眼還眼，以牙還牙」の意味・使い方の様に，敵対者への憎悪を掻き立て「以直（対等的公正）報怨」や「以怨報怨」（「以徳報徳」の裏返し）を訴える。

沙翁（シェイクスピア）の喜劇『ベニスの商人』（1596頃）の悪辣な機知の暗闘で，猶太人の高利貸しが貿易商に強欲な商売を邪魔されて怨みを募らせ，相手の船難破・全財産喪失に因る借金返済の不能に乗じて報復を謀り，証文通りその肉１磅（ポンド）で返済するよう訴訟を起すが，体から切り取る際に契約に無い血を流せば全財産を没収するという意表を突く判決で撥ね返される。

原告は諦めて金を要求するが，曾て被告の友人からの返済を断った事に由り許可されず，逆に被告の命を狙うとして財産没収・死刑に処される。貿易商は基督教徒の慈悲から刑罰の免除，財産の半分を彼に反抗する娘へ与える事を要請し，高利貸しは命が助かった代りに基督教に改宗させられる，という展開は巡り巡って蔣介石が唱えた基督教の寛恕と繋がる。

借金返済を求める人肉抵当（借金の担保。質物。抵当権の目的物）裁判から，「烽火連三月，家書抵万金」（烽火三月に連なり，家書万金に抵る）を連想する。杜甫（盛唐の「詩聖」，712～70）の五律『春望』の頸聯（第5・6句）は，『日国』の【家書】1（「家からの手紙。家信」）の漢典と為るが，「抵」の多くの意味（相当する。相殺する。抵当に入れる。償う）は日本語に入っていない。

中国語の「抵償」は日本語の名詞・両義（①償い。充行。②引き当て。抵当）に対して，相当の物事で弁償・補償する意の動詞である。日本語に無い「抵命」「償命」（命で償う）は究極の抵償で，熟語の「殺人償命」（人を殺せば命で償う）や「一命抵 / 償一命」（一命には一命で償う）は，命・目・歯・手・足の被害には同じ物で償うという『旧約聖書』の命題と通じる。

「殺人償命」は「以眼還眼，以牙還牙」と同列の「以命抵 / 償命」（命を以て命を償う）であるが，対と成る「欠債還銭」（債務を抱えれば金を返す）を超える「血債」（血の債務。人を惨殺する罪悪）の償還は，「血債要用血来還」（血の債務は血で返す）と言う様に「以血還血」（血を以て血を償う）が常識で，生母の爆死を悼む蒋経国の「以血洗血」は中国人の自然な反応である。

『ベニスの商人』執筆開始（1594）の1800年前（前206）の中国で，「以命抵 / 償命」の原則が前面に出る「法三章」が生れた（日本の両辞書採録。『日国』の語釈＝「［中国，漢の高祖の故事から］殺人・傷害・盗みだけを処罰するという三章の法。転じて，法律がきわめて簡略なこと」，漢典＝「史記－高祖紀“吾当レ王二関中一，与二父老一約二法三章一耳。殺レ人者死，傷レ人及盗抵レ罪，余悉除二去秦法一”」）。

劉邦（前漢の初代皇帝，前202～前195在位，前256或いは前247～同）は天下を取る前に，関中（現西安を中心とする地域）の村落の纏め役に対して，法3章を以て秦の万般仔細に及ぶ恣意的で苛烈な法律を廃すると宣言した。民心を得た施策から成語の「約法三章」（法律を制定し，人民に遵守を約束する）が生れ，後に広く共同に順守する簡単な条款を制定する事を指す。

簡明な3項（人を殺せば死刑にし，人を傷付け，物を盗めば相応の償いをさせる）は，重大・悪質な犯行に絞って罪と同等の罰を与える。日本の最高裁明示（1983.7.8）の死刑適用基準（殺害された被害者が1人なら無期懲役以下，3人なら死刑，2人がどちらとも決め難い境目）は，殺人は死罪・極刑と直結する前近代的な思考が猶根強い中国では，優し過ぎる様に思われてならない。

「百人斬り」の野田・向井少尉（上海派遣軍第16師団歩兵第9連隊第3大隊副官・砲兵小隊長）は，南京攻略戦で敵兵斬殺数3桁の先行達成を競い，25対65→65対86→78対89→105対106（1937.11.29，江蘇常州→12.3，丹陽県→5，句容県→12，南京［取材日・処］）と実績を伸ばした，と『東京日日新聞』で順次報じられ，最小差での実現は南京陥落の日に紙面を飾った。

互いの部下を確認役として相手方に送り込んだ上での真剣勝負は，大台乗りの時点の比較が出来なかった故150人斬りに仕切り直したと言う。野田の自慢は南京入城後の253人斬り（『大阪毎日新聞』1938.1.25），総数374人斬り（帰郷後の『鹿児島朝日新聞』等，3.20～22）に及び，向井は新しい約束の500人に向けて305人に達成と報道された（『東京日日新聞』44.5.19）。

2人は復員除隊後1947年の夏に連合国軍最高司令官総司令部に逮捕され，南京戦犯拘留

所への移送後に国防部戦犯裁判軍事法廷で起訴された（12.4）。両者合同裁判（翌日決定）は後に田中軍吉（同師団45連隊中隊長）「300人斬り」事件の公判と合同し，18日に捕虜及び非戦闘員への連続虐殺に由り死刑判決（1審確定）が下され，41日後3人共に処刑（銃殺）された。

戦勝気分に酔った狂喜の戦果誇示は敗戦後に自らの殺戮を裁く凶器に反転し，『東京日日新聞』の記事等は犯行の自白と見做され断罪に使われた。法螺（ほら）話や戦闘行為とする両被告の弁解は有力な証拠が無い儘に一刀両断の決着と成り，記者も新聞社も虚報を認めず当人も記者に喋った事を契機と認識した為，100人超は誇大宣伝だとしても斬殺は行われたろう。

両者の遺族は毎日・朝日新聞社と本多勝一（報道人・作家，1932.1.28生）・柏書房を提訴し（2003.4.28），信憑性に乏しい話を史実とする報道・出版に由る名誉毀損への中止・謝罪・賠償を求めた。東京地裁・同高裁・最高裁は何れも棄却し（2005.8.23，06.5.24，同12.22），複数の証言に拠り野田が講演で述べた捕虜斬殺の事実を否定しない裁判所の判断が目を引く。

日本刀で戦闘行為として100人を斬る事は難しいとする虚構説に対し99歩譲って，捕虜や民間人を1人でも殺せば中国の古来の法感覚でも死刑に値する。南京軍事法廷の判決と「一命抵一命」の発想の当否は扨て置き，中国で非戦闘員を殺（あや）めた時点で「血債」が発生し，中国的な思考回路や情理からすれば，命を以て命を償う事は当然の帰結の様に思われる。

「2.22自爆」「4.29擲弾」「1.28報讐」「2.8→7.5極刑」

「百人斬り」裁判を惹起した本多勝一の『中国の旅』と文庫版（朝日新聞社，1972・81）で，著者（同社編集委員）の生年は1931・33年と記された。『殺される側の理論』（同，1982）の32年説は複数の人名辞典に採用され（1.28生），戸籍上の「31.11.22」や本人が可能性に言及した「33.4.28」も有るが，定説の生年月日は17年後の野田毅・向井敏明の処刑日と重なる。

当日に勃発した第1次上海事変（上海市街・郊外に於ける両軍の交戦，1932.1.28～5.5）は，日本が満州傀儡政権設立（3.1）から列強の耳目を逸らす為に，謀略工作（関東軍参謀板垣征四郎大佐［後陸軍大臣，大将，A級戦犯として処刑，1885.1.21～48.12.23］等の依頼で，参謀本部付少佐田中隆吉［後少将，93.7.9～72.6.5］等が攻撃の口実として，日本人僧侶への襲撃・殺傷［1.18］を画策）で挑んだ侵攻である。

日本は海軍陸戦隊の猛攻が19路軍（軍長＝蔡廷鍇）の死守に阻まれた後，陸軍3個師団余りを投入し総攻撃を開始し（2.20），3日目に現れた「爆弾3勇士」（廟行鎮攻撃の際に破壊筒を持って突入し，自爆で鉄条網を吹き飛ばして突撃路を開いた1等兵の江下武二・北川丞・作江伊之助［1910.11.22，3.8，10.17生］）は，忠烈な「軍神」として伝説化され軍国熱（フィーバー）を引き起した。

19路軍の退却に由る戦闘中止（3.3）後の停戦交渉中の4月29日，上海派遣軍と在上海日本人居留民が虹口公園（現魯迅公園）で大観兵式・天長節（天皇誕生の祝日）祝賀会を行う最中，尹泰吉（ユンポンギル）（朝鮮人独立運動家，1908.6.21～32.12.19）の決死の投弾で，暗殺標的No.1の同軍司令官

白川義則大将（元関東軍司令官･陸軍大臣，1869.1.24～32.5.26）が重傷を負い間も無く死亡した。

虹口公園は3月17日に駐華公使有明吉（1876.4.15～37.6.5）暗殺計画の舞台と成り，実行者（朝鮮人独立運動家の白貞基（ペクチョンギ）［96.1.19～36.5.22］・元心昌（ウォンシムチャン）［?～72.7.4］・李康勳（イカンフン）［03～2003］）が仲間の密告で逮捕された（日本への送還後に反乱罪で起訴され，11月に長崎裁判所で無期懲役・同・15年の刑に処された）が，僥倖の摘発から慢心が生じた所為か43日後の暗殺は未遂に終らなかった。

上海公共（共同）租界工部局（行政機関）が1896年に租界外に営造した当公園は，日本人住民が多く日本租界の観が有る虹口区に在るから会場に選ばれた。日本の軍事制圧下と雖も停戦協定締結（5.5）前の要人出席の祝典の挙行は，「勝って兜の緒を締めろ」の警句に反する有頂天が禍し，敵に「斬首（敵の首領 / 指揮機関を殺害 / 破壊する）行動」の好機を与えた。

白川は襲撃を危惧して道中自動車登録番号銘板（ナンバー・プレート）を数度交換したが，「上手の手から水が漏れる」偶発的な挫折より次元が低い必然的な失敗として，粗末な警備態勢の笊（ざる）が暗殺者・凶器の進入を簡単に許した。市内有数の大きい公園での開催と弁当・水筒持参可の公表で禍根が齎され，入場者を同胞に限る安全弁も安心感に由る警戒心の麻痺で機能しなかった。

「日本人」は『広辞苑』で初版（「①〔法〕日本国に国籍を有する人。②人類学的には蒙古人種中のアジア蒙古人種の一。皮膚は黄色，虹彩は黒褐色，毛髪は黒色で直毛。日本語を話す。［先住民族の説明は略］大和民族」）→第6版（「①日本国に国籍を有する人。日本国民。②人類学的にはモンゴロイドの一つ。皮膚は黄色，虹彩は黒褐色，毛髪は黒色で直毛。言語は日本語」）を経て，現行版で旧版の①のみ残る。

例の日本人女性が精子提供者の国籍詐称を訴えた係争も日本人の定義に関るが，①の証明材料と成る旅券等を提出させれば正しい合否判定が下せた筈である。90年前の上海天長節爆弾事件でも警備陣は②の外見・言語で判断し，中国人より母語と日本語の親和性が高い朝鮮人を同胞と認識したが，自国民である属性の裏付けへの追求が不十分なら騙され易い。

尹が持ち込む特製の爆弾内蔵水筒・弁当箱は，当局の想定外で検査も受けなかった。要人安全を確保する責務より参列者の飲食を配慮する親切が優先された故，『君が代』（1999.8.13より国歌）斉唱の最中に水筒爆弾が投げ込まれた。拡声器（ラウド･スピーカー）の故障で私服厳戒中の軍人等が式台の後方へ移動した隙に，彼は天与の瞬発機会を逃がさず群衆から一目散に駆け出した。

標的2号の第9師団長植田謙吉中将（後朝鮮軍・関東軍司令，大将，1875.3.8～1962.9.11）は左足を失い，第3艦隊司令長官野村吉三郎海軍中将（後外相，同大将，77.12.16～64.5.8）は右目が失明した。駐華公使重光葵（後外相・大東亜大臣，1887.7.29～1957.1.26）は右脚切断手術の前に停戦協定に署名し，連合国への降伏文書調印（45.9.2）で片足を引き摺って大役を果した。

中国で「1.28事変」と呼ぶ侵攻vs.抗戦は，終盤の「満州国」成立と共に抗日意識を空前に高めた。重光は『君が代』斉唱中の為に爆弾から逃げなかったと重傷の要因を振り返ったが，同様に尊ばれる中共政権の国歌は3年後に作られた抗日歌で，建国初期の暫定→「文革」中の「暫停」（一時停止）の後の正式昇格は，「百人斬り」犯行起訴の丸35年後に当る。

翌日の両被告合同審理の決定は同日の林彪が40歳に成った事と関係が無いが，「300人斬り」事件公判との再合併（1947.12.12）は，両少尉が記者に105・106人達成を吹聴し2人撮影（ツー・ショット）に応じた10年後である。3人の処刑が「1.28事変」勃発16周年時に選ばれた事は，向井が言う「中国抗戦八年の苦杯の遺恨」を超えた満州事変以来の抗日14年の怨恨を示す。

南京軍事法廷は「南京大屠（虐）殺」公判の前に，民間人・捕虜への殺害・強姦の罪で酒井隆中将（1887.10.18～1946.9.30）を死刑に処した（8.23）。当人は第23軍司令官として香港攻略を指揮し占領後の初代総督を務めたが，済南事件（1928.5.3，日本が居留邦人保護の名目で山東に出兵，済南を占領，市民を多数殺傷）との関与（駐在武官）も深く記憶・意識された筈である。

日本語にも入った「口は禍（わざわい）の門（かど）」（『広辞苑』＝「［馮道，舌詩“口は是れ禍の門，舌は是れ身を斬るの刀なり”］うっかり吐いた言葉から禍を招くことがあるから，言葉を慎むべきである，という戒め」）は，乱世中20年に亘って5朝（後唐・後晋・遼・後漢・後周）8姓11帝に宰相として仕えた「不倒翁」馮（五代の政治家，882～954）の警句だけに，舌禍防止の処世訓として納得できる。

「舌は禍の根」も日本で成句化し（同＝「禍は多く言葉から起こるものである。“口は禍の門”とも」），『日国』の【舌は禍（わざわい）の＝根（ね）［＝門（かど）］】（「ことばは禍を招くもと。禍は多くことばから起こるものであるということ。口は禍の元」）の初出（「天草本伊曾保［1593］」）は，『広辞苑』の【舌】③（「しゃべること。弁舌」）の出典に見える（「天草本伊曾保“―はこれ禍の門なりと申す諺がござれば”」）。

『日国』の第2例（「仮名草子・悔草［1647］上“言葉は出てかへらず。かりにも怒［いかる］まじ。口は善悪の門，舌［シタ］はわざはひのねともいへり”」）は，300年後の野田毅死刑囚の悔恨（「自らの恥を申し上げて面目ありませんが冗談話をして虚報の武勇伝を以って世の中をお髄（ママ）がし申し上げた事につき衷心よりお詫び申し上げます。“馬鹿野郎”と罵倒嘲笑されても甘受致します」）を連想させる。

和製格言「雉（きじ）も鳴かずば打たれまい」（『広辞苑』＝「無用のことを言わなければ，禍いを招かないですむことのたとえ」。『日国』の【雉も鳴（な）かずば＝打（う）た［＝とら］れまい】＝「無用の発言をしなければ，禍を招かずにすむことのたとえ。鳴かずば雉も打たれまい。鳥も鳴かずば打たれまい。鳴く虫はとらる」，初出は「諺苑［1797］」）の通り，無用の発言は「殺身之禍」（身を殺す禍）に直結する恐れが有る。

「無用」（『広辞苑』＝「①役に立たないこと。必要でないこと。“―な食器”“心配―”②してはならないこと。“天地―”“口外―”③用事がないこと。“―の者入るべからず”」）は，①（漢籍［『日国』所載「荀子－非十二子」］由来）の無益も②の禁止も舌禍に当て嵌る。禁断の捕虜斬殺は口外無用の後ろ目痛（た）い悪事なのに，故郷に錦を飾る際の披露は命取りと成り国内での名誉回復をも妨げた。

『広辞苑』の【雉・雉子】の特筆（「雄は［中略］背面の色彩は［第6版に“甚だ”］複雑美麗」，「日本特産。一九四七年，日本鳥学会で国鳥に選定」）の様に，英語の類語（“Into a mouth shut flies fly not.”［閉じた口の中へは蠅は飛び込まない］等）と比べて，「～も鳴かずば打たれまい」の比喩は鮮烈で象徴性が強い。語呂合せで言えば，余計な発信に由る記事さえ無ければ撃たれる事も無い。

其々105・106人斬った豪語や150人への目標修正は誇大宣伝や虚構の戯言（ざれごと）なら，「大躍進」

中の『人民日報』の生産高水増し報道と通じた様であるが，海外で多大な「血債」を作った事は性質が根本から異なる。南京陥落の日に全国紙で大々的に報じられ，本人の不服も新聞社の訂正も無い以上，中国で「殺人魔」と呼ばれる 2 人の末路は最早変えられない。

「呪われた」東京五輪前の佐々木宏・小山田圭吾・のぶみの解任・降板の契機は，過去の電子郵便物（メール）・雑誌記事・自伝の不適切な表現が招いた糾弾である。中国流の断罪表現の「白紙黒字，鉄証如山」（紙の上に文字が有り有りと残る，山の様に動かぬ確証）は，文字の意味を重く捉える認識に基づき，冗談や露悪の誇張等の弁解を許さない点は南京裁判も一緒である。

汪精衛政権の特（務）工（作）総部長・社会 / 交通相・浙江省主席を務めた丁黙邨（そん）は，陰で蒋介石側と通じた為に戦後に優遇され保証人付きの一時出獄治療も受けた。外出中に南京の玄武湖を観光した処，記者に目撃され逍遥振りが報じられた。激怒した蒋の命令を受けて首都高等法院の漢奸裁判で死刑が宣告され（1947.2.8），執行時（7.5）46 歳の人生が絶たれた。

丁は「逍遥法外」（罪人が法の制裁を受けずに悠然と暮らす）の印象を与えた所為で自滅したが，南京大虐殺時の最高指揮官と「百人斬り」伝説の主役も「逍遥法 / 海外」が許されなかった。丁の死刑宣告の 35 年後のホテルニュージャパン火災（1982.2.8，東京，死・傷各 33・34 人）で，横井英樹（所有者（オーナー）兼社長，13.7.1～98.11.30）への捜査・逮捕・刑罰は似た追及の動機が有る。

「衆怒・民憤」「8.19/6.5/5.4 爆撃」「3.10 空襲」「3.11/5.12 震災」「12.13 公祭」

『週刊新潮』2022 年 5 月 19 日号の告発記事（「違反だらけ“知床遊覧船”人災でも /“社長を逮捕できない”だって !?/ 元船長新証言“役人欺き船に必要な重しを…”/“補償 1 億円”謳っても“満額払う気ない”/ 税金で“捜査費用”数十億円も請求できない !?/ ずさんチェックで大惨事“国交省”の責任」）は，「4.23」沈没事故（北海道知床沖，乗客・乗員 26 人搭載の「KAZU1（ワン）」）の深層と暗部を突く。

海上保安庁は運航会社（2016 年業界参入）の社長（58）と観光船の船長（54，行方不明）に対し，業務上過失致死容疑で捜査に乗り出したが，痕跡が残り難い海難事故の特性で難儀の儘である。硬派週刊誌等の暴露で社長の無理な操業，杜撰な管理と強欲な素性が白日に曝されたが，立証・立件困難の暗礁にぶつかり，重大な責任を問う逮捕・起訴の見通しが立たない。

安全統括管理者（運航の最高責任者）兼運航管理者の社長は，事務所に詰めて船長の連絡を受ける義務が有るのに，当日は公務より私事を優先し出産後退院の妻を迎えに行って不在であった。5 日目に漸く臨んだ記者会見で土下座・叩頭を 3 回（計 21 秒）して見せた半面，姑息な誤魔化しや不誠実な開き直りと受け取られる姿勢で遺族・世論の不信を激化させた。

遺族への説明で弁護士は過去の判例に基づいて補償する（相場以上の金額は払わない意）とし，社長が提示した保険金（1 人当り上限 1 億円）は保険会社の負担で何も彼の懐を痛めない。行方不明者（12 名）捜査と船体調査の為に海保が民間海難救助会社と契約した費用（8.77 億円），

数十億円掛る船体引き上げ費用も血税で賄われるから，納税者から納得し難い声も上がる。

「新潮銃」（「文春砲」に擬えた造語）は40年前の例のホテル（赤坂，500部屋超）火災の惨事，社長が火災時自動散水装置・消防区画の設置を怠った責任を問われて逮捕され（同年11.18），業務上過失致死傷罪で禁錮3年の実刑判決（1987.5.20東京地裁，93.11.25最高裁確定）を受けた事を以て，今回の大量死没を招いた社長の行動が制限されていない自由度と対比させる。

次の記述（「当時，警視庁捜査一課長だった故・田宮榮一氏は，/“あの時，横井だけはなんとしても逮捕しなければ遺族・国民が納得できないとの思いで懸命に捜査にあたった”/と，生前よく語っていた。/［中略］田宮氏の発言は，当局が事案や被疑者の“非道さ”と国民感情を時に考慮に入れ，身柄の取り押さえに及ぶことを示している」）は，逃亡や証拠隠滅を防ぐ逮捕と異次元の判断基準を明かす。

田宮（1932.10.16～2018.2.16）は警視庁鑑識/捜査1課長として，件の火災と翌日の日本航空350便墜落事故（東京羽田空港沖，死・傷各24・149人）に対応した。災難の連続は「福無双至，禍不単行」（福は双ねて至らず，禍は単発で来ない）の通りで，誤操作で逆噴射させた機長（35歳）は業務上過失致死罪で逮捕され，精神鑑定の結果（心神喪失の状態）不起訴と成った。

『週刊新潮』夏端月増大号発売の翌日は，大阪千里デパートビル火災（1972.5.13）50周年に当る。日本高層建築物火災史上最大の惨劇で，唯一営業中の舞台・舞踏場付き酒場の被災が突出した。死者118名の内65名が女性接客係で，幼い子を持つ人も多かった。「母の日」（5月の第2日曜日）の前日に現れた地獄絵は，世間の悲嘆と杜撰管理への義憤を引き起した。

大阪地検刑事部の起訴（業務上過失致死傷罪，1973.8.10）は，地裁の1審判決（84.5.16）で3名無罪・1名（係属中歿）公訴棄却と為り，高裁の控訴審判決（87.9.28）で逆に全員が有罪とし，千日百貨店管理課長に禁錮2年6月・執行猶予3年，7階酒場責任者（千土地観光業務部長・支配人）を同1年6月・2年に処し，最高裁の上告審決定（90.11.29）で支持された。

防火管理者等の刑事責任の追及は逮捕が行われず，1年後の府警捜査1課・南署合同特別捜査本部に由る書類送検（6名，1973.5.30）が立件の起点である。事件から1審判決まで12年も掛り，更に其々3年余り後に原判決破棄→最終審確定に至った。18年半は済南事変～南京裁判後の酒井隆処刑の28年4ヵ月よりも長く，日本の裁判の慎重・悠長さが際立つ。

最後の桁が2と為る西暦年の1972・82年の歴史に残る火災と2022年の衝撃的な海難は，中国流で「水火無情」（水害や火災は情け容赦が無い）と言う天災・人災の恐さを思い知らせた。昭和の2件の起訴・有罪判決の決着も令和の立件・逮捕困難に対する人々の不満も，中国と通じる遺族・国民の感情への尊重・配慮と「逍遥法外」への不寛容の現れである。

『日国』の【水火】の多義（「1水と火。五行思想でいう万物組成の元素の中の二つの水と火。2水に溺れ火に焼かれる苦痛。また，そのようなひどい苦しみ。3互いに相いれないもの。相反すること。また，非常に仲が悪いことのたとえ。水火氷炭。氷炭。4日常生活に欠かせない，この上なく必要なもののたとえ。5洪水と火災。また，そのように勢いの激しいことのたとえ」）は，全て古代漢語に由来する。

和文初出（年代順）と漢籍典拠は，2（「延喜式［927］二八・兵部省」，「孟子－梁恵王・上」）→1（「作文大体［1108頃か］」，「易経－下経」「孟子－尽心下」）→4（「玉葉－仁安三年［1168］正月一六日」，「論語－衛霊公」）→3（「六百番陳状［1193頃］春・下」，「蜀志－魏廷伝」）→5（「談義本・労四狂［1747］上」，「春秋左伝－昭公一三年」）と為り，10・12世紀成立の第1・3義と比べて5は遥かに遅い。

その原典の「衆怒如二水火一焉，不レ可レ為レ謀」に有る「衆怒」（「多数の人のいかり。公衆のいかり」）も，同じ漢籍が出典（「春秋左伝－襄公一〇年“子産曰，衆怒難レ犯，専欲難レ成”」）で，同じ18世紀に和文で使われた（単一用例＝「読史余論［1712］二・源頼朝父子三代の事“されど事すでにかくの如く衆怒当るべからず”」）が，『広辞苑』の不採録が示す様に日本で死語と化して久しい。

魯の昭公（名は稠（ちゅう），前541～前510在位，?～同）13年（前529）の2501・2551年後に，大阪千日デパートビル火災と知床遊覧船沈没の水火惨事は水火の様な大衆の怒りに触れた。先代の襄公（名は午，同前572～前542，?～同）10年（前563）の2500年後に日中戦争が勃発し，中国語の成句「衆怒難犯」（衆の怒りは犯し難し）は抗戦と漢奸・戦犯裁判で鮮明に体現された。

17年前の同旬（2005.4.25）のJR福知山線脱線事故（兵庫県尼崎市，死・傷各107・562人）でも，重なる過失（ミス）の末に速度超過を仕出かした運転士（23，運転歴11ヵ月）の技術・勤務姿勢の未熟が，前にも事故を起した素人同然の「KAZU1」船長（同型操船歴約1年）と似通う。彼も事故の犠牲者と見る向きも有るが，遺族の当然な反撥で合同慰霊祭の対象から外された。

小泉首相は靖国神社参拝の理由として，日本では極悪人でも死ねば仏に成り，罪を憎んで人を憎まないと語った（2001.7.11，05.5.16）が，戊辰戦争（1868.1.27～69.6.27）の新政府側合祀・旧幕臣軍不合祀等の差別も存在し，A級戦犯合祀（1978.10.17）後の天皇親拝停止（75.11.21が最後）の様に不許容も有り，件の運転士も成仏後に遺族と同列の追悼が捧げられなかった。

「衆怒」と対に成り民衆の憤怒を表す「民憤」は日本語には無いが，『現代漢語詞典』（『広辞苑』と同じ国内最も権威有る中型国語辞典，中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編，商務印書館。以下『現漢』）では，改革・開放始動時の第1版（1978.12）の例文「不殺不足以平～」（殺さなければ民衆の憤りを鎮めるに足りない）は，第7版（2016.9）にも毛沢東時代の名残として有る。

類語「公憤」（『現漢』＝「公衆の憤怒の情緒。“～を惹起する”」）は，日本語（『広辞苑』＝「正義感から発する，公の事に関するいきどおり。“―にかられる”“―を覚える”↔私憤」。『日国』＝「社会の悪に対して，個人の利害をこえて感じるいきどおり。また，是認しがたいおおやけの事柄に対するいきどおり。義憤。↔私憤」，初出は「経国美談［1883－84］〈矢野龍渓〉前・一六」，漢典は「宋史－陳亮伝」）と違う。

蒼井そらが指摘した対中要注意の7～9月には，第2次上海事変（中国側名称＝淞滬（しょうこ）会戦。盧溝橋事変後に上海で行われ戦争全面化に連なった両軍の戦闘，1937.8.13～11.12）勃発日も有る。3年後の同旬の「8.19」は重慶爆撃（1938.2.18～43.8.23）の最も猛烈な日の1つで，「重慶大轟炸（爆撃）記念日」（市政府98年制定）の「6.5」は，7月の前にも地雷が有る事を突き付ける。

独逸に由る戦史上初の都市無差別爆撃（西班牙・ゲルニカ，1937.4.26）と桁違いの期間・規

模で，日本は中国の臨時首都（40.9.6 決定）に対し実力・士気を殺ぐ為に戦略爆撃を執拗に展開した。本格的な密集空爆の嚆矢（1938.12.26［毛沢東の 45 歳の誕生日］）の 4 ヵ月余り後，焼夷弾使用の 2 日連続爆撃で約 4 千人の死者を出した（39.5.3［済南事件 11 周年］～4［「5.4 運動」20 周年］）。

「蜀犬吠日」（『広辞苑』の【蜀（しょく）犬日に吠ゆ】＝「［柳宗元，韋中立に答えて師道を論ずる書］［中国の蜀〈四川〉地方は山地で霧が多く，日を見ることが少ないので，犬はたまに太陽を見ると怪しんで吠えたということから］識見のせまい人が賢人のすぐれた言行に対して疑いを持ち，非難する不当さのたとえ。∇しばしば“呉牛月に喘（あえ）ぐ”と対で使う」）の由来の通り，四川盆地は屡々濃霧に包まれる。

それに由る視程障碍は空襲を防ぐ「天然屏障（防壁）」と成り，霧が少ない 5～10 月は蒼井そら警戒の 3 ヶ月を含む緊張の夏～秋に為る。立夏（5.5）直前の絨毯（じゅうたん）爆撃は「天（の）時 vs. 地（の）利」の攻防であるが，中国現代史の起点の 20 周年に巡り合せた重慶の戦災被害は，地名と逆の「重厄」（重大･重層的な災厄を表す造語）と言える中国の受難の宿命を現した。

「霧の都」倫敦は高濃度硫酸の霧（スモッグ）の滞留（1952.12.5［林彪の 45 歳の誕生日］～10）で，数週間の内 1.2 万人が死亡し大気汚染の改善を促す契機と成った。抗日戦争中の「霧都」重慶の度重なる罹災は人災でしかなく，真珠湾攻撃の半年前の最も凄惨な「6.5」は巨大防空壕の隧道（トンネル）の通風孔を破壊した為，7 千人余りの市民が窒息か脱出時の踏み倒しで屍（しかばね）と化した。

重慶は直轄市への昇格（日中戦争勃発 60 周年の前の 1997.6.18）で世界最多の 3 千万人を擁し，翌年から「6.5」を「防空警報試鳴（実験放送）日」とし市街区で実施する事は注目に値する。JR 福知山線脱線事故の月日・時刻（4.25，9:18）には今も現場で人々が合せて黙祷を捧げ，その時間帯に通過する列車が減速し哀悼の意で長い警笛を鳴らす光景と二重映しに為る。

日本が米軍から受けた通常兵器空爆で最も被害が大きい 1945 年「3.10」東京大空襲は，記念日には成らないが 2011 年「3.11」東日本大震災（M9，約 1.8 万人犠牲）と日が隣り合う。一方，関東大震災（1923.9.1，M7.9，同 10.5 万）に由来した「防災の日」（9.1，60 年制定）は，台風の襲来が多いと言う二百十日（8.31～9.1）に当り，警戒心を呼び起す材料が二重に有る。

中国では汶川（四川）特大地震（2008.5.12，M8，6.9 万余人犠牲）の翌年，建国後の破壊力最大・犠牲者数 2 位の震災に因んで「防災減災（災難減少）日」が制定された。天災関連の国家記念日の初誕生の 5 年後，「中国人民抗日戦争勝利記念日」（9.3）と「南京大屠殺死難（犠牲）者国家公祭（追悼）日」（12.13）が制定され，師走の当日も日本の対中要注意の範囲に入る。

「5.7・9 国恥」「5.8 戦勝」「8.13 被害」「8.6・9 原爆」「11.29 連結」「7.30 命日」

「国恥記念日」（『広辞苑』＝「外国から恥辱を蒙ったとして，これを記念する日。中華民国で，一九一五年の二十一カ条要求を最後通牒で受諾した五月九日を記念する類」）は，中国では先ず「5.7（最後通牒通告日）/ 5.9 国恥」の後者が記念日と成った（江蘇教育会 5.20 決議，後に全国教育聯合会が

全学校での恒例化記念を決定）が，満州事変の「9.18」が未制定ながら最大の国恥記念日に当る。

「5.7・9国恥」の間の「5.8」は40年後に連合国軍が独逸軍に勝利した日と成り，降伏文書の調印が夏時間で同日に当る西欧では「欧州戦勝記念日（VE デー）」が制定された（仏蘭西では祝日）。ソ連/露西亜では莫斯科（モスクワ）夏時間の未明2時過ぎなので「5.9」が対独逸戦勝記念日と定められ，ソ連崩壊（1991.12.26［毛沢東生誕98周年］）後も烏克蘭（ウクライナ）等の旧同盟国の祝日の儘である。

米国の戦没将兵追悼記念日（1868年より5.30，1968年より5月最終月曜日・祝日化）に対して，日本の終戦記念日（8.15）は戦没者を悼み平和を願う日で全国戦没者追悼式が行われる。広島市原爆死没者慰霊式並び平和祈念式・長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典（8.6・9）が先行し，前者で「平和の鐘」を撞（つ）き黙祷を捧げる時刻（原爆投下の8:15）は敗戦宣言日と重なる。

大阪千日デパートビル火災～最高裁決定の歳月（1972.5.13～90.11.29）は，「文革」開始（66.5.16）からの同じ期間に置き替えると長さが実感できる。18年半は「文革」10年4ヵ月＋過渡期2年2ヵ月＋改革・開放6年から成り，「文革」終了4年3ヵ月後に林彪・江青集団裁判が済んだので，日本のこの事故清算は薄氷を踏む慎重と牛歩の緩慢を感じさせる。

最終裁定の同じ6年前（1984.11.29），胡耀邦は山崎豊子（小説家，本姓杉本，24.1.2～2013.9.29）と会見し，中国残留孤児の波乱の人生と日中経済協力・摩擦を描く新作の構想・取材に賛意を表した。山崎は胡が長崎訪問（前年11.29～30）で平和祈念像に献花し犠牲者の冥福を祈った事を取り上げて，中国の要人としての初めての挙動は日本の国民の心を搏（う）ったと称えた。

長崎国際平和公園（原爆投下の爆心地一帯，1950.8.1開設）の平和祈念像地区に，中国政府が人類平和・日中友好を願う民意を表す当く寄贈した「乙女の像」が有る。当地で約束した胡は山崎に対し翌年7月の完成（16日設置），「和平」の揮毫（裏面の揮毫は趙樸初［中国仏教協会会長，1907.11.5～2000.5.21］の詩句「百折千回心不退」［百回千回の曲折が有っても心は退かない］）を伝えた。

件の『大地の子』は連載（『文藝春秋』1987年5月号～91年4月号）中に人気投票1位と成り，山崎は謝辞『巴金先生の一言 文藝春秋読者賞を受賞して』（91年2月号）で，中国文学界の大御所（77年より作家協会主席）との再会時（84年秋）に，貴女のこの創作は人類に大きな意味を持つが非常に困難な仕事だ，作家にとって読者が一番大切だ，と言われて感激した事を記す。

山崎の『「虱」だらけの指導者・胡耀邦 素顔の中国首脳単独会見記』（同誌1985年5月号）に，胡が「文革」後遺症の徹底除去の必要性を論じ，陪席の夏衍も足をやられた被害を挙げた場面が有る。その「文革で痛めつけられ，辛うじて杖をついて生きぬいてこられた中国文芸界の重鎮」の姿は，巴金（小説家・翻訳家，本名李尭棠（とう），1904.11.25～2005.10.17）も大同小異である。

巴金は「文革」中「牛棚」（牛小屋。「牛鬼蛇神」［妖怪変化］収容所）に入れられ強制労働に従事し，妻蕭珊（本名陳蘊珍，『収穫』誌［隔月刊，編集長＝巴］編集者，1917～72.8.13）の窮死で打撃を受けた。巴は35年前の「8.13」上海事変で戦火の被害を逃れたのに今回は迫害・抑圧を免れず，10年余り創作・作品流布の権利を奪った「文革」への義憤が再起の発条（ばね）に成った。

巴金は歴史大清算・人生総決算の『随想録』（1978.12.1～86.8.20 作 150 篇，香港『大公報』［02.6.17 創刊］連載，香港三聯書店［48.10.26 発足］80～86 年刊『随想録』『探索集』『真話集』『病中集』『無題集』）で，「文革」の誤謬を批判し自分の盲従を反省し悲劇再演の危険を警告し，「“文革”博物館応当建立（設立す当し）」（86.6.15 執筆の『「文革」博物館』の掲載［8.31］時の改題）の提言をした。

彼は『探索集』所収の『訪問広島』（広島訪問。1980.6.5 作）・『長崎之夢』（同 10.20～21）で，2 回の原爆投下と 10 年の「文革」を人類史上の大悲劇として並称し，再演は許せないと説く。奥斯威辛（アウシュビッツ）強制収容所（ナチス独逸が波蘭で造り猶太人等を多数虐殺した施設）の存在を否定する向きに触れて，その遺跡の保存と同じく「文革」の記憶を後世に遺さねば成らぬと唱える。

『大地の子』の主人公松本勝男（黒龍江に入植した満蒙開拓団信濃郷に在籍）は 7 歳時，ソ連対日参戦に由り艱難な逃避行と敵軍の虐殺で祖父・母・末妹を失い，長崎原爆と同日の侵攻及び関東軍の遁走が戦争孤児を作った。中国人農家に売られ酷使された末に陸徳志（小学校教師）夫妻に救われ，養父母から陸一心の名が与えられ，実子の様に慈愛深く育てられて行く。

一家の大きな試練は解放軍の兵糧（ひょうろう）攻めで飢餓地獄に変り果てた長春からの脱出であるが，林彪指揮の長春包囲戦（1948.5.23～10.19）は冷酷な食糧封鎖で 10 数万人の住民を餓死させ，鄭洞国（東北剿匪副司令兼第 1 兵団司令，中将，03.1.13～91.1.27）と麾下の部隊の投降を導いたが，開始の 18 年後「文革」初の「彭羅陸楊」要職解任が有り，終了は長征勝利 13 周年に当る。

養父の故郷（吉林范家屯）で育った一心は大連工業大学に入り，同市は清岡卓行（詩人・小説家，1922.6.29～2006.6.3）の『アカシアの大連』（『群像』69 年 12 月号，70.1.19 芥川龍之介賞［35.9.1 創設］受賞）の様に日本では馴染が深い。敗戦後の引き揚げ（1948）まで生地の大連に暮した彼の私小説風中篇は郷愁が漂うが，同輩の山崎が描く大連は青春と政治の明暗が交錯する。

大連の都市形成は 1880 年代に清国が大連湾北岸に砲台を築造した事に始まり，『日清両国媾和条約』締結（1895.4.17，山口県下関市）後の 3 国干渉（4.23，露・仏・独勧告）で，日本に割譲された遼東半島が清国に還付され（11.8），露西亜は見返りに半島尖端部の租借権を獲得し，大連を含む Дальний（「遠い」意の露語名称）で不凍港の整備と都市の建設に掛った。

郊外の旅順要塞は日清戦争で日本が即日に攻略し（1894.11.21），戦死 40 人対 4500 人の圧勝を遂げた。日露戦争中の旅順攻囲戦（1904.8.19～05.1.1）も露軍の死守失敗・投降で終ったが，203 高地攻防（11.27～12.5）の双方の甚大な消耗（共に死者 5 千人超・負傷者約 1.2 万人）の様に，40・74 年後の中国の抗日戦争・対越戦争と通じる「惨勝」（悲惨な勝利）の観が強い。

55 歳の誕生日に高地を攻め落した乃木希典（第 3 軍司令官，大将，1849.12.5～1912.9.13）の生・歿は，奇くも其々 58・59 年後の林彪と日が重なる。乃木は学習院（1847.3.9 前身［学習所］開講，77.10.17 再開）長（1907.1.31 就任）在任中，明治天皇（名は睦仁，67.2.13～12.7.30 在位，52.11.3～同）を慕う究極の形で，大葬の日に妻静子（幼名お七，1859.11.29 生）と共に自刃殉死した。

明治～昭和の文豪幸田露伴（小説家，本名成行，1867.8.22～1947.7.30）は明治天皇の 35 年後

に歿し，建文帝（朱允炆。1398.6.30～1402.7.13 在位，77.12.5～02?）の数奇な生涯を描く『運命』（1919）を称えた谷崎潤一郎（小説家，1886.7.24～65.7.30）は丸 18 年後に昇天した。露伴の史伝の冒頭の「天数」を思わせる様に，彼の明恵帝と 530 年後の林彪は同じ誕生日である。

203 高地攻撃と並ぶ伝説的な対露勝利の日本海海戦（1905.5.27～28，日本海対馬沖）で，東郷平八郎司令長官（海軍大将［後元帥同］，1848.1.27～34.5.30）の率いる連合艦隊がバルチック艦隊を壊滅させた。映画『日本海大海戦』（東宝製作，丸山誠治［1912.6.15～89.11.22］監督，69.8.13［第 2 次上海事変 32 周年］公開）は，70 年から「軍国主義復活」の徴候として中国で内部上映された。

『連合艦隊司令長官 山本五十六』（同社・監督，1968.8.14［ポツダム宣言受諾 23 周年］公開）は，『あゝ海軍』（大映，村山三男［20.4.1～79.7.29］監督，69.7.12 公開）も小範囲で観られた。乃木夫人生誕 125 周年に当る日の懇談で胡耀邦は山崎豊子に対し，前者は真実を描いているが後者は良くないと評し，山本海軍大将（1884.4.4～1943.4.18）の愛国心は極めて狭いと述べた。

山崎と『大地の子』に纏わる天数として日中国交正常化 41 周年時の逝去が有り，中国へ切り込む手掛りを竹内實（京都大学人文科学研究所［1949.1 設立］教授）の教示に求める日も，日清戦争勃発 90 周年（84.7.25）に巡り合せた。彼の現代中国研究の泰斗（1923.6.12～2013.7.30［明治天皇・幸田露伴・谷崎潤一郎と同じ命日］）は，「壮大な失敗作」の予言で作家の心に火を点けた。

日本は『日露両国講和条約』（1905.9.5，米国・ポーツマス）で遼東半島の租借権を譲り受け，大連を亜細亜有数の貿易港と近代都市に仕上げた。日本人が人口の 1/3 を占め支配層を成す状況は敗戦で破れ，『中ソ友好同盟条約』（1945.8.14 締結）に由りソ連は大連・旅順港等を管理し，中共建国後の 51 年に返還したが，3 国の恩讐が交錯する土地は恰好（かっ）の舞台である。

異国の複雑な歴史と人物の多難な生き様の表現は巴金の指摘以上に困難を極めるが，「日本のバルザック（仏蘭西の小説家，1799.5.20～1850.8.18）」と呼ばれる社会派文学の旗手は，壮大な構想と緻密な写実を以て，20 世紀の「人間悲劇」（重層的な群像・多彩な人間模様から 19 世紀前半の仏蘭西社会を壮観に映し出すバルザックの作品群『人間喜劇』を捩った語）の造形に成功した。

「事実は小説 / 虚構 / 創作よりも奇なり」（バイロン［英国の詩人，男爵，1788.1.22～1824.4.19］『ドン・ジュアン』［18～24］に有る “Truth is stranger than fiction.”）は，日本で成句化した（初出＝徳冨蘆花［小説家。名は健太郎，1868.12.8～1927.9.18］『思出の記』［00－01］）。確かに世の中の出来事は作り話の物語よりも怪奇で，中国は更に「無奇不有」（如何なる奇怪な事も無くはない）の国柄も有る。

彼は出自の所為で幹部家庭出身の恋人趙丹青に別れを告げられ，技師として首都製鉄所勤務中も同じ差別で「文革」初に労働改造所に送られ，寧夏（回族自治区）・内蒙古での堰堤（ダム）建設・羊飼いの労役を経て，囚人の脱走幇助の冤罪で 15 年に追加され，養父等の陳情が中央の要人に認められて通算5年半で釈放される，という設定はあの暗黒時代に有り得る。

職場に復帰した一心は専門知識と労改「難友」（受難の仲間）に教わった日本語を活かし，通訳者として日中提携の宝華製鉄所（原型（モデル）＝上海宝山県に在る宝山鋼鉄総廠（しょう））の建設に加わる。

其処で終戦時に国内に居た父松本耕次（東洋製鉄［同＝新日本製鐵］上海事務所長）と再会するが，両国の戦後処理・親善融和と中国の「大煉鋼鉄・文革」後遺症及び改革・開放が絡み合う。

「12.9 示威」「9.17 海戦」「9.18 記憶」「10.8 発端」「5.29 結成」「7.5 攻略」

1977 年 10 月，葉志強（冶金部次官，23.6～2006.7.19）が政治局に訪日見聞・所感を報告する際，2 つの屈辱的な体験を披露した。先ず宴会で出た飲物の「易拉罐」（プルトップ缶）は見た事が無く，鉄を紙並みに薄く引き伸ばし彩色（カラー）の図案を刷る神業は想像も付かない。次に大使館の最上級国産車は日本車に付いて行けず，無理に加速すると走れなくなった，と言う。

日本の鉄鋼業は中国より 15～20 年進んでいるとした考察報告書に，指導部の面々は震撼させられ猛追の意志が湧いた。李先念が稲山嘉寛（新日鐵会長，1904.1.2～87.10.9）に建設協力を要請し（11.28），宝鋼が発足した（12 月末）。山崎豊子も新日鐵から取材の便宜を得たが，誕生日（生前の 1924.11.3 から歿後戸籍に拠り修正）が会長の丸 20 年後に当るのは奇縁である。

鄧小平は友好平和条約（1978.8.12 締結，北京）批准書交換式（10.23，東京）出席の為に訪日し（22～29），26 日に新日鐵君津製鉄所（千葉県木更津市，67.3 起工，68.11 操業開始）を見学した。彼は世界最大級の銑鉄一貫製鉄所の生産高・水準と両国の経済発展の落差に衝撃を受け，実質的な政府首脳（職は副総理）として中国に同じ製鉄所を造るよう日本の協力を求めた。

20 年前の「大煉鋼鉄」は毛沢東の狂想（前年の粗鋼 535 万噸→本・来・再来年の 2200 万・3000 万・4000 万）が頓挫し，1960 年の 1866 万は日本の 2200 万を大きく下回った。15 年で英国に追い着く目標の 1973 年の実績 2522 万に対し，日本は米国・ソ連の 1 億達成時（53・67）の 766 万･6215 万（西独を抜く 3 位）から 72 年に大台に乗り，中国より 24 年も早かった。

中澤克二は習近平党首再任の日から「2035 年の暗号」に想到したが，40 年前の翌日の鄧の君津見学は歴史的な意義を持つ。11 期 3 中全会の閉幕日に宝鋼の工場施設（プラント）設備に関する基本協定が調印され，翌日（12.23）に起工式が行われた。建国後最大の建設項目（プロジェクト）（総工費 300 億元は国家年間財政収入の 37.5%）は，紆余曲折を経て 7 年後に完成した（1985.11.26 操業開始）。

胡耀邦は新日鐵大阪堺（山崎居住の市）工場で連続鋳造設備を参観し，鉱石が瞬く間に鋼板と成る神業に瞠目した（1983.11.28）。宝鋼建設に情熱を傾けた彼が完工式に出席しなかった事に就いて，山崎は 2 回目の会見（1985.12.7）で遺憾を表した。同時に，中国初の年間生産 600 万噸の一貫製鉄設備の 1 期工事の快挙（世界で珍しい 1 回の火入れで稼働）に祝意を述べた。

代りに趙紫陽総理が祝辞を述べに行ったと胡は釈明した上で，自分はこの前の幹部会議で，21 世紀には建党 100 周年の時，中国は宝鋼の様な製鉄所を 10 ヵ所以上持たねば成らぬと報告した，と語った。35 年後の党史の節目は彼の生誕 105 周年で存命の確率が零に近いが，同規模の生産基地の 10 倍増の長期目標に思いを馳せたのは 100 年への拘りに由る。

葉次官の訪日「受辱」（恥を受ける）譚は宝鋼建設の起爆剤（当人が初代総指揮）と成ったが，山崎の会見記『「靖国批判」の中の北京』（『文藝春秋』1986 年 4 月号）にも国辱の記憶が出る。1985 年夏から起きた学生の反日運動は満州事変 54 周年の「9.18」に気炎が上がり，天安門広場で「日本軍国主義 / 中曽根打倒」「靖国神社参拝反対」の標語を掲げる示威進行が有った。

中曽根康弘首相（1982.11.27～87.11.6 在任）は終戦 40 周年の「8.15」に靖国神社を参拝し，同日実施の異例の首相公式参拝（21 年後の小泉首相は公私の別を明言せず）は中国で反撥された。戦没者慰霊が首脳参与の公的行事と為る国も多い中で，中国は首相参拝を問題視しなかったが，天皇の忌避を招いた A 級戦犯合祀の後だから，朝野とも善隣への期待を裏切られた。

胡は訪日（1983.11.23～30）で中国の要人として初めて国会で演説し（25），首相官邸での歓迎晩餐会の翌々日（26）首相の内輪の昼食会に招かれた。中曽根訪中（翌年 3.23～26）の 2 日目に胡は私邸で昼食会を催し，中国外交史上初の首脳同士の家族包（ぐる）みの親交を試みた。その熱意は中曽根参拝後に過度の親日と叩かれ，後に保守派の敵視で失脚の罪状に挙げられた。

中曽根は政治・外交上の配慮から秋の靖国神社例大祭（10.17～19）から参拝を取り止めたが，中国に於ける日本企業の広告撤去・宣伝規制・製品不買の動きが師走に入っても続いた。折（おり）しも「12.9 運動」（1935 年の当日に北京で起きた学生の抗日示威，全国に拡大）50 周年を控え，北京在住の日本人が反日行動に身構えたが，胡・山崎の再会・懇談は一種の緩衝材に成った。

日本側の宝鋼建設支援（7 年 8 ヶ月，延べ 1 万人投入）は中国で余り正当に評価されず，一部の新聞は日本に騙され高い物を売り付けられたと叩いている，という山崎の不服に対し，胡は公正な報道は重要だと応えた。学生の反日示威で掲げられた「経済侵略」の標語も不当だと山崎が訴えると，胡は他にも「胡耀邦は親日派！」等の正しくない主張が有ると同調した。

次の論評（「十億もの人間の意識を一つにまとめることは不可能なことだ，今，党と国家のやり方に賛成しない人もいるが，その数は少い，中国の諺に“醜児家家有”，どの家にも醜い息子の一人ぐらいいるわけだよ」）は，7 年前に始まった独り子政策の時代に死語化して行く俗諺で異端者を批判するが，数年後の自身の急逝が触発した学生の民主化運動への長老の非難と通じる語弊も有る。

靖国問題に関する非公式の見解（「もっと中国人民の感情を傷つけぬよう配慮して貰いたい，中国は八カ国侵略［注は略］を受けてから八十五年経（た）って，ようやくその記憶が薄れて来たが，抗日運動からは四十五年，中日戦争からはまだ四十年しか経っていない，あと四十年ぐらい経ってからでないと，淡々とした気持になれないことを考えてほしい」）も，灰汁（あく）の強い個性らしい非正統・不規則発言である。

会見後に甦った 1984 年の見聞（「延安革命記念館には凄まじい抗日戦争の歴史が展示され，中でも焼けただれた戦車の車体の破片に“不忘民族恨”と記された黯（くろず）んだ五文字が，今なお眼に灼（や）きついている」）から窺える様に，民族の恨みを忘れない意志は歴史教育に由って代々受け継がれて行く物で，85 年も経てば記憶が薄れ遺恨に対して淡々たる気持が生じ得るとは模範解答ではない。

但し，首都陥落・朝廷逃走の国辱を与えた 8 ヵ国聯軍侵略は確かに記憶の風化が進んだ。

2 回の清英講和の南京 / 北京条約（1842.8.29/60.10.24）に由る香港島 / 九龍半島割譲の後，8 ヵ国侵攻の 2 年前に新界租借（98.7.1）で英国の香港支配は完成したが，86 年後の中英共同声明（1984.12.19 調印，85.5.27 発効）で返還（97.7.1）が決り，歴史は百年未満で上書きされた。

更に 4 年前の日清戦争は 85 年後（1979），勃発日も宣戦布告日も殆ど人々の記憶に無い。北洋水師艦隊大敗の黄海海戦（1894.9.17）も「文革」後の『甲午風雲』（長春映画製作所，1962）再公開で，鄧世昌（戦没した防護巡洋艦「致遠」号艦長，49.10.4 生）の呼称「鄧大人」が国民待望の鄧小平と重なり話題に成ったが，同年（78）の復帰で 85 周年後の関心・熟知度が低い。

第 2 次鴉片戦争は「亜羅（アロー）」号事件（1856.10.8，広州の官憲が英国籍を名乗る中国船に臨検を行い，海賊容疑で数名の船員を逮捕）に端を発し，英国は自国船籍（実際は前月に期限切れ）への措置を不当とし，国旗（清側は未掲揚と主張）を引き下ろされた事に抗議し，交渉決裂の結果 23 日に英海軍が戦闘態勢に入り，24 日の砲撃～29 日の広州突入（当日撤退）で戦火を燃やした。

仏蘭西は自国人宣教師（シャブドレーヌ，1814.2.6～56.2.29）殺害事件（広西西林県，越境布教の罪で地元の加特力（カトリック）教徒と共に処刑・獄門）に憤慨し，翌年に英軍と連合して広州を占領した（12.30）。大沽口（現天津濱海新区）攻防戦（1858.5.20，59.6.25，60.8.1，其々聯軍・清軍・聯軍勝利）を経て，清は宣戦布告（60.9.6）後の八里橋（北京郊外）決戦（21）で敗れ，首都投降（10.13）を許した。

第 1 次大沽口戦闘の 6 日後に天津近郊も陥落し，清は敵地の其処で露西亜・米国（漁夫の利を狙う調停者）・英国・仏蘭西との不平等条約を呑んだ（6.13・18・22・27）。翌々年の清英・清仏間の北京条約（10.24・25）も朝廷（［河北］承徳避暑山荘に避難中）屈服の産物であるが，85 年後の同月 24 日に創設した国連で中国は米・ソ・英・仏と並ぶ安保理常任理事国に成った。

対露・米条約調印の 100 年後は毛沢東が粗鋼生産年内倍増の夢を膨らませる最中で，鉄鋼業発展史上の「偉大な日」の「6.19」は，建党 76 周年記念日に当る香港返還と似た「百年雪辱」の意味を持つ。3 回の大沽口激戦の日も其々台湾・北京戒厳令実施の 91・131 年前，朝鮮戦争勃発の 91 年前，中共建軍の 67 年前に巡り合せ，戦乱日の多さを思わせる。

甲午（1894）「9.17」黄海海戦は 37 年後の「9.18」満州事変と日付が隣り合い，34 年前の第 2 次鴉片戦争の終盤のこの 2 日も先ず休戦談判が決裂し，次に清が英仏代表等 39 人を拘留した。10 月 8～16 日に 18 人が釈放され 21 人の虐待死が判明した事で聯軍は報復に出て，18～19 日（紅軍長征勝利・志願軍朝鮮出兵の 75・90 年前）円明園（離宮）を焼き討ちした。

清華大学附属中学の高校生張承志（回族，後小説家，1948.9.10 生）が命名した「紅衛兵」は，有志生徒が 66 年 5 月 29 日に同校附近の円明園遺跡で集会を開いて結成したのである。創設成員は聖地と見做す発祥地に因んで，鴉片戦争以来の革命の正統な継承者を自任したが，「家（父）長」の誤った指導で「醜児」に変貌し，廃墟の再建どころか破壊の爪痕を残した。

中国の近代と人民英雄記念碑の追悼対象（碑文［周恩来揮毫］記）の起点と成る第 1 次鴉片戦争は，清の鴉片禁輸への不満から英国が戦端を開いた。東方遠征軍の広東沖到着（1840.6.21）

→北上（30）後の（浙江）定海攻略（7.5）で，海外の軍隊が中国の町を占領する先駆けと成った。俵万智の「サラダ記念日」（7.6）の前・後の2日とも，中国で戦争勃発の過去が有った。

清は宣戦布告（1841.1.27）後に広州屈服（5.26）を皮切りに，福建・浙江・江蘇の要地陥落が続き（厦門［8.26］・寧波［42.3.10］等・上海［6.19］・鎮江［7.21］），世界初の不平等条約と為る江寧（南京）条約で敗北を受け入れた。後の中英虎門条約（1843.10.8）・中米望厦（か）条約（44.7.3）・中仏黄埔条約（同10.24）等，中国は列強の圧迫で相継ぐ不平等条約を強いられて了った。

終戦85年後の1927年には蒋介石が上海で反共政変を起し，後ろ盾の英米勢力が強い長江下流三角洲の南京に首都を構えた（4.18）。不平等条約の束縛も鴉片の毒害も旧態依然で，列強とは相互利用の関係に在るが，第1次鴉片戦争に対する痛感の稀薄化は否めない。日中戦争勃発85年目の初日（2021.7.7）のソニー対中広告を巡る騒動も，類似の傾向を現した。

「37・98・42年組」「11.9閉幕」「85歳vs.58歳」「73歳定年制」「人間五十年」

終戦50年後の3首相（橋本龍太郎［第82～83代，1996.1.11～98.7.30］，小渕恵三［同84，～2000.4.5］，森喜朗［85～86，～01.4.26］）は，出生が日中戦争勃発の先～当月に集中する（37.7.29～06.7.1，37.6.25～00.5.14，37.7.14生）。前・後1年以内に生れた首相は同じ平成の第79代（1993.8.9～94.4.28）の細川護熙（38.1.14生），第91代（2007.9.26～08.9.24）の福田康夫（36.7.16生）も居る。

戊戌変法（1898.6.11～9.21）の年に生れた周恩来・彭徳懐・劉少奇・康生（3.5，10.24，11.24，未詳）も，劉は毛沢東に次ぐNo.2を10年務め，周は林彪自滅後に同職位に昇り，時の最高指導部（政治局常委会）の3人中2人（周・康）が98年組である。『義勇軍行進曲』を主題歌とする映画『風雲児女』に因んで言えば，百日維新の風雲が生んだ風雲児群の様に思える。

劉・彭の歿年70・76は其々3・15年に及ぶ迫害と監禁・虐待の所為が大きいが，その「専案」（特別捜査）を司り加害した周・康の77歳も苦難の末に余り延命できなかった。建国後の中国人の平均寿命の推移（1949年35歳→57年57歳→81年67歳→99年71歳→2018年77歳）と照らせば，4人平均の75は長寿に算え得るが，超高齢要人も多い中で早逝の感も有る。

69歳の胡耀邦は初対面の山崎豊子に対し，今の中国の情況は変化が激しく且つ複雑で，中国を書くには貴女の滞在（半年未満）は短過ぎ，10年ぐらい居て，作品は21世紀に間に合えば可い，と助言した。その言葉は正に中国と中国人以外の何物でもないと山崎は感じ入ったが，彼は政治的圧迫の被害で寿命が縮まり2000年（85歳）を迎える事が出来なかった。

余命26日の劉少奇が同意せぬ儘で担架に載せられて開封に飛ばされた日（1969.10.17），紅軍長征開始25周年時に生れた趙紫陽は満50歳と成った。71歳で失脚し73歳で急逝した前任党首と「殊途同帰」（経路が異なり帰着は同じ）で，69歳で解任され長期軟禁下の不自由・非健全な擬似長生を遂げたが，歿年の85は彼を切った直後の鄧小平の年齢である。

鄧の軍委主席再任（1987.11.2）の為に党規約改正（前日）で資格（政治局常委）制限が外され，83 歳時の掟破りの留任は 84 歳時の党首更迭・民衆への武力鎮圧の乱心で弊害が露呈した。国際的な孤立を招いた結果 1989 年 11 月 9 日に任期（5 年）途中で不本意な引退をしたが，東西隔絶の象徴と為る伯林の壁（61.8.13 建造）の崩壊と同日の出来事は歴史の転換点である。

同年春～夏の民主化運動で学生は改革志向のソ共党首ゴルバチョフの 58 歳と比べて，85 歳（数え年）の鄧を守旧の老害と貶めた。毛沢東の後任華国鋒は党首の年齢を 17 歳も下げた（82 → 55）が，59 歳時に鄧等の古参組の意向で主席辞任に追い込まれ（1980.12.5），還暦過ぎ後 65 歳の胡に明け渡し，81 歳で引退（2002.11.15）後 08 年北京五輪中に 87 歳で歿した。

2008 年に実施された日本の医療制度では，65～74 歳 /75 歳以上は前 / 後期高齢者と区分される。日本人の平均寿命は明治の 40 代前半が中国より数十年も進んでおり，1947 年頃の男女共 50 歳超は中共治下で落差が急速に縮まったが，86 年の同 75 歳超や 2022 年の男性 82・女性 88 歳は逆に開きを大きくし，全平均 85 歳超で超高齢期の設定も必要に成ろう。

和製漢語「初老」（『広辞苑』＝「①老境に入りかけた年ごろ。“―の紳士 ” ②四〇歳の異称。［『菅家文草五』出典略］」。『日国』＝「四〇歳の異称。また，老人の域にはいりかけた年頃。寿命がのびた現在では，五〇歳から六〇歳前後をさすことが多い。女性では月経閉止期，男性では作業能力が衰えはじめたときから老化現象が顕著になるまでの期間」，初出は上記②と同文献の別箇所）は，中国人の感覚と符合する。

NHK 放送文化研究所（1946.6 設立）が行った網上意見調査（ネット アンケート）（2010.3～4，724 人回答）で，「初老」は何歳ぐらいの人に対して使えるかという設問の答えは，「60～64 歳」が最も多かった（42％）。平均の 57 歳（男性 55.5 歳，女性 58.4 歳）は，同年 57 歳に成った習近平も党首就任時 55.6 歳の華国鋒も当て嵌るが，『現漢』の【老年】は 60～70 歳以上と規定する。

中国の定年退職の年齢（行政・事業機関では男性 60 歳・女性 55 歳，企業では同 55・50 歳）は，「未老先衰」（未だ老いていないのに衰える）に擬えて「未老先退（退休［定年退職］）」と言える。「未富先老」（未だ富裕に成れない内に老いて了う）と共に社会問題を成すが，年金不足の危機を解消する為の年齢引き上げは，若者の就労や子育てへの支援を妨げるとして抵抗が強い。

日本の高年齢者雇用安定法（祖形＝ 1971 年制定『中高年齢者等の雇用の促進に関する特別措置法』）は，少子高齢化に伴う生産年齢人口（15～64 歳）の減少に対応する改正を重ね，先ず定年を段階的に 60 → 65 歳に引き上げる事を義務化し（2012.8），更に 70 歳までの就業機会の確保を努力義務とし（20.3），後期初老者（造語）延いては前期高齢者の余熱発揮が期待される。

自民党は今世紀初の衆議院議員選挙（2000.6.25）で，比例区 73 歳定年制を部分的に導入した（2.15 決定）。解散日（6.2）は 14 年前にも衆院解散が行われ，新議長（7.22 当選）原健三郎は平成元年 6 月 2 日に政府予算案の強行採決（憲政史上［1890.11.29 以来］初，自民党単独，4.28）を巡る混乱で辞任したが，今回この大長老（1907.2.6～2004.11.6）は 93 歳で政界を引退した。

彼は労働相在任中（1971.7.5～72.1.28）の成人式祝辞（1.15）で，「感謝の念を忘れると養護

老人施設（ホーム）に収容される破目に成る」と語り，老人福祉行政への逆行や孤独な老人への非礼とされ辞任に追い込まれた。彼は老いて益々盛んの意気込みで，死ぬまで議員であり続けると誓ったが，老害を防ぎ新陳代謝を促す年齢制限の時流に勝てず我を押し通せなかった。

次の次の第67代衆院議長（1990.2.27～93.6.18）櫻内義雄（12.5.8～2003.7.5）も共に引退し，朝鮮戦争勃発50周年時の第42回衆院選は与党の新制度で政界の世代交代の走りと成った。第1議会以降25回連続で衆院に議席を占めた「憲政の神様」尾崎行雄（1858.12.24～1954.10.6）は，議員勤続63年・94歳まで現役（90.7.2～53.3.14）の日本記録の永久保持が確定された。

中曽根康弘は4年後の『自省録　歴史法廷の被告』（新潮社，2004.6.25）の冒頭に，小泉純一郎が衆院議員の引退を勧告しに来た時（03.10.23）の応酬を記す。彼は憲法・教育基本の改正に掛ける使命感・執念を訴え，中→小選挙区制への移行時の党指導部約束（1996）の特例保証（比例北関東圏（ブロック）に於ける終身1位）を盾に拒んだが，総裁は反駁せず再考に応じなかった。

彼は政治家の一生の一念を全うさせないのは総裁の行（や）る事ではないと断じ，第43回選挙（11.9）第1次公認名簿（解散日の10.10）に無断で自分と宮澤喜一が外され，今や突如迫って来るのは非礼で政治的テロだと吼えた。小泉の祖父又次郎（逓信大臣等歴任，1865.6.10～1951.9.24）の人間尊重と比べて敬老精神が無い，等と沸々たる怒気で縷々と不満を述べた。

面罵調の叱咤に続いて綴った酷評は，小泉には情愛が無いと決め付ける。理（理性・論理・合理）が欠けている，という小沢一郎（自民党幹事長・新進/自由/民主党党首歴任）の小泉評を引いて，言い得て妙だが，政治家には寧ろ理にも益して情愛が大事だと説く。更に大衆受けの得意技は瞬時触（タッチ）発断言型の瞬間芸で，其処には思想・哲学・歴史観が見られないとする。

小泉・小沢と胡錦涛・温家宝は同じ真珠湾攻撃の翌年に生れ（1942. 1.8，5.24，12.25，9.15），小泉の総裁・首相就任（2001.4.24，26）と胡・温の総書記・総理就任（02.11.15，03.3.15）は，59.9歳±7ヵ月の年齢層で両国指導者の若返りの新常態（ニュー・ノーマル）を現す。胡の丸10年後の習近平党首当選と翌月26日の安倍晋三首相再登板も，還暦未満（59歳5ヵ月，58歳3ヵ月）である。

初の昭和生れの首相海部俊樹（1989.8.10［58歳7ヵ月］～91.11.5在任，31.1.2～2022.1.9）の総裁選（10.27）不出馬表明（同5）後，最有力後任人選は47歳で幹事長と成った小沢である。竹下派会長の金丸信（元副総理，1914.9.17～96.3.28）が同派7奉行中最年少の彼を促したが，当人の心臓病（6.29～8.10緊急入院・療養）の為，49歳の首相誕生の百載一遇の機会が潰えた。

最大派閥の竹下派は独自の候補を擁立せず，他派領袖の競合から支持対象を選ぶ為，小沢会長代行が宮澤・三塚博（1927.8.1～2004.4.25）・渡辺美智雄（23.7.28～95.9.15）を面接した（10.10）。宮澤は「昨日，大幹事長のお膝元（岩手県）に行って来ました」と卑屈な御世辞で歓心を買い，国際派・経済通を期待する世論の後押しも有って首相の座に登った（1991.11.5～93.8.9）。

彼は小選挙区比例代表並立制・政党交付金の導入を柱とする政治改革に消極的で，「改革フォーラム21」（1992年12月18日に竹下派から独立した羽田孜・小沢派）に反対された。政治

改革 4 法案の廃案（翌年 6.14 断念）後，内閣不信任案が同派の賛成で可決された（18）。衆院解散（同日）･選挙（7.18）で自民党が過半数を大きく割り込み，38 年に及ぶ 1 党執政が終った。

泡沫経済崩壊元年に就任した宮澤は，党の分裂・下野で 55 年体制の崩壊に見舞われた。第 15 代総裁在任中に政権を明け渡した事で，彼は「自民党の徳川慶喜」と揶揄されたが，その第 15 代征夷大将軍の在職（1867.1.10～68.1.3）も短い（宮澤の 1 年 9 ヵ月に及ばず）ものの，江戸幕府（1603.3.24 発足）の 264 年の歴史は，大半の時期が重なる清の 267 年並みに長い。

幕府設立時の初代徳川家康の任期（～1605.6.2）も 15 代平均（17.6 年）を大きく下回るが，就任の 60 歳（1543.1.31～16.6.1）は慶喜（1837.10.28～1913.11.22）の 29 歳の 2 倍強である。15 代の同最高・低年齢（60・3 歳）と平均（27.7 歳）は，40 歳＝初老の尺度で見る必要が有る。現代の初老の起点は約 1.4 倍高い故，宮澤の同 72 歳はその大昔の 51.5 歳に相当する。

平敦盛（源平合戦［承治･寿永の乱，1180～85］で討ち死にした武将，69～84.3.20）を表現する『敦盛』に，「人間（じんかん）五十年，化（け）天のうちをくらぶれば，夢まぼろしのごとくなり」と有る。織田信長（戦国・安土時代の武将，1534.6.23～82.6.21）はこの幸若舞曲（作者・創作年不詳）を好み，桶狭間の戦（たたかい）（今川義元［大名，19～60.6.12］を奇襲し即日に敗死させた戦闘）の出陣前に歌い舞った。

人間（じんかん）（人の世）の 50 年は化天（六欲天の第 5 位）の 1 日に当り，夢幻の様な物だという意味は，人生は 50 年に過ぎないと現代人が誤認し勝ちであるが，当時の平均寿命を考えれば牽強付会とも言えない。現に織田は満 48 歳に成る直前の本能寺の変で自刃し，同じ敗戦で自害した西郷隆盛（幕末～明治初の武士・政治家，1827.12.7～77.9.24）も歿年 49 である。

織田を死に追い込み直後に討ち取られた明智光秀（1528～82.7.2）の 54 歳も短命であるが，織田と共に戦国 3 英傑を成す豊臣秀吉（37.3.17～98.9.18）・家康の 61・73 歳は次元が違う。小泉純一郎は若い頃「人間五十年」の無常観に感銘を受け，首相在任中（59～64 歳）孤高な情念で人気を博したが，彼の「自民党をぶっ壊す」を実践した時の宮澤の 73 歳が興味深い。

「一年有半」「若返り vs. 先祖返り」「無事・平時・乱世・大乱世」

55 年体制後の初代首相細川護熙（日本新党［1992.5.22 結成］代表）は 55～56 歳で在任し，非自民・非共産連合政権の次期首班羽田孜（新生党［同 93.6.23］党首，35.8.24～2017.8.28）は同 58 歳である（94.4.28～6.30［現行憲法下最短の 64 日］）。次（～1996.1.11）の村山富市（日本社会党［45.11.2 成立］委員長）は，70～71 歳（24.3.3 生）の在任で若返りの流れが止り宮澤時代に逆戻りした。

自民党・社会党（1996.1.19 より社会民主党）・新党さきがけ（93.6.21 創設）連立政権は，村山より 13 歳若い新首相橋本龍太郎の第 1 次内閣まで続いた。小選挙区比例代表並立制下の初衆院選（96.10.20）で社・さの議席が激減した結果，第 2 次（96.11.7～97.9.11）から自民党単独政権と成り，37 年生れの 3 代連続の 1 人目は細川･羽田に続く若さ（58～61 歳）である。

参院選（1998.7.12）敗北に由る橋本の引責辞任（翌日表明）で，同じ竹下派7奉行で同派分裂（小渕派vs.羽田派）時に領袖と成った小渕恵三の代で，最後の自民党単独政権（同30～99.1.14）が維持された。第1･2次内閣改造（～1999.10.5，～2000.4.5）で其々自由党（98.1.8成立）と連立し，更に公明党（同64.11.17）を入れたが，脳梗塞で倒れ（4.2）42日後に62歳で歿した。

彼は緊急入院後1度も意識が回復しなかったが，青木幹夫（内閣官房長官，1934.6.8生）は見舞の際に臨時代理に指名されたと称し，深夜に森喜朗（党幹事長）・村上正邦（参院議員会長，32.8.21～2020.9.10）・野中広務（幹事長代理，25.10.20～18.1.26）・亀井静香（党政務調査会長，36.11.1生）と密議を行い，村上の発案で森が後継総裁・首相に成った（内閣総辞職の翌日［4.5］就任）。

病気を理由とする首相在職中の退任は，同じ1年半余りで選挙戦中に急逝した大平正芳（歿年70）以来の事である。前回は伊東正義（内閣官房長官，1913.12.15～94.5.20）・西村英一（副総裁，1897.8.28～87.9.15）が其々首相・総裁を代行したが，小渕は非常事態に備えて外遊時以外の代理を指定せず，法的な不備も有って自民党の実力者5人組の談合決定が罷り通った。

森は小渕死去の翌日の「日本は天皇を中心とする神の国」等の失言で首相の資質を糾され，失策も加えた所為で支持率が低く「蜃気楼（氏名の音読に引っ掛けた洒落）内閣」と揶揄された。就任1周年の翌日の辞意表明後の総裁選で自派の小泉純一郎が地滑り的な圧勝を収め，内閣発足時の歴代1位の支持率（主要各社調べ＝78～87％）は旧政権への強い嫌気を物語る。

地方予備選（都道府県支部連合会実施の党員・党友投票）で，小泉の123票が橋本龍太郎の15票・麻生太郎（1940.9.20生）の0票を圧倒した。開票後に辞退した亀井を除く本選挙の議員票（175，140，31）との合計も大差が変らない。最大派閥の橋本の敗退で3代に亘る「37年組」執政が終り，4歳若い小泉の59年時就任は同58歳だった橋本の初期に若返りした。

小泉は中曽根康弘以来18年振りの総裁任期満了（2006.9.21）に由る首相退任を遂げ（同26），安倍晋三（内閣官房長官）が58歳を迎える前日（同20）に総裁選で勝ち26日に首相と成った。戦後最年少･戦後生れ第1号の彼は老境直前（64歳）の小泉に代る世代交代を果したが，翌年の参院選（7.29）の与党大敗と潰瘍性大腸炎で辞意を表し（9.12）退陣した（同26）。

総裁選で麻生との一騎打ちを制した福田康夫の71～72歳時在任（37年組より1歳年長）は，父赳夫（1905.1.14～95.7.5）の同71～73（76.12.24～78.12.7）や宮澤喜一の72～73と重なる。彼は党内と公明党からの圧力で翌年に突如退陣を宣言し（9.1），国政選挙を経ずに成立し在任中も大型国政選挙が無かった内閣（羽田内閣以来14年振り）の総辞職（26）で幕を閉じた。

総裁選（9.22）の勝者は68歳の誕生日の2日後に3度目の正直を果した麻生（幹事長）で，敗者（年齢順と略（ほぼ）一致する得票順）の与謝野馨（元文部相・通商産業相・内閣官房長官，1938.8.22～2017.5.21）・小池百合子（元環境相・防衛相，52.7.15生）・石原伸晃（元国土交通相，57.4.19生）・石破茂（前防衛相，57.2.4生）は，70歳（37年組の1歳年下）から51歳まで2世代に跨る。

最後の大正生れの総裁（宮澤）在任中の自民党下野から16年経って，彼より20歳若い最

後の戦前生れの総裁（麻生）在任中に再び政権が崩壊した。衆院選で惨敗した日の退陣声明（2009.8.30）は 9 月 16 日に現実と成り，衆院第 1 党に躍進した民主党（1996.9.29 組成）の党首鳩山由紀夫（47.2.11 生）は，橋本退陣の 61 歳より 1 歳上時に就任し麻生より 6 歳下げた。

平成の首相在職期間は竹下の 576 日（昭和末を含む，改元後は 147 日），宇野宗祐（1922.8.17～98.5.19）の 69 日（89.6.3～8.10），海部の 818 日，宮澤の 644 日，細川の 263 日，羽田の 64 日，村山の 561 日，橋本の 932 日，小渕の 616 日，森の 387 日，と短命傾向が 10 代に亘って続き，新任 9 人の平均は 483.8 日（約 1 年 4 ヵ月）に過ぎず，最長も 2 年半しか無い。

小泉の 1980 日（5 年 5 ヵ月）は人気と任期の正比例を示したが，10 代平均が 633.4 日（約 1 年 9 ヵ月）に引き上げられた後，安倍・福田・麻生の 366・365・358 日は申し合せたかの様に 1 年程度の範囲内で微逓減し，宇野就任～麻生退陣の 20 年 1 ヵ月余の 13 代平均は 571 日（1 年 7 ヵ月）に下がり，奇妙にも代替り時の竹下と 55 年体制崩壊後の村山の間に当る。

2 度目の自民党下野後も新与党の首相は断念・放擲癖を断ち切れず，鳩山は早々の辞意表明の 6 日後（2010.6.8）に 266 日で大任を中絶した。後継の菅直人（元厚生相・前副総理兼財政相，1946.10.10 生）も 452 日しか持たず（翌年 8.26 辞意表明，9.2 退陣），次の野田佳彦（財政相，同 57.5.20）の 482 日（～2012.12.26）と合せた 16 代平均は，539 日（1 年半）に逆戻りした。

初回帝国議会（衆院）議員選（1890.7.1）で当選した中江兆民（思想家，47.12.8～1901.1.11）は，癌で余命 1 年半と告知されて（01.3）『一年有半　生前の遺稿』『続一年有半』を書いた（10・11 月刊）。政治・経済・社会・哲学・科学・文芸に渉る随想評論と闘病記の中で，「国に哲学無き」の喝破は新世紀にも適用し，契機と題の期間は件の 16 代首相の平均任期と一致する。

ソ連解体 21 周年時の民主党政権終焉（12.16 衆院選での惨敗に由り）・自公連立復権の結果，再登板の安倍は力が尽き心も折れた前回と別人の様に，連続在任 2822 日（～2020.9.16）・通算 3188 日の歴代最長を遂げた（19.11.20 の通算 2887 日で 1 位の桂太郎［1901.6.2～06.1.7/ 08.7.14～11.8.30 / 12.12.21～13.2.20 在任，1848.1.4～13.10.10］を超え，20.8.24 の連続 2789 日で同佐藤栄作を抜く）。

首相再登板は吉田茂（1946.5.22～47.5.24，48.10.1～54.12.10，通算 2616 日［歴代 5 位］）以来 64 年振りで，両者の初回の日数（368，366）の僅差，76 歳離れた誕生日の隣接（1878.9.22，1954.9.21）の奇縁と共に，吉田の孫（三女和子［15.5.13～96.3.15］と夫麻生太賀吉［実業家・政治家，11.9.29～80.12.2］の長男）麻生太郎は，誕生日（40.9.20）が隣り合う安倍の再任中に副総理兼財政相等を務めた。

安倍の長期執政に由り 17 代平均は 672 日（1 年 10 ヵ月余）に上昇したが，彼は第 2 の大記録達成の 4 日後（8.28）持病再発を理由に辞意を表明した。総裁選（9.14）で菅義偉（内閣官房長官，1948.12.6 生）が岸田文雄（政調会長・元外相，57.7.29 生）・石破茂（元幹事長）を大差で破ったが，384 日の在任（～2021.10.4）で 18 代平均を 656.6 日（1 年 10 ヵ月弱）に下げた。

安倍→菅の首相交代の 11 年前の同じ「9.16」に自公→民主党の政権交代が起き，68 歳の麻生に替った鳩山と次の菅の 62・63 歳を経て，野田の 54 歳（戦後 3 番目の若さ）は格段に

若返った。彼と 2008・20 年自民党総裁選に出馬した石原・石破・岸田は同年齢で，自民党の 37 年組の首相輩出に対して，57 年組の岸田が次期総裁選（21.9.29）で年下の 3 人に勝った。

自民党政権奪還後の安倍の 58～66 歳在任は前期初老～前期高齢の初頭に跨り，後任は習近平より 1 歳若い彼と対照的に，当選・退任時の米大統領と同じ終戦の前後 3 年内に生れた（トランプは 1946.6.14 生，バイデンは前出の小泉・小沢・胡・温と同じ 42 年組）。菅の同 71～72 歳は宮澤・村山（72～73，70～71）に先祖返りしたが，古稀過ぎの就任は恐らく最後であろう。

小渕・菅は内閣官房長官として新年号を発表し（1989.1.7, 2019.4.1），「平成 / 令和おじさん」として親しまれ其々 9・1 年後に首相と成ったが，共に 1 年余りで終止符が打たれたのは「魔呪（ジンクス）」を感じさせる。太平洋戦争勃発の ± 4 年に生れた 2 人とも昭和的な猛烈精神の持主で，強迫観念に囚われる様に無理な負担を自ら課し，終（しま）いに限界を超えて破局に至った。

小渕は 50 歳時の総裁選（1987.10）で竹下派（経世会，7.4 旗揚げ）の事務局長として奮闘中，持病の高血圧が「危急血域」（「危険水域」を捩った造語）に達し緊急手当を受けた事が有る。首相在任中に増々「24 時間戦え」る（昭和末年・平成元年の流行語）意気を発揮し，超勤・休日返上で貪欲に情報を吸収し人と交流したが，過労が祟って心血管疾患の時限爆弾が炸裂した。

彼は介護保険実施日の行事に臨む際（2000.4.1，午前），最近言葉が出て来ない事が有ると丹羽雄哉（厚生相，1944.4.20 生）に零した。午後に小沢一郎（自由党党首）との激論の末に連立の解消が決り，記者への応答で 10 秒の失語が現れた。異変の数時間後に日付が不吉な「4.2」（「死に」の語呂合せ）に変って間も無く，順天堂大学医学部付属順天堂病院に搬送された。

父光平（1904.2.26～86.8.26）は群馬随一の製糸会社を創業（23）・経営した実業家で，衆院選初挑戦失敗（日本自由党［45.11.9 成立］から立候補，47）→初当選（49.1.24，同民主自由党［同 48.3.15］）→ 3 回連続次次点（52・53・55）を経て，自民党から出馬した 58 年に返り咲きした（5.23）が，95 日後に国会からの帰路で倒れ，後の次男と同じ病院･死因で帰らぬ人に成った。

小渕当選の総裁選（1998.7.24）で 56 歳の小泉（得票 3 位）と共に敗れたのは，72 歳の梶山静六（前内閣官房長官，元自治・通産・法相，26.3.27～2000.6.6）である。同じ竹下派 7 奉行の内の勝者に干され，輪禍（00.1.30）で体調を崩し政界引退（4.25）後に歿した。互いの怨念は小渕が意識不明に陥った時から消えたが，梶山は彼を師と仰ぐ菅に由って存在感が長続きした。

3 者競合は田中眞紀子（元科学技術庁長官，田中角栄の長女，1944.1.14 生）に，「凡人（小渕）・軍人（梶山［陸軍航空士官学校卒に由来］）・変人（小泉）の争い」と評された。竹下派の全盛期に金丸信会長（元建設相・国土 / 防衛庁長官，副総理，1914.9.17～96.3.28）も，「無事の橋本，平時の羽田，乱世の小沢，大乱世の梶山」と辣腕を評価したが，金融危機の乱世でも彼は負けた。

新型冠状病毒感染症（ＣＯＶＩＤ－２０１９）で世界が恐慌（パニック）に陥った 2020 年は未曽有・異次元の大乱世であるが，梶山を私淑する「令和おじさん」新首相は寧ろ「平成おじさん」の「凡宰」振りを見せた。連続無休 153 日（2021.3.29～8.28）の激務勤続は小渕以上の愚直な懸命さを端的に表したが，

平成以来の首相在職年齢の上限に近い高齢だけに，金属疲労を減らす賢明さも肝要である。

「凡宰・庸人」「不用意・無自覚・無気力」「4.25 超速・脱線」「2.12 危篤・失禁」

「呪われた」東京五輪は直前に積年の不徳の禊が一応済んだのに，天皇の開会宣言の際に菅首相・小池百合子都知事（第 20～21 代［2016.8.2 就任，20.7.5 再選］）の周章狼狽（どたばた）が汚点と成る。途中で着席の儘の気拙さに気付いた開催都市の首長が促す形で一緒に慌てて腰を上げたが，公式中継の映像で目立つ不規則な動きは玉音宣言の荘厳・神聖を損ねて殺風景であった。

バッハ（国際五輪委第 9 代会長［2013.9.10 就任］）が挨拶の最後に天皇に宣言を要請した為，台本に有る全員起立要請の放送を流せなかった，と組織委は 4 日後に釈明･謝罪した。彼（独逸人，弁護士，1976 年五輪撃剣（フェンシング）西独団体優勝選手団（チーム）成員，53.12.29 生）の長広舌で歩調（ペース）が狂った不手際，又は「ぼったくり男爵」（渾名（あだな））に遠慮して主導を委ねた不作為なら，猶更許し難い。

関係者に混乱が生じたと認識し申し訳無いと言う高谷正哲広報発表者（スポークス･パーソン）（1978.7.12 生）の陳謝は，舌の根が乾かぬ内に 4 日後（7.31）の訂正・再陳謝で陳（ふる）い傷の上塗りに成った。当初の台本に有った起立催促の場内放送はバッハが演説の最後に天皇の宣言を願う故，挿入の時機（タイミング）が無いとの判断で当日の台本から削除された，という説明は前言を根底から覆した。

不祥事や失態の対応に明け暮れた組織委の迷走や不手際は自身の混乱で更に増幅したが，最初の予定も最終の変更も首相・都知事への連絡が欠落した事に錯乱状態の要因が在る。2 人の冒頭の端坐は巷（ちまた）で不敬の様に映り，菅は誰も教えてくれなかったと愚痴を零したが，後に引き摺られた自己肯定感の低下は，抑々起立は必須ではないと分っていれば生じない。

1964 年東京五輪開会式の『朝日新聞』夕刊 1 面の特報（『東京オリンピック開く / 94 国が堂々入場 / 天皇陛下開会を宣言 / 雲ひとつなく』）は，第 3 の題の詳述（「“第十八回近代オリンピアードを祝い，ここに東京オリンピックの開会を宣言します”――十日午後二時五十八分，天皇陛下は，特徴ある抑揚をつけて開会を宣せられた」）で始まり，2 枚の写真も日本選手団の入場と天皇の開会宣言である。

次の記事（「楽しく競技を IOC 会長あいさつ」）の所載の全文（264 字）には無いが，主記事には宣言要請の場面が有る（「整列後，IOC ブランデージ会長が英語と日本語で天皇陛下に開会宣言を要請した。宣言」）。当時の映像には音声が残っており，昭和天皇はそれに応じて起立し開会を宣言した。起立を促す放送も天皇・皇后入場の際の総起立も無く，人々は坐った儘で傾聴した。

1 面の最後の記事（『池田首相も出席』）で報じられた，貴賓席（ロイヤル･ボックス）の前から 3 列目に黒い背広，灰色（グレー）の襟飾（ネクタイ）を締めて臨んだ総理も，天皇の屹立を際立たせる満場静坐の中で唐突な起立は考え難い。第 2 次東京五輪は前例を踏襲するなら，宣言前の総起立要請の放送は抑々有り得ず，前回と同じ国際五輪委会長の要請も予見できるから，直前の変更は些か間抜けである。

全体主義体制下の北京夏・秋季五輪の開会式でも，総起立の要請は国旗掲揚・国歌斉唱

の時に限る。2022 年の国家主席開会宣言中の各自着席は日本主催の夏・冬各 2 回と一緒で，08 年の後方来賓群の即座自主起立より世界の主流に近い。今次東京大会の当初案は変容を感じさせるが，常識的な白紙化は国・都の長とも把握しなかった所為で軽挙妄動が起きた。

「愚者は経験に学び，賢者は歴史に学ぶ」という「鉄血宰相」ビスマルクの金言は，未経験の事を行う際に先人の前例を参考にする方法の有効性の示唆でもある。全国 5 大紙中『日本経済新聞』（1876.12.2 前身創刊，1942.11.1 より現名称）だけで，翌日の朝刊 1 面記事の見出しに天皇の開会宣言が出たから，重視度の低さも緊張感・準備の不十分の一因であろうか。

宋の太祖（北宋の初代皇帝，960.2.4～76.11.14 在位）趙匡胤（きょういん）（27.3.21～同）は，「臥榻之側，豈容他人鼾睡」（臥榻（がとう）の側（かたわら），豈（あに）他人の鼾（かん）睡を容（い）れんや）と，近隣の独立国家の存在に対する拒絶を表した。寝台の傍に他人が鼾を掻いて眠る事は自分の勢力範囲への侵入に譬えられるが，己の領分を守る意志は人間・動物が共通する縄張意識（特定の権利保有や地域占有等）である。

北京冬季五輪・同身障者五輪の開会宣言の映像は，全権集中の習近平が画面を独占し正面から発声する「特写（クローズ・アップ）」である。東京五輪では国家元首か否かも曖昧な天皇を斜めから撮り，異例にも首相・開催都市首長も前面に映ったが，二重の「遠慮は却って失礼」と言う当く，君側の要らぬ露出・挙止（ふるまい）は「喧賓奪主」（客の声が主人の声を圧倒する。主客転倒）に成った。

小渕恵三を活写した佐野眞一（記録文学作家，1947.1.29 生）の『凡宰伝』（2000）に擬えて言えば，「庸相」（凡庸な首相を表す造語）は「庸人自擾」（凡人は自ら厄介な事に乱される）癖も見られる。小池の咄嗟の挙動は非礼回避の本能に駆られたが，必要以上の起立は余計に浮いて了った。東京五輪返上決定の丸 14 年後に生れた彼女は，奇妙な形で五輪の「魔呪（ジンクス）」が纏わる。

菅は五輪閉幕の 29 日後の第 76 回広島原爆祭（8.6，平和記念公園［1954.4.1 開園］）で挨拶する際，冒頭の「本日，被爆 76 周年の広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」中の固有名詞・鍵詞を「ひろまし・げんぱつ」と言い間違え（随時訂正），本文 13 段落・1333 字中の 2 段落に跨る 112 字（後掲の下線部分）を読み飛ばし，意味が繋がらない頓珍漢な言辞と成った。

第 7 段落の前半（「広島及び長崎への原爆投下から 75 周年を迎えた昨年，私の総理就任から間もなく開催された国連総会の場で，“ヒロシマ，ナガサキが繰り返されてはならない。この決意を胸に，日本は非核三原則を堅持しつつ，核兵器のない世界の実現に向けて力を尽します”と世界に発信しました。」）は，立派な発信を再生する祈願訴求（アピール）・実績顕示であるが，下線部分の脱落で台無しにされた。

次の段落に続く漏れ（「我が国は，核兵器の非人道性をどの国よりもよく理解する唯一の戦争被爆国であり，“核兵器のない世界”の実現に向けた努力を着実に積み重ねていくことが重要です。/ 近年の国際的な安全保障環境は厳しく，」）は，自説の引用も儘成らぬ中途半端の前文と読み上げた次の部分（「核軍縮の進め方をめぐっては，各国の立場に隔たりがあります。」）とのちぐはぐが致命的である。

予定内容の読み落しは胡耀邦の日本国会に於ける演説でも起き，事前に配布した原稿の中の対外開放政策の重要性・継続性を強調する件は，そそっかしい質（たち）の上に身振り・手振

りで熱が入った故に丸 1 頁が飛ばされた。「資産階級精神汚染除去」運動の最中で海外から懸念が生じた事柄だけに，単純な読み落しに過ぎず故意ではないと中国大使館が釈明した。

菅は式典後の記者会見で読み飛ばしを認め陳謝したが，原稿が糊(のり)でくっ付いて剥がれなかった所為だとする首相周辺の証言が流れた後，10 月 4 日に加藤勝信官房長官（1955.11.15 生）は糊付着の事実は確認されていないとし，22 日に政府は持ち回り閣議承認の答弁書で原因又は経緯を調査しないと決め，再発防止に繋がる究明・反省も無く有耶無耶に終った。

首相官邸配信の「8.6」挨拶の動画は無削除(ノー・カット)・無細工で，不首尾を有りの儘に世界・後世に伝える。林彪は毛沢東「5.20」声明の代読で「巴勒斯坦(パレスチナ)」を「巴基斯坦(パキスタン)」と言い間違え，中継を聴いた人々は当夜の再放送で音声の修正に再び耳を疑った。孔子の「過則勿憚改」（過ちては則ち改むるに憚ること勿れ）は，中国では不都合な真実の隠蔽・改竄にも悪用される。

立憲民主党（新，2020.9.15 結成）党代表代行の蓮舫（民主党政権内閣府担当大臣 3 期，民進党［民主党の後継政党，16.3.27 成立］2 代目党首。本名齊藤蓮舫 / 謝蓮舫［台湾人の父親に従う中国名。1984 年の国籍法改正に由る父母両系血統主義で翌年に日本国籍も取得し，二重国籍批判が起きた 16 年に中華民国国籍を返上］，67.11.28 生）は参院で，間違っては行けない大切な言葉を疎かにした菅の粗忽を糾弾した。

彼女も認めた通り誰にでも間違いは有り，朱鎔基総理も第 10 期全人代 1 次全会で政府工作報告を行う際，「（台湾海峡）両岸」（中国・台湾）を「両国」と読んだ。中国は台湾・香港・澳門事務を外交部の管轄とする一方，「両個（2 つの）中国」「一辺（両岸の両側各）一国」に反対を貫くから，有るまじき「口誤」（言い間違い）であるが，直ぐ言い直して事無きを得た。

スターリン歿 50 周年時（2003.3.5）の錯乱は恰も亡霊の魔が差した様で，13 年後の同日に李克強総理も同報告で 30 回余り読み間違え，而も「習近平総書記の一連の重要講話の精神を貫徹する」を「鄧小平同志の～」と言った。壇上に鎮座する党首は苦虫を噛み潰した様な顔に変ったと見られ，演説後の恒例の両者握手も無く，散会時に相手を無視する様に去った。

『笑点』6 代目司会者（2016.5.29 就任）春風亭昇太（落語芸術協会［1977.12.16 成立］会長，59.12.9 生）は，喋る途中で呂律が回らない，舌を噛む弱点から「カミカミ王子」の自虐笑(ネタ)い種を使う。他の出演者から衝かれて狼狽(うろた)える御愛嬌も視聴者の爆笑を誘う番組の見せ処であるが，菅の地名・鍵詞の噛み噛みと重要箇所の読み落しは呆れる「網(ネット)民」の毒舌に噛み付かれた。

胡演説の飛ばしは丸 1 段落（98 字）で意味の破綻が無い故に気付かれなかったが，菅は自ら読む文章を把握していれば乱脈・欠落の発見も「神対応」も難しくない。彼は就任 47 日後「全集中の呼吸」で答弁すると気取った（2020.11.2，衆院）が，借用した『鬼滅の刃(やいば)』（吾峠呼世晴［1989.5.5 生］著漫画，16～20）に因んで言えば，軈(やが)てやばい毀滅へと傾けて行った。

世界長者番付（1987 年開始）で 18 回首位に輝いたビル・ゲーツ（独逸系米国人，マイクロソフト社を共同創業した［75］実業家・慈善家，55.10.28 生）と，殆ど 4 強入りしたバフェット（異名「投資の神様」の経営者・慈善家，30.8.30 生）は，1 語(ワン・ワード)で要約する成功の秘訣として “focus”（精

神を集中させる）を挙げたが，菅は1年足らずで心・技・体の限界で集中力が衰え息切れした。

朱総理が退任直前の政府工作報告で中台を「両国」と言い間違えたのは74歳時で，中台関係の一部を含め処々段落毎に略して読む省力流は高齢を配慮する為である。周恩来の最後の同報告も毛沢東が76歳・重病を慮って，30分で終える分量を指示した。60歳の李克強が1時間50分の間に多く読み間違えたのは，汗だくの姿が現す様に体調の問題である。

小渕の「語彙貧弱（ボキャブラリー）」の自嘲と対を成す様に，菅は自他とも認める通り言説力が足りない。失言を恐れて原稿の棒読みが多い姿勢も悪く，此処に至って原稿読みすら覚束（おぼつか）なかった。不勉強・不誠実や被爆者・式典への冒瀆とまで貶された無自覚・無気力の様な上滑りは，前期高齢の後半で首相を辞めた宮澤・村山と通じて，寄る年波には勝てない事が根底に有る。

3日後の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典では，手落ちが無く原稿を読み終えたが，1分間遅刻した事で被爆者団体等の批判を招いた。当日6時50分に予定通り衆院議員宿舎から出発後，長崎空港からの出発と平和公園入口への到着は其々数分・1分遅れた。開始時刻（10時45分）の4分前に公園に着いたが，手洗いに寄った故に開始の宣告後に会場で着席した。

東京～九州間の交通機関・移動が仕掛けと成る鉄道推理小説（ミステリー）を連想するが，鮎川哲也（1919.2.14～2002.9.24）の『黒いトランプ』（長篇，56），松本清張（09.12.21～92.8.4）の『点と線』（同，58）を始め，列車の時刻表を駆使する不在現場証明（アリバイ）作り/崩しの作品は日本では多いが，全ての便の予定通りの運行が不可能な海外では所詮無理だから虚構の余地すら無い。

「4.25」JR福知山線脱線事故は90秒の遅れを取り戻す為の超速疾走が惹起した惨禍で，必死な無謀運転の裏には精確無比の時刻厳守の常態化と強迫観念が有る。日本の「軟実力（ソフト・パワー）」（他国に好感を与える文化力）にも厳格な時間観念が入るが，重要な式典に合せた首相の分刻みの日程に1～数分の遅れが生じ，最終的に常識外れの開始後着席に至ったのは大失敗である。

マズロー（米国の心理学者，1908.4.1～70.6.8）の欲求階層説は，低次の欲求が満たされて初めて高次の欲求を追求できる（①生理的欲求→②安全の欲求→③帰属・感情の社会的欲求→④承認の欲求→⑤自己実現の欲求）と言う。生命維持の為の本能的な①に食欲・睡眠欲と共に有る排泄欲は我慢できない故，式典の直前に用を足す挙動は日本人の清潔好きとも符合し正当である。

高齢者は膀胱容量減少や精神緊張（ストレス）・前立腺肥大で頻尿が多く，膀胱や排尿を司る神経の機能低下で尿意切迫感や尿失禁も起り得る。周恩来は蘇洵（北宋の文学者，1009.5.22～66.5.21）が言う「泰山崩於前而不変色」（泰山前に崩るるとも色変えず）の様に，危急時にも泰然自若でいられるが，毛沢東危篤の急報で君主崩御の危機に直面した時に失禁した（73歳時の1972.2.12）。

彼は95日後（5.18，74歳）に膀胱癌が診断され，毛の頑迷な方針（早期手術不可）に従う治療の甲斐も無く，全身移転の末77歳で逝去した（訃報は形象を慮る為か，排泄器官に罹る病名を公表せず）。安倍首相を2度辞任に追い込んだ難病も腹痛・下痢の多発で勤務に支障を来し，頻繁に用便に駆け付ける必要性から，世界で突出して長い国会答弁の拘束にも耐え難い。

便所が近い老首相の為に直前の用便時間を作った小さな親切は，公園到着の僅かな遅れと便所が予想以上に遠い事で徒(あだ)と成った。臨時利用を想定した場合は安全検査・一時閉鎖と共に，移動時間の許容範囲の把握･制御もせねば為らぬ。当人の「所用」（陳謝の際に述べた事由）の所要時間の超過が無かったなら，秘書官の時間管理の甘さと危機感の薄さに帰し得る。

天皇（現上皇）の狭心症冠動脈迂回側管(バイ・パス)手術（2012.2.18）を執刀した天野篤（順天堂大学医学部心臓外科主任教授，1955.10.18 生）は，公務の外出時に陛下は 1 日 500 粍(ミリ)(リットル)の水しか飲まず，心臓は勿論，健康の観点では良くないが，手洗いの回数が増えると侍従や警備の人の動きが増える故，極力周りの人の動線を複雑にしない様に日頃自身を律している，と明かした。

中々出来ないと彼が称えた天皇の自律で首相に完璧を求めるのは酷過ぎるが，行事の時間厳守は首脳には必須要件である。本島等市長（1922.2.20～2014.10.31）は胡耀邦に対し，11 時 2 分（原爆投下の時刻）黙祷の決りを紹介した（『人民日報』で同 21 分開催と誤報）。先立つ 10 時 45 分開会は菅には早起きの負担が増すが，空路移動の遅れが誤算の連鎖を招いた事か。

英国の牛津(オックスフォード)大学（1167 年創立）出版部の使用頻度調査（2006.6.22 結果公表）に拠ると，網(ネット)上の著述（電子版刊行物や個人言説）等で最も使われている英語の名詞は time（時。時代）である。3・5・17 位の year（年）・day（月）・week（週）と合せて，時間に囚われる人間（2・7・12・14 位の person［人］・man［男性］・child［児童］・woman［女性］）の実態が浮び上がった。

4・6・15・16・19・24・25 位の way（方法。道），thing（物。事）・place（場所）・work（仕事）・point（要点。点）・problem（問題）・fact（事実）は，菅の 3 連発の問題行為を語るのに用い得る。20・21・23 位の government（政府）・company（会社）・group（集団）の官高民低は意外であるが，“Time is money.”（時は金也(なり)）の価値観は東西･朝野共通の普遍性を持つ。

日本人の時間管理の天下一品の神話の破綻は翌月 30 日に現れ，夏目三久（テレビ放送員(アナウンサー)，1984.8.6 生）が常連(レギュラー)番組『あさチャン！』（TBS 系）で引退挨拶をする際，我武者羅應援團（2007 年結成）の冗漫な称賛・声援(エール)で予定が大幅に狂った所為で，残る 13 秒で駆け出して話し尻切れ蜻蛉に成った（「視聴者の皆さん，7 年半有難うございました。今日も御覧戴き有難うございま……」）。

万感の思いが半端に終った不始末で情報番組は創設来の功労者の情に報い得ず，最終回放送の最後の事故で有終の美を飾れず視聴者の抗議で憂愁の苦汁を呑んだ。彼女の 37 歳の誕生日に広島で，直後に長崎で菅が立て続けたに演じた失態も，再登板しない限り挽回の機会が無い。五輪開会式での失敬に至っては，確実に雪辱(リベンジ)の日は巡って来ず遺恨が永遠と成る。

林彪は要人が集まって天安門城楼に登る際に，毛沢東より少し遅れて待たせた事が有る。事後に秘書等を叱り今後は毛より 1～2 分先着するよう厳命し，何度も運転の演習をさせた。無闇に早く着くのも他者への威厳を削ぐから，時間管理は微妙で高度な技巧が要求される。彼は保身の為に小心翼々に神経を注いだが，副統帥の地位は毛の不信に由って失われた。

「二百十 / 二十日（9.1/11 頃）」「9.21/26 特大台風」「9.2/12/14/22/24/29 退陣」

『広辞苑』の【二〇三高地】（「①中国遼寧省大連市にある標高二〇三㍍の，旅順港を見下ろす山。日露戦争の激戦地。乃木大将が爾霊山と命名。②女性の髪型。髷の根を横巻にして中央を突起させた束髪。日露戦争で二〇三高地攻略以後広く流行。二百三高地巻。花袋，蒲団“前に行く車上の芳子，高い二百三高地巻，白いリボン”」）の次に，漢風和語の【二百十日】【二百二十日】の項が続く。

日本独特の2語（「立春から数えて二一〇日目。九月一日ころ。ちょうど中稲の開花期で，台風襲来の時期にあたるから，農家では厄日として警戒する。〈季秋〉」「立春から数えて二二〇日目。九月一一日ころに当たり，二百十日と同じ意味で厄日とされる。新潟県の弥彦神社では，この日風祭を行う。〈季秋〉」）は，両国共通の二十四節季の起点を基に，中国の大半と無縁の台風の頻発時節を表す。

【地震雷火事親父】（「日常，人々の恐れるものをその順に列挙していう語」）の第4は，雷を落し小言が冷酒と同様に後で効く親父が通説で，「大山風」（台風）の転とも言う。『日国』（「世の中で恐ろしいものを順に並べた表現」）の初出（「思ひ出［1933］〈太宰治〉一“地震雷火事親爺，それ以上に怖い戦争が起ったなら先づ山の中へでも逃げ込もう”」）の様に，更に非日常的な恐い物も有る。

太宰治（1909.6.19～48.6.13）の『人間失格』（中篇小説，48）・『斜陽』（同，47）は，新潮文庫創刊（14.9.18）後100年間累計発行部数の2・9位を占めた。3・7位の『老人と海』（中篇，1952）・『雪国』（長篇，35～47）の著者ヘミングウェイ（54年ノーベル文学賞受賞，1899.7.21～61.7.2）・川端康成（同68年，99.6.14～72.4.16）と共に，自殺した日・米の3人の小説家は人気が高い。

5位の『異邦人』（長篇，1942）を著したカミュ（仏蘭西の作家，57年ノーベル文学賞受賞，13.11.7～60.1.4）は輪禍で死に，10位の『悲しみよ，今日は』（同，54）のサガン（同，35.6.21～2004.9.24）は放蕩な生活を送り，8位の『破戒』（同，06）の島崎藤村（詩人・作家，本名春樹，1872.3.25～43.8.22）は姪（次兄の次女）と近親相姦を起し，不幸や不健全な影が付く3人も愛読される。

6位の『友情』（中篇，1919）が代表作と為る武者小路実篤（小説家，1885.5.12～76.4.9）は，人物・作品とも至って健全であるが，1・4位の『こゝろ』（長篇，14）・『ぼっちゃん』（中篇，06）の夏目漱石（英文学者・小説家，名は金之助，67.2.9～16.1.29），醜聞と無縁ながら神経衰弱・胃潰瘍に苦しむ暗い面が有り，首位の作品は登場人物「先生」の自殺・遺書が目玉である。

『こゝろ』は『朝日新聞』（1879.1.25創刊）連載（1914.4.20～8.11）後，岩波書店（13.8.5創業）の初発刊小説と成ったが，同じ自費出版の『破戒』（緑蔭叢書［島崎藤村作品特化の出版物］第1編）と共に記録的に大成功した。『破戒』は新潮社（1896年前身［新馨社］創業）に高額買取・出版され（1913），『こゝろ』は『朝日新聞』で100周年時に再連載された（2014.4.20～9.25）。

乃木希典の殉死に触発された『こゝろ』は「先生」を明治精神の殉死者に仕立てたが，乃木大将縁の203高地と辞書で隣り合う「二百十 / 二十日」から連想する4大恐怖は，漱石の『人生』（随筆，1896）にも出た（「先づ地震，雷，火事，爺の怖きを悟り」）。同じ人気作家の太宰

の例は 37 年遅いが，世界大戦と関東大震災の経験者だけに戦争がより怖いとは頷ける。

『老人と海』初刊の「9.1」は中国等では新学年の始まりの形象が強いが，日本独特の厄日は記録的な台風襲来が無いが，関東大震災と 16 年後の独逸に由る波蘭侵攻（1939），更に 44 年後の大韓航空機撃墜事件（ソ連防空軍が領空侵犯中の韓国旅客機を撃墜，269 人全滅），2001 年の東京新宿歌舞伎町ビル火災（44 人死亡，戦後日本 5 番目の被害）等の災厄が起きた。

台風（発達した熱帯低気圧，北太平洋西部・南中国海（シナ）に発生）と対を成すハリケーン（同，カリブ海・墨西哥（メキシコ）湾・北大西洋西部・北太平洋東部）の 1 つ（破滅的被害を齎す最強級の範疇（カテゴリー）5）が，2019 年の当日にバハマを直撃した。「台風銀座（常襲地域）」に在る沖縄の県庁所在地那覇とバハマの首都ナッソーの経緯度（北緯 26/25 度台，東経 127/77 度台）を見ても，奇妙な連帯を感じる。

「9.11」も 2015 年関東・東北豪雨（9.9～11）以外に特筆の台風来襲は無いが，世界史に刻まれた同日はより怖い戦乱（同時多発恐怖（テロ）襲撃，2001，紐育（ニューヨーク）等）である。米国の緊急電話番号と重なる日にイスラム過激派恐怖主義（テロリズム）組織の蛮行で 2977 人が歿したが，日本では同日は公衆電話の日（由来は 1900 年の初設置）・警察相談の日（99 年制定，同＝電話番号＃ 9110）と為る。

二百二十日の発想が無い米国の「9.11」惨劇の 10 日前の日本で，二百十日にも因む防災の日（1960.6.17 閣議了解に由り創設）に歌舞伎町ビル火災が起きた。放火が疑われた未解決事件は人為的な火事や地震・雷並みの社会的な衝撃を思わせるが，二百十 / 二十日を含む 9 月は台風常襲月だけでなく，日本に限らず様々な天災・人災発生の常習時節の様に思える。

明治以降の台風被災史上の最悪は伊勢湾台風（1959.9.21～27，26 上陸，死亡・行方不明 5098 人）で，枕崎台風（同 45.9.11～20，17，3756 人）・室戸台風（34.9.15～23，21，3036 人）と共に昭和 3 大台風と呼ばれる。統計開始（1951）以来の日本上陸時の中心気圧最低の第 2 室戸台風（61.9.8～18，16，202 人）は，第 1 と発生時期が二百十日に当る枕崎台風の前後である。

2 番目に低い伊勢湾台風に次ぐ 1993 年台風第 5 号（8.30～9.4，9.3，48 人）は，ジェーン台風（50.8.30～9.7，9.3，539 人）と二百十日の直前 / 後の同じ日に発生 / 上陸した。前者の西暦年の下 2 桁と同じ「9.3」は 1939 年に英・仏・豪・新嘉坡対独宣戦で世界大戦が全面化し，独逸の波蘭侵攻の「9.1」との間の「9.2」は 6 年後，連合国対日戦勝・大戦終結の日に成った。

変事頻発の 2021 年の同時期の政界の台風として，菅義偉は 8 月 30 日に 9 月中の党役員人事刷新に関る方針を固め，翌日に 9 月中旬の衆院解散・総裁選先送りの選択肢を二階俊博幹事長（1939.2.17 生）に伝えたが，9 月 1 日に党内の反撥で前日の意向を翻し，2 日に安倍晋三・麻生太郎等への人事の協力要請を断られ，3 日に総裁選に立候補しないと宣言した。

憲政史上の内閣官房長官（及び前身［～1947.5.3］の内閣書記官）経験者の首相は，55 年体制下の初代鳩山一郎（54.12.20～56.12.23 在職。83.1.1～59.3.7）に始まる。不運な彼は首相の座を目前に公職追放に遭い（1946.5.7），解除（51.8.6）直前に脳溢血で倒れ（6.11），日ソ国交回復共同宣言調印（56.10.19，莫斯科（モスクワ））後に辞任したが，長くない在職は孫由紀夫の 2.8 倍に当る。

次の佐藤栄作は連続2位/戦後最長在任記録（2798日）を長く持ち（2020.8.24，19.8.24，甥安倍晋三が連続/通算で更新），沖縄本土帰還後に辞意表明・退陣した（1972.6.17，7.7）。非核三原則（持たず，造らず，持ち込ませず）の提唱（1967.12.11）でノーベル平和賞を得た（74.10.8決定）が，日本人初の栄誉を浴びた翌年に脳溢血に倒れ（5.19），1度も覚醒せず74歳で歿した（6.3）。

3番目の大平正芳は就任（真珠湾攻撃37周年の前日）の翌年に党内派閥の「40日抗争」（1979.10.7～11.20）に直面し，党史上最大の分裂危機で少数与党内閣と化した中で，衆参同日選挙（80.6.22）で政局を乗り切ろうと張り切ったが，選挙応援中に死相が出る程の過労で緊急入院し（5.31），年明け後2日（3.22～23）だけ休養した古稀の老体が遂に他界した（6.12）。

次の鈴木善幸はその33日後（7.15），西村英一副総裁の変則的・形式的な裁定で後任と成った。片山哲（日本社会党委員長，1947.5.24～48.3.10首相，1887.7.28～78.5.30）以来の社会党在籍経験者，同じく最後と成る明治生れの首相である。政争回避・党風刷新の為の退陣（1982.10.12表明，11.27実施）で，戦後新憲法下で在任中に大型国政選挙が無い首相の最長記録を留（とど）めた。

彼の在職年齢（69～71）は5・6番目の竹下登・宮澤喜一（63～65，73，87）の間に在り，歿年（93）は両者（76，87）を上回る。終戦の9年4ヵ月後に第1号と成った鳩山一郎（71～73歳在職，76歳歿）と照らせば，平成改元の9年半後の小渕恵三（61～62，62）は大平よりも悲壮に散り，20世紀の上記7人は佐藤を除いて長期政権を持てなかった（6人平均は583.8日）。

21世紀の1人目は内閣官房長官（第3次小泉内閣，2005.10.31～06.9.26）を経て，総裁・首相に就任した（同9.20・26）安倍晋三である。彼は翌年9月12日の辞意表明を経て23・26日に離任し，再選・再登板（12.9.26，12.26）と再度の辞意表明（20.8.28）・退陣（9.14，16）の日も含めて，二百十日～二十日を含む台風常襲期（特に3回の9.26は伊勢湾台風上陸日）に当る。

次は内閣官房長官歴1289日（第2次森内閣～同小泉内閣，2000.10.27～04.5.7）の福田康夫で，自身の国民年金保険料未納に由り「風の如く来りて，風の如く去る」心境で辞任した後，安倍辞任後の総裁選で勝ち首相と成った。憲政史上初の親子首相の誕生は両者の就任年齢も近い（71歳11ヵ月と10日，同2ヶ月と10日）が，任期は倍に近い大差が有る（714・365日）。

福田は2008年9月1日に国民生活の為に新布陣で政策実現を期する理由で辞意を表し，22・24日に総裁・総理を退いた。前年の安倍退陣表明（同月12）は今度の211日に対し223日（閏/平年の不整合）で，両党・政首脳退陣の日は室戸台風・伊勢湾台風の上陸日の間に在る。室戸台風上陸20周年時に生れた安倍は，同第2室戸の49周年時に再び首相の座を下りた。

福田の内閣官房長官歴代最長を抜いた（2016.7.7）菅は，第2次安倍政権で同職新記録（2822日）を作った。安倍に継ぐ党首・首相は政局運営・危機対応に行き詰って再選を断念し，前出の大型台風上陸（朝鮮戦争・55年体制崩壊の年）や第2次大戦全面勃発・終結の日に巡り合せたが，内閣官房長官経験者の10人以外の首相在任の節目にも台風常襲期が散見される。

安倍・福田に次ぐ麻生太郎の出生は室戸台風上陸6周年の前日（立春から数えて230日目）

で，68 歳の誕生日の 2・4 日後（前出の福田 2 職退陣日）に就任した総裁・総理の職位は，翌 2009 年 8 月 30 日（同 210 日目，ジェーン台風発生 59 周年）の衆院総選挙での自民党惨敗を受けて，当夜に辞意を表明し 16 日（同 227 日目，第 2 室戸台風上陸 48 周年）に共に手放した。

16 年振りの第 2 次自民党政権転覆を果した民主党の 3 代首領の内，鳩山は 8 ヵ月余りで辞意を表明し（2008.6.2，異例の記者会見抜き）代表・首相を退き（同 4，8），菅は 1 年 2 ヵ月余りで辞意表明（09.8.26）・党首交代（同 29）・首相退陣（9.2）と成った。自民党復権後の 3 代目の岸田の総裁当選（9.29）と首相就任（10.4）は，大型台風来襲の高潮（ピーク）期の直後に当る。

辞書で「二百十 / 二十日」の前に出る「203 高地」を「爾霊山」と命名した乃木希典は，大正初の二百二十日の 3 日後に明治天皇の大葬に合せて夫人と共に自刃で旧君に殉じた。59 年後の同じ「9.13」に妻子と共に変死した林彪も東北での戦歴が長く（暗号名「101 首長」），日本の二百十 / 二十日の厄日を含む 9 月は前後の年の「黒い 9 月」が示した様な厄月である。

「黒い 9.5/6/9～27」「10.6 暗殺 / 政変」「6.28 戦端」「9.28 離脱 / 急死」「11.8・9 一揆」

パレスチナ解放機構（P L O）（1964.5.28 設立）と下属のパレスチナ人民解放戦線（P F L P）（同 67.12.11）に賛同する過激派組織が 70 年 9 月 6 日，欧州 4 都市から紐育へ向う旅客機（米国 2，以色列（イスラエル）・瑞西（スイス）各 1）の同時乗っ取り（ハイ・ジャック）に挑み 2 機で遂げた。次の標的（9 日，パーレン発・倫敦行きの英国機）を押えた後，人質を解放した上で 12 日に 3 機を爆破し以･国際社会の対応への激憤を表した。

PLO・PFLP の拠点設置を黙認したヨルダンのフセイン国王 1 世（1952.8.11～99.2.7 在位，35.11.14～同）は，マルクス = レーニン主義を標榜し国内で反王制の態度を示しこの犯行に及んだ事に憤り，14 日に戒厳令を敷き 17 日に首都の一部を占拠中の相手に攻撃を始めた。ヨルダン内戦はパレスチナ側の敗走で 27 日に終ったが，余波が中東の行方に大きく影響した。

仲裁役のナセル（アラブ連合共和国大統領，1958.2.22～70.9.28 在任，18.1.15～同）は翌日に急逝し，葬式（10.1）でヨルダン国王もアラファト PLO 議長（29.8.24～2004.11.11）も号泣した。一方，シリア軍のヨルダン侵攻時に出動を拒否したアサド空軍司令（1930.10.6～2000.6.10）は，政変（矯正運動，11.13）で大統領（71.2.22～歿）と成り恐怖主義（テロリズム）支援国家への道を開いた。

ナセルは埃及（エジプト）共和国（1953.6.18～58.2.22）首相（54.2.25～3.7，4.18～解体）・大統領（56.6.25～同）の後，アラブ連合国（シリアと連合，58.2.1～71.9.11）初代元首を務めた。シリア離脱（1961.9.28）の丸 9 年後に埃及元首は心臓発作で 52 歳の生涯を閉じたが，埃及・アラブ共和国（71.9.2 成立）に移行した年のシリア新元首は，ナセル連合国元首の 13 年後の同じ日に就任した。

アサドの 43 歳の誕生日に埃及・シリア共同の対以色列（イスラエル）開戦で第 4 次中東戦争が始まり（1973.10.6～24），ナセルの後継者サダト（共和国初代大統領）は勝利に由って国民的英雄と成り，平和交渉（77.11.19～21 訪以）と外交合意（78.9.17，米国・野営（キャンプ）デービッド）の結果，ベギン以

首相（77.6.20～83.10.10 在任，13.9.16～92.3.8）と共にノーベル平和賞を獲った（78.10.27 決定）。

平和条約調印（1979.3.26，米国・華盛頓（ワシントン））の貢献をしたサダトは，第 4 次中東戦争開戦 8 周年の戦勝記念日閲兵式（パレード）で，シハード団（イスラム復興主義過激派組織，80 年結成）所属の下士官等 4 人の凶弾で斃れ，63 歳の人生（18.2.5～81.10.6［アサドの 51 歳の誕生日］）を絶たれた。主犯のイスランブリ砲兵少尉（1955.1.15～82.4.15）は，37 歳年長のナセルと同じ誕生日である。

「10.6」には中国でも政変（5 年前の「4 人組」逮捕）の激震が起きた事が有り，アラブ連合共和国解体 40 周年時の「9.11」同時多発恐怖（テロ）襲撃も歴史の因縁を感じさせる。ヨルダン内戦・シリア政変を誘発した同時多発乗っ取りも中東の過激派組織の仕業で，「黒い 9 月」（6 日の犯行～27 日の休戦）は同年に恐怖（テロ）集団の名と成り，憎悪・報復の連鎖の駆動力を為した。

ヨルダン内戦の別名は 2 年後，五輪（西独・ミュンヘン，8.26～9.11）中の惨劇の代名詞と化した。同名のパレスチナ武装組織の成員 8 人が 5 日に選手村内の以色列（イスラエル）選手団宿舎に侵入し，2 人を殺し 9 人を人質に取って以に仲間 234 人の釈放を求めたが，拒否された後 6 日の出国時に警察の狙撃・制圧の失敗で人質が全員死亡し，平和の祭典は動乱の鮮血に塗（まみ）れた。

一昨年の同時多発乗っ取りと同じ日に，犯人自爆・航空機炎上・人質殺害で最悪の結末を迎えた。国際五輪委会長（第 5 代，1952.8.15～72.9.11）ブランデージ（米国人，1887.9.28～75.5.8）の意向に由り，順延と為った 5 日の競技は 6 日に追悼式を経て再開されたが，反猶太・親ナチス的な会長は追悼演説で以色列（イスラエル）選手の犠牲に言及せず，物議を醸し後味を悪くした。

独逸に於ける五輪は第 6 回の伯林（1912.7.4 決定，16.5.26～8.21 予定）が最初の筈であるが，第 1 次大戦に由り中止された（15 年央決定）。敗戦の 17 年後の伯林大会（1931.5.13 決定，36.8.1～16）は，夏季五輪が取り止めの場合でも開催地に選ばれた実績で見做し回次と扱う為，公式記録では形式的に 2 度目の開催決定とされるが，主催側には国威発揚の好機と捉え得る。

第 1 次大戦の引金はプリンツィプ（塞爾維亜（セルビア）の民族主義者，1894.7.25～1918.4.28）が引き，軍事演習の観閲の為にサラエボを訪れたフェルディナント大公（墺太利−洪牙利帝国皇位継承者，63.12.18～14.6.28）と妻ゾフィー（68.3.1～同）が，爆弾襲撃から難を逃れて間も無く，混乱中の車両移動の不手際を衝かれて，日清戦争勃発の日に生れた彼に至近距離から射殺された。

当日は塞爾維亜（セルビア）の祝日（聖ビトゥスの日）と共にコソボの戦い（1389）記念日でもあり，625 年前の会戦で塞爾維亜（セルビア）王国がオスマン帝国に負けたが，勝者のムラト 1 世（60 又は 62 頃～89.6.28 在位，13 又は 19～同）が僅かな油断で敵の貴族オビリッチ（?～同）に刺殺された。今回の暗殺も被統治国の恐怖主義活動家（テロリスト）の執念に由り，夫妻は結婚 14 周年の記念日に斃れた。

同日に伯林で独逸の射手が優勝を競い，新設大競技場で五輪陸上競技第 1 次予選が行われる最中，同盟国の皇太子夫妻の訃報が飛び込み弔旗が掲げられた。独逸の支持を得た墺洪は 7 月 23 日に塞爾維亜（セルビア）に最後通牒（反墺洪運動禁止等の強要）を突き付け，露西亜が後ろ盾と成る相手の拒否で 25 日（犯人の 20 歳の誕生日）に外交関係が断絶し，28 日に宣戦布告した。

独逸は8月1日（日清相互宣戦布告20周年）・4日に露・仏に宣戦布告し，2・5日に盧森堡（ルクセンブルグ）・白耳義に侵攻し，英国は4日に独に宣戦布告し，戦火の拡大は長期化した。巴里からローザンヌ（瑞西）に移った国際五輪委は伯林大会の中止を決断したが，独逸は敗戦（1918.11.11）後の再起で予定の20年後に開催し，「8.1」開会は意味深長にも対露開戦22周年に当る。

ヒトラー（総統［1934.8.2～45.4.30］兼首相［33.1.30～同］，1889.4.20～同）は，民族の優秀性と自身の権勢を誇示する宣伝（プロパガンダ）に利用した。彼の為の大会の印象を裏付ける様に，体制追随・御用の形象が強いリーフェンシュタール（映画監督・写真家，1902.8.22～2003.9.8）監督の公式映画『オリンピア』（『民族の盛典』『美の盛典』の2部構成）は，その49歳の誕生日に公開された。

ヒトラーの依頼に由る彼女の出世（デビュー）作『信念の勝利』（1933.12.1封切）は，国家社会主義独逸労働者（ナチ）党第5回党大会（同年9.1～3，ニュルンベルク）の記録映画である。『意志の勝利』（1935.3.28）・『自由の日！――我等の国防軍』（同12.30）は，第6・7回（34.9.4～10，35.9.10～16）を録り，党大会3部曲の所為で党員でもないのに独裁政権への協力が汚名を遺した。

同じ古都で開いた党大会は在野期の第3・4回（1927.8.19～21，29.8.1～4）を始め，政権掌握（33.1.30）後6回有る（第8～10回は36.9.8～16，37.9.6～13，38.9.6～12）。第11回は開幕予定（1939.9.2）の前日の波蘭侵攻で中止と成り，解党（45.10.10）まで再び挙行しなかった。与党期の開催は9月に集中し，開幕日の平均（5～6）は件の「黒い9月」の犯行日と重なる。

戦後の国際軍事裁判所がニュルンベルク法廷（1945.11.20～46.10.1）で，平和に対する罪等に就いて独逸の主要戦犯22人に対して裁判を行い，判決（46.9.30）で19名が有罪（内12人が絞首刑［10.16執行］，3人が終身刑）と為った。「帝国党大会の街」で裁き恒例の開催月に判決を下した事は象徴的な意味を持つが，35年後の林彪・江青集団裁判と初日が同じである。

ナチ党（1919.1.5前身［独逸労働者党］成立，20.2.24改称）の第1・2回党大会（23.1.27～29，26.7.3～4）は，ミュンヘン（発祥地・本部所在地）とバイマールで開催された。ミュンヘンはヒトラーが首謀者と成る武装蜂起（政変未遂，1923.11.8～9）の地でもあり，曾てナチス体制を讃えた国際五輪委会長の花道と成る大会の開催都市に選ばれたのは，実に奇妙な巡り合せである。

ナチ党「4大」と7年後の伯林五輪の開幕の「8.1」は，其々2･9年前の中共建軍の日で，更に4年前のミュンヘン一揆は，その6年前の露西亜の10月革命（11.7）と日が隣り合う。ナチ党執政後の党大会開催の9月は多事の秋（とき）らしく，1970年代の前半にも動乱が頻発したが，「黒い9月」の五輪襲撃の翌年の「9.11」に，智利（チリ）で武装政変が成功し元首が落命した。

第29代大統領選の国民投票（1970.9.4）で，人民連合（左派，69.10.9結成）の候補者アジェンデが過半数未満（36.3%）の首位と成り，議会評決に由る決選（10.24）で2位（34.9%）のアレッサンドリ（国民党［右派，同66.5.11］，96.5.19～86.8.31）との一騎打ちが予定された。6年毎・4度連続出馬中の2回目（1958）で負けた（3万票差）相手だけに，宿敵対決の観も有る。

自由選挙に由る世界初のマルクス主義政権の誕生が現実味を帯びて来た中で，ニクソン

米大統領は手段を問わずに阻止せよと中央情報局（CIA）（1947.9.18 設立）に命じた（9.15）。その結果，邪魔者のシュナイダー（政治的に中立する陸軍総司令官，1913.12.31～70.10.25）が暗殺された（10.22）が，却って民主主義を守る意識が刺激され米国の敵の圧勝（153 対 35 票）に終った。

対米依存からの脱却を図る新政権は，金融封鎖等の妨害と失政で経済衰退・社会混迷に陥った。陸軍将校に由る政変（1972.6.29）の失敗後，ピノチェト（8.24 就任の陸軍総司令官，15.11.25～2006.12.10）指揮の政変（9.11）が成功した。65 歳（1908.6.26 生）の大統領は官邸で応戦後に拳銃で自殺し，即日に全権を掌握した首謀者は後任として長期専制（～90.3.11）を始めた。

拳銃の贈り主カストロ（玖馬（キューバ）共産党［1965.10.3 成立］初代第 1 書記［～2011.4.19］・同国首相［59.2.16～76.12.2］）は，彼を死に追い詰めた軍人独裁の生誕 101 周年時に同じ 90 超で逝去した（26.8.13～16.11.25）。1 歳長生きした後者は陸軍退役の直後に英国で逮捕され（1998.10.16，西班牙人を弾圧した罪），釈放（2000）後に国内で起訴された（誘拐・殺人の罪，05.9 に健康上の理由で棄却）。

当初の陸軍総司令官は中国人民志願軍朝鮮参戦 20 周年記念日に銃撃暗殺の犠牲と成ったが，35 年後（2005.10）怨念の現れの様に新政権を潰した独裁者と家族の全財産が差し押えられ，死去 31 周年時（06.10.25）香港の銀行に有る金塊 9 噸の隠し資産が発覚した（妻・息子は元首在任中の不正蓄財で逮捕されたが，サンティアゴ高裁は 07.10.26 に嫌疑不十分として立件を断念）。

次のプラッツ（1915.2.24～74.9.30）は市民への発砲事件等で辞任し，政変直後の 9 月 15 日（ニクソン指令 3 周年）に亜爾然丁（アルゼンチン）に亡命したが，後任が実権掌握の直後の還暦の日に創った国家情報局（DINA）が仕掛けた自動車爆発で，妻と共に 9 月の末日に非正常客死を遂げ，出生が 5 年後のナチ党成立と重なる事は，反民主・反共の独裁政治の魔手に引っ掛る宿命を思わせる。

智利の大統領（初代［1826.7.9～9.9］＝エスカラーダ［1790.4.21～76.9.5］）は，アジェンデを下したホルヘ・アレッサンドリ（第 27 代［1958.11.3～64.11.3］，1896.5.19～86.8.31），父親のアルトゥーロ・アレッサンドリ・パルマ（第 18 代［20.12.23～24.9.11，25.3.20～10.1］，68.12.20～50.8.24）を含めて，通例で歿後に国葬が執り行われるが，ピノチェトは圧制の所為で厚遇を得なかった。

彼は政変の翌日に国家評議会を立ち上げて議長を務め，国家最高指導者の名義に変更した（1974.6.27）後，選挙を経ず大統領と成った（12.17，任期 6 年）。第 2 期任期満了（1989.3.11）後の 8 年間（通常の 2 倍）延長の是非を問う国民投票（88.10.5）の反対多数で 1 年だけ延長し，大統領選（89.12.14）で自派候補者に勝ったエイルウィン（愛蘭（アイルランド）系，18.11.26～2016.4.19）と交代した。

3 歳年下で誕生日が続く後任は 4 年（1990.3.11～94.3.11），次のルイスタグレ（42.6.24 生）とラゴス（38.3.2 生）は各 6 年（～2000.3.11/～06.3.11），第 34・36 代のバチェレ（51.9.29 生）は各 4 年（～10.3.11/14.3.11～18.3.11），第 35・37 代のピニュラ（49.12.1 生）も一緒である。対してバチェレの 2 期目の最終日に，中国の憲法改正で国家元首の任期制限が撤廃された。

大統領就任日はボリッチ（1986.2.11 生［就任時の 36 歳は在職元首中の世界最年少］）も含めて，冷戦終結後「3.11」が定例と成っている。以前「11.3」が 5 代続き（第 25～29 代，就任年＝1946・

52・58・64・70)，政変に由る「9.11」の中断を経て半年差の現行日程が定着した（「9.11」は第18代［前出］の最終日でもあり，同代の初日「12.23」は第16〜19代［同10・15・20・25］に見られた)。

就任日に最多の「9.18」は11回有り（第4〜11・13〜15代，就任年＝1831・41・51，61・71・76・81・86，96・1901・06)，初回が満州事変の丸100年前に当る。智利の大統領と繋がる別の天数として，ピノチェトが唯一の現職元首として葬儀に参列したフランコ（西班牙国初代総統，1936.10.1より終身）は，ニュルンベルク裁判開始30周年に歿した（1892.12.4〜75.11.20)。

初の女性大統領バチェレはアジェンデと同じく医師から転身し，ア政権に協力した父親（空軍准将，1923.4.27〜74.3.12）が政変時の逮捕後に拷問死を遂げ，自身も翌年に母親と共に逮捕・拷問を受け，濠太剌利への亡命と東独への移住を経て79年に帰国し軍政下の反政府活動を行ったが，初当選の9ヵ月後に死んだピノチェトはその治下で国葬を享受できない。

大勢の被害者の反感に配慮して陸軍主催・国防相参列の元総司令官葬に止まったが，前任のプラッツ将軍の孫（年齢未詳）が遺体に唾を吐き掛けて逮捕された。祖父母を殺した元凶が老衰の為に法の裁きを逃し軍の最高栄誉を得た事は，彼には許せず最後の報復の動機と成った。1/3世紀後の鬱憤晴らしは遺恨の深さを物語り，戦後智利の最大の傷痕の所在を示す。

「9.11事変」は能く2001年の米国同時多発恐怖襲撃を連想させるが，拉丁亜米利加（ラテン・アメリカ）では1973年の智利政変を思い浮べる人も多い。西半球の南北の28年隔てた「9.11」惨劇は，先の方の前年の大西洋対岸の五輪選手人質・殺害の「9.5」（6日は4分間のみ）凶行と共に，9月の暗黒史の道標を成し，ミュンヘンの「9.5」は五輪史上の「9.11」に当る事を示唆する。

「8.8」縁起，「3.30/12.21開場」，49周年忌の黙祷，五輪の「魔呪」

変則の2020（→21）東京五輪の初日は中共「1大」開幕100周年に巡り合せ，開会時刻は呪われざる前回の午後2時より大幅遅く，08年北京五輪（今回の閉会日に充てた8.8）と同じ夜8時に為る。定刻に合せて国立競技場で盛大な花火が打ち上げられ，前年来4回目の首都緊急事態宣言（7.12〜8.22）下の無観客の主会場，延いては東京・日本・世界を明るくした。

国立競技場は五輪招致の一環と為る既成施設の建て替えが計画され，国際設計競技（コンペ）でザバ・ハディド（イラク系英国人，1950.10.31〜2016.3.31）の応募作が最優秀に選ばれた（12.11.15)。奇を衒う彼女らしい斬新な案は国立競技場将来構想有識者会議の承認を得た（2015.7.7）が，10月着工へ動き出す前に安倍晋三は費用の膨脹と世論の反対を理由に白紙に戻した（同17)。

首相判断に由る御破算の後は関係閣僚会議の主導で仕切り直し，一陽来復の日（12.22）に大成建設（1917.12.28設立)・梓設計（同46.10.10)・隈研吾（54.8.8生）案が優先交渉権を得た。「10.10/8.8」は2回の東京五輪の開/閉会日と妙に合うが，契約（2016.1.29）→起工（同12.11）→竣工（19.11.30）後の開場式（12.21）は，事実上の採用と隣り合う一陽来復の前日である。

サバは反伝統・非常識の不均衡（アンバランス）・混沌を好む脱構築主義の建築の気鋭な代表格の1人で，1990年代以来の同流派の世界的な席巻に乗って，国際設計競技で優勝する等の実績が多い。その半面，抜群の奇想も極端な奇抜さの所為で実現できず「建たぬ女王（unbuild queen）」の異名が付いた。今度も鮮麗な流線形が好評を得ながら，巨大さが景観を損ねるとも指摘され没に為った。

廃案決定の26日後（8.12），淡江大橋（台湾新北市）主橋区間の国際設計競技でサバ案が採用され，奇跡的な建造も可能な「魔幻（魔術的）女王」の軌跡として翌春の鬼籍入り後の遺作群に入る（2019.3.14着工，24年末開通予定）。斜張橋の単主塔が淡水河8景中の「淡水暮色」の斜陽を遮る懸念も囁かれたが，台湾交通部公路総局管轄の選考の結果は覆されなかった。

北京大興国際空港（北京大興市・河北廊坊市広陽区）終点高層建築物（ターミナル・ビル）（単体で世界最大［103万平米］）も，「（巨）大・新（奇）・高（水準）・尖（端）」を好む中華圏に遺した記念碑である。開港式典（2019.9.25）に臨む習近平の党首当選の日にその国立競技場案は最優秀を獲ったが，同年の厄病発生で五輪は承認も否定された有識者会議の解散（15.7.23）の丸6年後に延びた。

旧国立競技場（国立霞ヶ丘競技場陸上競技場，1956.12.28鍬（くわ）入れ式，57.1.10着工，58.3.25・30落成・竣工式）の建て替えは，主会場（メイン・スタジアム）を成す64年五輪と繋がるが，前回の開会式の点睛なる聖火点火の台は当初欠落した。国際設計競技の募集要項に言及が無い為サバ案は場外設置とし，観客全員及び外から見えるという国際五輪委基準に満たない事は誰も気付かなかった。

応募資格の優れた声価・実績を持つ面々の46案から抜きん出たサバ案の却下後，再設計競技には国内2者だけ応募し，「杜（もり）の競技場（スタジアム）」（全体（コン）を貫（セ）く統一的（ブ）な理念（ト））案が無難に通った。僅差（610対602点）で勝った木と緑の競技場の構想は，消防法の制約で同じく設置場所が無く，問題発覚（2016.3.3）後の善処で，開会式用の会場内型と期間中に使う屋外型に分けた。

先代の聖火台は第3回亜細亜競技大会（1958.5.24～6.1）の為に造られ，美術鋳造の名工鈴木万之助が失敗の衝撃で9日後に死去し（58.2.23，歿年68），三男文吾（同2008.7.6，86）が引き継いで完成した。20年後の8ヵ国対抗陸上競技大会開会式（1978.9.25）で点火5分後に突然爆発音・破裂が生じ，11年振りの使用で聖火が消えた事は昭和中期との断層を暗示する。

『朝日新聞』2021年7月24日朝刊の1面記事は57年前の開会式特集と打って変って，『東京五輪 コロナ下の開幕/1年延期し 1万1000人出場』『「祝い」表現使わず/天皇陛下が開会宣言』『熱戦の隣 鳴りやまぬ救急電話/横浜の五輪指定病院では』と明暗の両面が同居する。前回の74534人来場に対して，出席者は国際五輪委や広告主（スポンサー）等900人程度に厳しく限定された。

祝祭感が薄い式典の冒頭を飾る映像は新しい国立競技場への進化を淡々と表現し，黒板に白墨（チョーク）で描かれた幾何形体が手書き動画（アニメーション）に由って動き出されて行く。小山田圭吾が担当した開始（オープニング）の約4分の音楽は田中知之（1966.7.6生）が代役を務め，虐め自慢に出た糞・精液等の穢れが神聖な舞台に塗れずに済んだが，俄（にわか）造りの開始曲は平成からの変容を象徴する。

2019－nCoVの前年を連想させる時刻（20:18）に国旗掲揚へ移り，歌手MISIA（ミーシャ）（本名非公

開，1978.7.7 生）が国歌『君が代』を独唱した。2019～21 年 NHK 紅白歌合戦で紅組トリ・大トリを務めた彼女は，ASIA（アジア）の人々に音楽を届ける想い（芸名の由来）や性的少数者（セクシャル･マイノリティ）への声援が熱いが，出生の 41 年前の日中戦争勃発で翌年の同じ 7 月に東京五輪が返上された。

汚れた形象を払拭する為の交代で小山田より 2 歳上の音楽企画（プロデューサー）・製作者が起用され，彼の誕生日は同じ 1960 年代生れの俵万智（3 歳上）の昭和末自製の「サラダ記念日」と重なる。徹夜で 30 時間掛けて大至急に仕上げた再製作は尋常ならぬ追い詰め・追い込みを物語るが，旧国立競技場の聖火台の鋳造失敗後の再製作者の物故も北京夏季五輪の前月の同日である。

田中は「9.11」恐怖（テロ）襲撃後に亜細亜人である帰属意識（アイデンティティ）を強め亜細亜を主な活動地域にし，亜細亜重視の MISIA（ミーシャ）との干支 1 巡の年齢差・誕生日の 1 日違いは奇妙な「時環」である。抗日感情に由来した中国の国歌『義勇軍行進曲』と違って『君が代』は政治色が濃くないが，人類の盛典に於ける独唱者の誕生日は浪漫的（ロマンチック）な七夕と共に惨烈な日中戦争を連想させる。

国旗･国歌の法制化（『国旗及び国歌に関する法律』，1999.8.13）の遅さは曖昧な日本らしいが，62 年前の第 2 次上海事変勃発と同じ日は 20 世紀の戦乱絡みの「史縁」の遍在を思わせる。1964 年東京五輪閉会の翌日の池田勇人首相退陣表明の「10.25」は，中国の志願軍朝鮮参戦･国連加盟（14 年前・7 年後）の日で，翌年の逝去は 34 年後の国旗・国歌制定の日である。

年（下 2 桁）＋1 の時分（20:23）に，コロナ禍の犠牲者とミュンヘン五輪の恐怖（テロ）襲撃の犠牲者への黙祷が行われた。以色列（イスラエル）の遺族が国際五輪委に求めた開会式での追悼は漸く実現したが，東京五輪の延期で 49 周年忌と成った。猶太人諷刺に由る直前の小林賢太郎解任と合せて，幻の東京五輪の前の伯林五輪を主宰したナチスの反猶太志向への清算を鮮明にした。

ブランデージ会長の最終勤務日に当るミュンヘン五輪の閉会式で，午後 8 時に聖火が消え暗闇の中で以選手団（欠席）の犠牲者に黙祷が捧げられた。後任（～1980.8.3）のモリス（愛蘭の報道人，男爵，14.7.30～99.4.25）との任期の分れ目は，「9.5」惨禍に由る会期の 1 日繰り下げで「9.11」に変ったが，翌年の智利政変・29 年後の米国恐怖襲撃が 2・3 重写しに成った。

五輪の名称通りの夏季開催は第 5 回（1912.7.6～22，瑞典・ストックホルム）が最初で，次の第 9～11 回（28.7.28～8.12，和蘭（オランダ）・アムステルダム；32.7.30～8.14，米・羅府；36.8.1～16，伯林）を経て，第 6 回（16 年，伯林）に次ぐ第 12・13 回（40 年，東京→芬蘭（フィンランド）・ヘルシンキ；44 年，倫敦）の中止の後，第 14・15 回（48.7.29～8.14，倫敦；52.7.19～8.3，ヘルシンキ）で続いた。

第 16・18・19・24・27 回（1956.11.22～12.8，豪・墨爾本（メルボルン）；64.10.10～24，東京；68.10.12～27，墨西哥・墨西哥市（シティ）；88. 9.17～10.2，漢城（ソウル）；2000.9.15～10.1，豪・悉尼（シドニー））は，南・北半球の季節の反転に関らず会期が名実不一致で夏季に入らない。第 1 次東京五輪の秋開催は第 2 次の酷暑期（7.23～8.8）より合理的・快適で，開・閉会の時期は其々歴史の連環や「魔呪（ジンクス）」と繋がる。

10 月 10 日は 20 世紀に中国の出来事が多く（1911 年に辛亥革命，13 年に袁世凱の中華民国初代大統領就任，19 年に国民党結成，45 年に国共談判「双十協定」調印），日本では 44 年の「10.10（沖

縄大）空襲」が有る。第2次大戦終結年のこの日の独逸ナチ党の解散と朝鮮労働党の成立は，熱戦（ホット・ウォー）→後熱戦（朝鮮戦争等）→冷戦（クール・ウォー）→後冷戦（ポスト）という展開の中の節目の1点に数え得る。

10月24日は35年前（1929）に「暗黒の木曜日」（米国株の大暴落，10.28～29に破壊的）が有り，20年前のレイテ沖海戦（44.10.20～25）で戦艦「武蔵」（42.8.5就役）が撃沈され，19年前にソ連の批准に由る国際連合憲章発効で国連が成立し，4年前にソ連でニェジェーリンの大惨事（大陸間弾道誘導弾実験発射時に発射台で誤操作に由り着火・爆発，約120人死亡）が起きた。

事故現場のバイコヌール宇宙基地（カザフスタン・チュラタム）は当初ICBM発射場で，落成（1955.6.2）の翌年の初試射後ロケット発射場に拡張され，人類初の人工衛星発射に続いてソ連/露西亜の全ての有人宇宙飛行船発射に使われて来た。ガガーリン（初の単独搭乗を果した宇宙飛行士，1934.3.9～68.3.27）の名を冠する第1発射台は，60年後の今も使用が続いている。

偉業達成の日（1961.4.12）は翌年ソ連の「宇宙飛行士の日」と成り，50年後「世界宇宙飛行の日」と制定された（2011.4.7，国連）。1981年4月12～14日，米国国家航空宇宙局（58.7.29成立）の再使用型往復用有人宇宙船（「コロンビア号」）が初の宇宙飛行に成功した。宇宙進出の新しい利器は技術的な要因に由る発射の2日延期で，天意の如く由緒有る日に昇天した。

135回目の飛行（2011.7.8）で退役した米国独自の豪華船（往復1回の平均費用は15.5億弗（ドル））は，ソ連の初期の有人宇宙飛行船と同じく人命保障装置の欠如や不備の欠陥を抱えた。性能過信の所為で「挑戦者号（チャレンジャー）」爆発事故（1986.1.28，発射後73秒，7人死亡）で脱出の術が無く，増設した装置は手動のみで「コロンビア号」空中分解事故（2003.2.1）で間に合わなかった。

ガガーリン初飛行の宇宙船も気密容器（カプセル）毎で安全に着陸できる装置が無く，大気圏再突入後に座席毎で射出され落下傘で自国領に帰還した。1時間48分の宇宙滞在中に2階級特進（中尉→少佐）の朗報が舞い込んだ事は，中国流で言う「直昇飛機/火箭式提昇」（ヘリコプター/ロケット式抜擢）以上に高速・壮大であるが，劇的な破格授与は生還困難の憂慮にも由る。

「ソ連英雄」の称号と大佐の階級を得た彼は飛行訓練で事故死を遂げ，同じ称号・階級のコマロフ（1927.3.25生）の宇宙飛行船帰還失敗（67.4.24）と共に，毛沢東が天に対する人の挑戦とし人は必ず勝つと信じた航空・宇宙飛行の怖さを思い知らせた。ガガーリンは別の空軍機を回避する為に墜落したと言われるが，2日後に「文革」の内争で傅連暲中将が獄死した。

初有人宇宙飛行の半年前の惨禍は1989年まで隠蔽され続け，代名詞と成る爆発の殉職者（初代戦略ロケット軍総司令・砲兵総元帥，02.7.27生）は，将帥も逃れない「天有不測風雲，人有旦夕禍福」の定めを実感させる。中共「砲兵の父」朱瑞（東北野戦軍砲兵司令）も建国の1年前（1948.10.1），義県（遼寧錦州市）攻略後に前線陣地への視察で地雷に命を奪われた（歿年43）。

中共2017年党大会の閉幕（10.24）の翌日は中澤克二に，同日に党首再選を果した習近平の「帝国」の暗号と見られるが，20世紀の「10.25」の重要な出来事も中国関連が多い。1945年の台湾光復（日本統治下から中華民国に編入），50年の志願軍と韓国軍の初交戦，71年の中華

人民共和国の国連加盟・安保理常任理事国就任は，何れも習の「紅色基因（DNA）」の形成と関る。

『朝日新聞』1964 年の当日朝刊の 1 面記事（『政局転換の方向へ / 池田首相 / 病状次第で決断 / きょう「総合判断」/ 引続き入院の見通し』『東京五輪の幕閉じる / 皮膚の色も国境も越えて』『公共投資額を内示 / 中期経済計画 十六兆八千億円 / 関係各省は強い不満』『共同声明とりまとめ / 社会党訪中使節団 / 中国側との討論終る』）の内, 前日の五輪終了（午後 5 時より閉会式）は永田町と霞（かすみ）が関の動向の間に翳（かす）んだ。

池田勇人は 19 世紀生れ（1899.12.3）の最後の首相（1960.7.19 就任）として，国民所得倍増計画（同 12.27 閣議決定）で高度経済成長を推進した。五輪直前（9.9）喉頭癌（病名は本人に非告知，「前癌状態」と発表）治療の為に入院し，盛典の開会式には出席したが，閉幕（欠席）の翌日に辞意を表明した。「11.9」退陣（鄧小平引退の 25 年前）後，翌年 65 歳の人生を閉じた（8.13）。

後を継いだ佐藤栄作の退陣宣言と執政終了（1972.6.17，7.7）は，札幌冬季五輪（2.3～13）の 4 ヵ月後である。長野冬季五輪（1998.2.7～22）時の橋本龍太郎総裁・総理も 5 ヵ月後，参院選（7.12）の自民党惨敗の 12・18 日後に 2 職を終えた。今次東京五輪の開催を堅持した菅義偉首相も，続く身障者五輪（パラリンピック）（2021.8.24～9.5）の終盤（9.3）に辞意を表し翌月 4 日に退いた。

安倍晋三の 2 度目の首相辞任表明・退陣（2020.8.28，9.16）は，同年予定の東京五輪（7.24～8.9）の後と身障者五輪（8.25～9.6）の序盤・後に当る。幻の 1940 年東京五輪（9.21～10.6）の直前（81 年後の開幕の前日の 7.22）にも，米内光政首相（同年 1.16 就任，海軍大将，1880.3.2～48.4.20）が陸軍との対立で辞職したから, 全ての五輪開催（中止含め）年に首相退陣が起きた。

幻の東京五輪と 24 年後の初開催から，26 年隔てた 2 回の日本開催の冬季五輪，後者の 22・23 年後の第 2 次東京五輪（予定・実施）に至るまで，四半世紀前後の間隔を幾つ含む 81 年中の 5 回（見做しの分も込む）は, 例外無く不吉（ジンクス）な因縁が出現や再演が見られた。英語の jinx（悪運［を齎す］。縁起の悪い物 / 人）の漢訳「魔呪」は，此処でも魔性の呪縛の性質を覗かせる。

1940 年東京五輪の開会予定（9.21）は 6 年前 /19 年後の室戸 / 伊勢湾台風の上陸 / 発生日で，閉会予定（10.6）の 33/36/41 年後に第 4 次中東戦争勃発・「4 人組」逮捕・サダト暗殺が有った。2020 年東京五輪は 364 日の延期で初日が中共「1 大」開会 100 周年に巡り合せ，身障者五輪も同じ順延の結果「黒い 9 月」ミュンヘン五輪襲撃 49 周年（9.5）に閉幕した。

附記

本稿は 10 年来の一連の論説（本誌 2012 年 3・6 月所載『诡异暗合：历史人物生卒、历史事件发生日时中含天命・天意、天理・天道的天数・天机――中共双重诞辰、中国多轮演进变幻所隐现的 “ 时环天数・劫结天机 ” 论考之一』『劫結難逃：“ 時環史縁 ” 的変数・定数交織和 “ 人環情縁 ” 的栄辱・盛衰転換――中共双重誕辰、中国多輪演進変幻所隠現的 “ 時環天数・劫結天機 ” 論考之二』，同 14 年 2 月の『破底超限：薄熙来事変之 “ 逆世流危搏 ” 的教訓（一）』，15 年 3・6 月の『「新興国・老大国」の蹉跌（さてつ）と試練――2011.7.23［中共「90 歳誕生日」］高速鉄道追突・転落事故の衝撃と啓示』

『「新興国･老大国」の蹉跌と試練［続 1］――「王八蛋工程」「571［武起義］工程」に窺えた「先軍党国」の劣化･変質』，18 年 6･10 月と 19 年 3 月の『毛沢東の呪縛と習近平の「超限戦」――古今の「盛衰興亡周期律」と中国の行方［1～3］』，19 年 6・10 月の『習近平の原点と“紅色基因”――毛沢東・鄧小平への継承・超越［1～2］』等多数）を踏まえて，新型冠状病毒感染症の世界的大流行の為 2020 年から 1 年延期した東京五輪の初日が中共「1 大」開幕 100 周年に巡り合せた時機から，昭和の戦前 / 後の幻の 1940 年東京五輪と盛況の 64 年同祭典に次ぐ令和初頭の変則開催の騒動，中共の第 2 の 100 年に向ける再起動で生じた様々な変事を取り上げ，21 年「7.23」以降 1 年間の史実を切り取って天数を探求する。

筆者は中国社会科学院外国文学研究所東南東北亜文学研究室助理研究員・京都工芸繊維大学工芸学部助教授在職中の 1989 年に，学生・市民の民主化運動への中国当局の武力鎮圧に衝撃を受け，研究領域を日・中文学の比較から現実への関与度がより高い文化・言語・社会・政治の比較に移した。

波瀾を孕む時代と葛藤を抱える過渡期に読んだ 80 年前の幸田露伴の歴史小説『運命』（長篇, 1919.4）で，政変で消えた明の建文帝の数奇な生涯に吉凶禍福の定数，飲啄笑哭の天意を見出す視座から示唆を受けた。彼が前半の人生を送った明治の天皇，彼を尊ぶ谷崎潤一郎との命日の一致も，興味深い天数として目を引いた。自分の出生（1954.7.25）が日清戦争勃発 60 周年に当る事は，両国の架け橋と成る使命を暗示する天啓の様に思えた。

竹内實氏は山崎豊子著『《大地の子》と私』文庫版（文藝春秋，1999）の解説で，表題の長篇小説の中国取材に就いて話し合う両者の初対面（84.7.25，大阪）を記した。国務院直属の国家高等研究機関・「智庫」（北京）在勤中の 30 歳の誕生日のこの与り知れぬ事から間も無く，筆者は現地通訳の職務に充てられ（竹内氏特筆），2 年掛けて通算数十日に亘って随行し，党首胡耀邦との 3 回の会見で双方共用の単独通訳者も務めた。

山崎氏は中国取材中で「晴れ女」の伝説を実感させ，歿後の今も筆者が山崎豊子文化財団理事会に出席する日は，梅雨期の最中の降雨予報や実際の広域降雨に関らず，会議の時間帯に限って会場（大阪商工会議所）辺りでは摩訶不思議に雨が降らない。強運の訪中の 1984～86 年は日中関係の史上最良期で，連載開始の 87 年には年頭の胡総書記失脚で晴れ間が消えた。筆者は幸運にも山崎・竹内氏の推薦で日本国際交流基金特別研究員・京都大学人文科学研究所招聘外国人研究者として来日した。

筆者は京大人文研所長・立命館大学国際関係学部長を歴任した竹内氏に多大な御世話に成り，助教授就任時にその退任時の個人研究室が充てられた。本学孔子学院の副学院長・学院長代理を在任中に氏を顧問に迎え，2 年目に『毛沢東 その詩と人生』（武田泰淳と共著，文藝春秋新社，1965）に記念の言葉を揮筆して戴いた（「蒼茫大地 / 夏剛先生指教 / 竹内実 / 二〇〇八年十一月二十九日 / 于立命館大学孔子学院」）が，巡り巡って胡・山崎初会見 24 周年時の事である。氏の逝去（2013.7.30）は明治天皇・幸田露伴・谷崎潤一郎と同じ命日で，山崎の他界（同年 9.29）も日中国交正常化 41 周年に当り歴史の因縁を思わせる。因みに，首相在任中に胡と共に日中関係最良期を作った中曽根康弘の享年 101 の大往生も，胡が親善強化の為に初めて日本の作家を単独で中南海に招き入れた 35 年後の 2019 年 11 月 29 日の事である。

2 年後の胡耀邦急逝で追悼活動が民主化運動の導火線と成り，「5.20」首都部分地区戒厳令実施を経て「6.4 天安門事件」に至った。5 月 20 日は 40 年前（1949）の台湾戒厳令実施と初代（48）以降の総統就任日の定番でもあるが，筆者の日本国籍取得（2014）は国・共両党の強硬手段発動の 65・25 周年時である。同じく官庁（別系統）の都合に由る旅券の発行日（同年 7.25）は巡り巡って満 60 歳を迎えた日で，余りにも天数が纏わる身として天意を感じ取る。上海出身の筆者は父親夏正行が同済大学の学長室長，母方の祖父翟（てき）立林が同建築工程学部副教授・工程経済学部教授・経済管理学院初代名誉院長を務めたが，同済族の自分の帰化は建学（1924.5.20，教育部の認可に由り同済医科が大学と成った）90 周年記念日にも当る。

露西亜 10 月革命 35 周年に合せた両親の結婚日（1952.11.7）は，中澤克二の習近平党首再任日（2017.10.25）の寓意読解（10 月革命勃発日のユリウス暦）と関る。出生時の同済新村（大学教職員共同住宅）118 号と再々引っ越し先の 66 号は，本稿で言及した毛沢東愛用の人民大会堂「118 庁（間）」と「文革」元年の西暦の下 2 桁を連想させる。今年で生誕 100 周年と成る父の 43 歳の誕生日（1965.11.10）は，「文革」前哨戦発動（姚文元の『海瑞罷官』批判論説発表，楊尚昆の中央辦公庁主任更迭）の日に巡り合せ，迫害死の日（73.11.24）は 4 年前の同月（11.12）に惨死した劉少奇の生誕 75 周年時である。筆者が日本の大学で教鞭を執る 33 年の間 1 度だけ病気で休講したのは，56 歳（男・女の体調変化の節目と言われる年齢× 8・7 の共通「鬼門」）時の人生初の不整脈で極短く体調を崩した事に由るが，志願軍朝鮮出兵 60 周年記念日（2010.10.25）の時期に今更ながら戦慄を覚えた。

上記の 2012・15 年の論説 4 篇の契機は，中共建党 90 周年時（11.7.23）の温州高速鉄道追突・転落事故である。粗末な輪禍惹起，野蛮な復旧作業，横暴な言論封殺に由って，鄧小平「南巡」（1992.1.18～2.21）で再起動した改革・開放の負の側面が猛然と噴き出た。長期に亘る高度成長が持続的な減速へ向い，限定的な開明治世も強硬な専制に変って行く，という予感から歴史の転換点と捉えた。1・2 篇目の後に出た米国の中国現代史学者（ジェフリー・ワッサーストロム，加州（カリフォルニア）大学アーバイン校歴史学教授）の見解も，同事件を高度成長の減速傾向の表徴と見做し（『Newsweek（ニューズウィーク）』日本語版 2013.10.15 号所載『成長神話が崩れた中国の行方』の第 3 節「高速鉄道事故が転換点」），政府公認の中高速成長へ移行する「新常態（ニュー・ノーマル）」（習近平 14.5.9～10 河南視察中に提起）の定着も高速→失速の暗転を裏付けた。

同じ辛亥革命（1911.10.10）100 周年の折に，谷開来（中央政治局委員・重慶市委書記薄熙来の妻）と手下由る英国の実業家毒殺事件が起きた（11.14，重慶）。谷の 53 歳の誕生日に死体が発見され事件は「11.15 案件」と命名されたが，9 年前・1 年後の同日の胡錦涛・習近平の党首初当選と結び付けた 2014 年の前掲論考は，18～19 年の毛・鄧・習の「赤い遺伝子」と中国歴史の「盛衰興亡周期」論の伏線と成った。筆者の出生は現任の第 19 期政治局常務委員の 7 人の平均（1954.7.31［日清戦争宣戦 60 周年・中共建軍 27 周年の前日，明治天皇等の命日の翌日］）と 5.4 日の差しか無い故，習の内面に迫り習時代の深層を掘り下げるのに適格性が有る。

「人工知能囲碁制覇・国際活躍元年」（2016）の画期的な出来事（米グーグル傘下の英国新興企業 DeepMind が開発した囲碁対局ソフトが 3 月 9～15 日，首爾（ソウル）で韓国の超一流棋士李世乭（イ セ ドル）を 4 対 1 で撃破）の刺激で，囲碁関連

の系列論考（夏冰と共著）を書いた（16年6・10月，17年2月の『囲碁の「酷」と人智の「魔」――究極の頭脳競技（ゲーム）の原理と中・韓・日・人工智能（AI）4強の特質・行方［1～3］』，17年10月の『相克相生と栄枯盛衰――国際化・人工智能制覇時代の囲碁の変容と不易［1］』，18年3月・20年3月の『相克相生と深奥幽玄――囲碁・棋史の情理と妙趣［1～2］』，19年2月・20年6・10月の『碁源――天授の盤上遊戯・人智競技［1～3］』）が，其処でも様々の玄妙な天数に遭遇した。

囲碁の最初の登場は『春秋左氏伝襄公二十八年』の記事で，同年（紀元前548）の2500年後（1952），中国・日本の1980/80～90年代の王者である聶衛平・小林光一が生れた（8.17，9.10）。前年の武宮正樹（世界戦王者第1号，1951.1.1生），翌年の曹薫鉉（チョフンヒョン）（同第2号，53.3.10生）・徐奉洙（ソ ボン ス）（曹と並ぶ韓国「4天王」の1人，2.1生）と合せて，最古の記録と繋ぐ壮大な連環で碁史の起源を示唆する様に3強国の1代碁豪が降臨した。3年の内に伝説的な熱戦（橋本宇太郎本因坊対坂田栄男・高川格挑戦者の7番勝負，呉清源対藤沢庫之助・坂田打込（うちこみ）十番碁等），「第2の呉」林海峰（上海出身・台湾在住）来日，NHK杯争奪囲碁トーナメント開始等，100年単位の歴史の道程に相応しい事が多い。

『現代囲碁大系』（編集主幹＝林裕，全47巻＋別巻1，講談社，1980～84）第1～43巻所収の棋士74人の内，物故者61人の16.4％を占める10人の逝去は11月下旬～12月初頭の13日間（1年の3.6％）に集中する（日付順で，鈴木為次郎＝60.11.20，杉内雅男＝2017.11.21，稲垣兼太郎＝40.11.22，田淵米蔵こと十五世井上因碩＝17.11.23，高川格＝86.11.26，梶原武雄＝09.11.28，細川千仞＝74.11.29，岩本薫＝99.11.29，染谷一雄＝80.11.30，呉清源＝14.11.30，橋本昌二＝09.12.2）。二十四節季の小雪（11.22）前後～大雪（12.7）前の季節の変り目に体調が急変し易い所為も有ろうが，「巨星」呉・岩本・高川等が申し合せたかの様に同じ時期に墜ちた事は，囲碁は天与の盤上遊戯で碁豪は天授の人智英傑だという天神の意思の伝達であろうか。

初めて職業棋士に勝った（2015.10.5～10，倫敦，中国棋院二段・欧州王者樊麾（はん）に5連勝）人工知能囲碁対局ソフト*AlphaGo*は，対李5番勝負で呉の棋風を漂わせたが，近代五輪の創設者ケーベルタン男爵（仏蘭西の教育者）の逝去の日（1937.9.2）にユベロス（米国の実業家）が生れ，後者が組織委員長として84年羅府（ロサンゼルス）大会を進め五輪の商業化の走りと成った事を連想すれば，人類碁史上の第2黄金期（第1の江戸時代に次ぐ昭和）の最高峰に居た「碁神」呉の享年100の他界は，第3（国際電脳網（インターネット）普及中の東亜3強競合の国際化時代）の後の第4（人工智能制覇と人間・機械共生時代）へ導く転生（しょう）かとも思われる。

武宮→聶・小林→徐・曹生誕に続く1954年に，川端康成の長篇小説『名人』（42年から断続的に発表）が完結した。最後の家元制本因坊秀哉の引退碁（相手＝木谷実，1938.6.26～12.4）を描く作品は，日本人初のノーベル文学賞受賞者の碁好きの執着で実ったが，同年に生れた筆者は研究者・愛棋家の熱意から漢訳した（筆名＝求道，湖南人民出版社85年刊川端小説集『花的圓舞曲』所収）。

筆者は生年が周王朝（前1046～前256）成立3千周年に当る事も有り，歴史の百・千年単位の節目や連環に深い関心を持つ。語録に囲碁への言及が有る孔子の生・卒年（前551～前479）と，中共建国・建党（1949・21）との2500・2400年の間隔にも注目して来たが，党が100歳と成った日が延期後の東京五輪開会に選ばれた奇縁は，「無巧不成書」（好都合な偶然が無ければ物語に成らない。事や物語には偶然は付き物［講談等の常

套口上］）の通り，本稿が生む前提である。

筆者は大学院（中国社会科学院研究生院）卒業（1983.12.31）後，幸運にも 20 世紀中国史上最も活気に溢れ自由度も低くない黄金の 3 年間に活躍の場を得た。本業の日本文学研究よりも当代中国文学の評論が斯界で高く評価され，両輪の相乗で両国文学の比較に進み出た。主な業績（日本語版＝『「文革」後の中国文学と日本の戦後文学』，岩波書店『文学』誌 1989 年 3 月号）でも，明治維新と戊戌変法（1868，98），日・中の近代文学の起点（1887，1918），戦後文学と「文革」後文学の各第 1～3 波（1945～55，78～86）の発展時間差（タイム・ラグ）を軸にした。

中国語版（『十年：世紀的衝刺――対「劫後文学」的双焦点透視』，『当代作家評論』1986 年第 5・6 号，9・11 月）の掲載誌で，初の年間総評論説（『潮汐的騒動――1984 年中篇小説巡礼』，同 85 年 3 号，5 月）が 84～86 年度優秀論文賞を受賞したが，同種の 3 作目（『炉辺閑話：1986 中国小説品格批評』，87 年 2 号，3 月）は当該分野での絶筆と成った。政治の抑圧や商業化の侵蝕の予感と悲観論を示す異形の長談義（改行無しの約 1 万字が A4 判の 8 頁も続く）の文末で，節気・時分・執筆場所（北京市朝陽区に在る職場供与の研究者住宅棟の同僚 3 世帯共用の半地下室区画）の特記（「1987.1.20 大寒深夜罷筆於勁松半地下室宿舎」）に，胡耀邦失脚（1.16）後の暗澹たる気持と断筆宣言を託した。

同年 6 月 30 日に初渡航で念願の中国脱出・日本行きを果したが，日航機で読んだ朝刊報道の韓国「6.29 民主化宣言」の動向が研究領域に入る事は想像できなかった。後に本学国際地域研究所専任研究員の兼務中，朝鮮半島を巡る日中韓朝露協力を中心とする東北亜細亜共同体の基礎条件に関する企画（プロジェクト）研究（2004～05 年度）の幹事を務め，『東アジア共同体の構築』（西口清勝と共編著，ミネルヴァ書房，06）等の成果を出した。

その論集所載の拙論（『「東アジア共同体」構築の隘路と進路――中国の政治文化と日本の企業文化を手掛りに』）で，東京―首爾（ソウル）―北京，東京―新嘉坡（シンガポール），北京―新嘉坡を結ぶ地図上の直線から成る「金（ゴールデン）三角」地域を示し，上海・深圳・香港・台北を含む東亜「第 1（先進・富裕）世界」の対「第 2・3 世界」の優位を指摘した。習近平研究では中央入り前の福建→浙江→上海栄転を，繁栄の 1 等地域を転々する厚遇の享受と見做した。囲碁の起源の研究でも，日・韓・中・台湾の強豪の生地が圏内に多い事を文化先進地域への天賜の証とし，中・日の古今の多くの首都が北緯 35 度線一帯に集中する事と結び付いて，空間面の天意にも焦点を当てた。

本稿起筆の 2021 年 12 月 23 日は一陽来復（冬至，12.21～22）の翌日に当り，猪瀬直樹氏がマッカーサー仕込みの暗号を解読した A 級戦犯処刑日の 73 周年に当る。氏の作品（『日本凡人伝　死をみつめる仕事』，新潮文庫，1991.5）の解説（『「生」へ肉迫する仕事――猪瀬直樹のインタヴュー・ノンフィクションの全解説』）を執筆した 30 年後，その都知事在任中に誘致した東京五輪の影の部分に肉迫する論説を綴るのも奇妙な巡り合せである。

前回の東京五輪の開幕は辛亥革命（1911.10.10）53 周年に当り，中華民国の「双 10」国慶節の由来と成る武漢新軍蜂起の地で，108 年後の大雪の翌日（2019.12.8）に新型冠状病毒（コロナ・ウィルス）感染第 1 号が確認された。西班牙風邪（1918～20）再来の猛威で東京五輪は辛うじて中止を回避して無観客開催と成り，1940 年東京大会の返上と 80 年莫斯科（モスクワ）大会の大勢参加拒否（ボイコット）に続く「呪われた大会」の風評も天数を思わせた。

本稿は数々の事象を時間的な連環で繋ぎ合せ，中の一部からの触発で別の「時環」連結事象群に着目する。壮大な歴史を去来する論考の第2回の最終部分（「10.24批判」「1.15糾弾」「1.20裁決」）は，毛沢東発動の兪平伯・胡適・胡風批判（1954年秋～55年夏）に焦点を当てたが，見出しの時機は図らずも32年後の鄧小平主導の胡耀邦辞任・異端識者排除と重なる。小寒（1.5～6）～大寒（同20～21）の間は長征途中の党首更迭の遵義会議（1935.1.15～17）等の様に政変が起り勝ちで，大寒～立春（2.4～5）と対極に在る大暑（7.22～23）～立秋（8.7～8）間の中共建党大会,「文革」初頭の中央全会での劉少奇失脚等で激動が多い。

毛の「百花斉放，百家争鳴」宣言（1956.5.2）で人々が雪融けに感激したのは長い厳寒の裏返しだ，という結末から一転して，第3回は北京冬季五輪（2022.2.4～20）で始まる。主要な論考範囲の1年（東京五輪の初日が起点。題は『変事続発・天数乱舞――五輪魔呪・中共百年から紅羊劫へ』に変更する予定）の内に，二十四節気の第1の立春に当る開幕が65年前の幻の「北京の春」と対照を成す。習近平は開会式の日に主賓プーチンに中露友好関係の「無上限，無禁区（立ち入り禁止地区 / 聖域無し）」を宣言し，相手の「超限 / 破禁（禁忌破り）戦」の後押しに成ったが，雨水（2.19）の5日後の世界大戦前段階への突入は「2.4」に伏線が敷かれた。

フルシチョフのスターリン批判の秘密報告（ソ共「20大」最終日, 1956.2.25）が毛の「反右」を刺激したが，66年後の「2.24」（独逸ナチス党発足102周年）にプーチンが露西亜のウクライナ侵攻を始めた。湾岸戦争中の多国籍軍の地上部隊の速攻成功（1991.2.24～26首都制圧）は31年後の同時期には再演できず，北京冬季身体障害者五輪（3.4～13）の数か月後も泥沼から抜け出せそうにない。本稿では中共「8大」前の毛と「20大」前の習に大きく影響した2つの驚天動地の事件を後に回し, 第4回（脱稿済み, 次号掲載）で「2.25」（韓国史上最悪の大量殺傷事件の単独犯禹範坤の誕生日と重なる1988年以降の6人の悲運の大統領の就任日),「2.26」（陸軍の皇道派青年将校等に由る首相官邸襲撃・閣僚殺害の政変）を取り上げた。

「2.26」に至る凶行の連鎖として1932年「5.15」政変・犬養毅首相殺害，濱口幸雄首相狙撃（31.11.14），原敬首相暗殺（21.11.4）に溯り，伊藤博文元首相（初代）射殺（09.10.26，原・濱口と同じく駅頭にて）と関連付けて書き進めた処，7月8日に奈良市の私鉄駅外で選挙応援演説中の安倍晋三元首相が元自衛隊員の凶弾に斃れた。旧態依然の警備弛緩から「小室劇場」等を含む平成以来の日本の不用心・無防備・無気力の劣化を痛感するが,「第2の敗戦」元年の國松孝次警察庁長官狙撃（1995.3.30，重傷，未解決）を凌ぐ令和初頭の特大凶事は, 今回言及の在任期間歴代最長の記録保持者だけに父晋太郎と同じ歿年67の死が悔まれる。

刺客（1980.9生）は安倍生誕と同月（54.9）に成立した統一教会への高額寄付で母親が破産した事を恨み，関連教団に寄せた安倍の儀礼的挨拶の動画（2021.9.12）を見て癒着と捉え抹殺を決意した。誘因と成った教会の教祖文鮮明（1920.2.25～2012.9.3）の誕生日は，又6期に亘る大統領就任日と重なる。矛先を元首相に向けた契機の動画拡散は林彪事件50周年の前日に当り，本稿第4回で林の長男立果（本稿起筆の76年前の1945.12.23生）の毛暗殺計画を分析する。

安倍死去の丸28年前の金日成急逝も朝鮮半島の秩序を揺るがす衝撃的な劇変で，更に28年前（1966,「文革」元年）の同じ日に毛が政治的な遺書と成る江青宛の書簡を認めた。毛は開国大典の際に理由を明かさず28回の礼砲発射を命じ，中共建党～建国の28年間か「毛澤東」の総画数に因んだ青年時代の仮

名「二十八画生」が由来だと推測されるが，28 は二十八宿（東・北・西・南の青龍［蒼龍］・玄武・白虎・朱鳥［朱雀］4 象［動物の形象］の各 7 星官［星座］から成る天球の区分）の様に神秘な数である。

毛の「7.8」予言中の死後の国内「右派」の政権掌握と国際共産主義運動の凋落は，見事に相継いで現実と成った。「左派」再起の期待も半世紀後の「文革」再演の徴候から，当人と昨今の世人の想像以上の展開が窺える。建党 100 年後の「左」旋回の加速は教育産業・情報技術企業の規制，「清零（ゼロ・コロナ）」政策に由る各地の「封城（ロック・ダウン）」，党首 3 選を図る「20 大」（2022 年秋）前の尊崇論調の膨脹を見れば，「文革」後期・毛時代末期よりも「文革」的･毛張（ば）りの感が強い。本稿第 2 回で振り返った「大躍進」の「全民大煉鋼鉄」の徒労や「除 4 害」の雀撲滅の茶番劇は，頑迷・粗暴な「清零」固執の誤謬・滑稽を鏡の様に映し出す。

筆者は現実に関与する意図も未来を予測する能力も無いが，本稿は温故知新の材料として今日的な意義が有る。欧亜集団（ユーラシア･グループ）（世界最大の政治危険性（リスク）調査助言（コンサルティング）・指導会社，1998 年設立，本社＝紐育）2022 年 1 月 3 日発表の本年 10 大危険性（リスク）で，中国は第 1・4 の「清零政策の失敗」「習近平時代の内政」と 2 項も有る。世界で日増しに存在感が高まる中国のより恐る当き異変は寧ろ，次の「紅羊劫」（国家大乱が起り易いとされる丙午（ひのえうま）・丁未（ひのとひつじ））に当る 2027～28 年であろう。本稿で大写（クローズ･アップ）しする「文革」動乱・内戦の頂点（1967・68）が正に前回なので，干支の 1 大巡り後の中国は古人が大凶の特異時期とした 2 年間を平穏に過せるか。

米国印度太平洋軍司令官デービッドソン海軍大将は 2021 年 3 月 9 日，中国は 6 年以内に台湾を侵攻する可能性が有ると上院軍事委員会聴取会で証言した。筆者は往年の論文（本誌 2004 年 3・6 月所載『9.11（ナインイレブン）恐怖（テロ）襲撃の様々な既視感［Ⅰ・Ⅱ］』に続く 10 月の『“9.11” 的既視曾識和《超限戦》的曲径幽処――中共軍事新潮及中華智術根基初探［之一］』，05 年 6・10 月と 06 年 6 月の『中国走向覇権軍国的危険性与和平崛起的安全閥［上・中・下］』，06 年 3 月の『由中国軍事新思考、覇権軍事化的危険性及安全閥的危険性展望両岸関係、東北亜安保』）で，多くの論拠を挙げて武力争奪の確率の低さを指摘した。2 世代に亘る産児制限で生れた「小皇帝」（親に溺愛される独り子）が血筋断絶の覚悟で出征する事の至難は，建国後初の人口減少（中共建党 101 周年記念日の 2022.7.1 の対前年比）で最新の裏付けを得た。その半面，「超限戦」の擡頭も 18 年来の予見通り有力に成りつつある。

デービッドソンの誕生日（1950.8.24）は 16 年後に「文革」初頭の「紅色恐怖」の「最狂」日と重なるが，彼の警告の期間限定は習の党首・国家主席 3 期目（～2027 年秋 / 28.3）と本稿言及の建軍 100 周年（27.8.1），日本の泡沫経済崩壊（1991.3～93.10）の 30 数年後（中国の発展の対日遅行幅の経験則）と暗合し，日本人も知る由が無い「紅羊劫」（『辞海』立項，日本語入りせず）と併せ考えれば一層に不気味である。

毛は 3 年大飢饉のどん底に日中友好協会訪中団と会見した時，「万家墨面没蒿莱，敢有歌吟動地哀。心事浩茫連広宇，於無声処聴驚雷。」（万家墨面にして蒿（こう）莱に没し，敢えて歌吟の地を動かす哀しみ有らんや。心事浩茫として広宇に連なり，無声の処に於いて驚雷を聴く）という，魯迅の七絶『戌年初夏（の）偶作』（1934.5.30）の揮毫を贈った。落款中の「一九六一年十月七日」（会見日）の「十」は元の「九」を修正したのであるが，15 年後の「10.7」は前日に「4 人組」を逮捕した華国鋒の党・軍委主席就任日に当る。毛時代の特に暗黒な後期に多くの知識人は沈黙の中で爆発を待ち続けたが，本稿に次々と現れる天数も声無き処の「驚雷」（驚天動地の雷）が多い（「驚雷」は『日本国語大辞典』に収録され，語釈は「激しい雷」，漢籍出典は「劉向－九歎・

遠遊 “ 凌二驚雷一以軼二駭電一兮，綴二鬼谷於北辰一 ”」，和文用例は「北遊詩章［1822］親不知子不知 “ 洪濤百尺駆二驚雷一，来打二懸崖一雪山頽 ”」であるが，200 年後の今や日本語から消えて久しい）。

附記執筆中の 7 月 20 日の『讀賣新聞』の暴露記事に由り，東京五輪・身障者五輪組織委理事の高橋治之の利権絡みの受託収賄容疑が浮上し，東京地検特捜部が贈賄容疑の企業家への任意聴取を経て下旬から捜査に乗り出したが，五輪利権の闇の再度の表面化で「呪われた」大会の後味の悪さが改めて確認できた。

本稿で南京大虐殺・「百 / 三百人斬り」に由る旧日本軍将校の死刑の要因の 1 つを「民憤」に求めたが，7 月 21 日に南京の玄奘（じょう）寺に於ける 5 戦犯の位牌奉納の変事が電脳網（ネット）上で拡散され民衆の憤慨を招いた。翌日の立件後 24 日深夜（日清戦争勃発 128 周年の直前）に騒動挑発罪の容疑で拘束された女性（満州事変 59 年後の 1990.9 生）は，悪夢で見る南京大虐殺の心理的な陰影を払拭する為に 80 周年の頃（2017.12.18）に奇行を仕出かしたが，参拝客に由る発覚（22.2.26）と寺側の即座撤去・長期隠蔽を知らぬ儘の執筆も天数との奇遇であろうか。

歴史の風化を物語る寺側の無知に付け込んだ奉納が良識者の目に触れた「2.26」は，「民憤」と対で論じた「償命」と共に 86 年前の日本の軍人政変と処罰を連想させる。次回で原暗殺～「5.15 事変」の殺人者が世間の同情に由り命で償わずに済んだ事への批判を展開するが，安倍元首相射殺の 7 日後に起訴前の狙撃者の減刑を求める「網（ネット）民」署名活動が始まった事は，101～87 年前の「情→法」の倒錯を甦らせる。今後の量刑（今回援引した最高裁の死刑基準は 39 年前の同じ「7.8」に明示）も含めて，本稿の問題提起に意義を齎す。

東京五輪開幕 1 周年時の『讀賣新聞』所載『凶弾㊥ 要人警護』に，3 月 24 日に朴槿恵（パククネ）元大統領が私邸前で群衆から焼酎瓶が投げ付けられると，2～3 秒で 10 数人の警備員が駆け付けて彼女の周囲を 2 重 3 重に取り囲み，防弾鞄（かばん）を掲げた儘 1 分 20 秒程その姿勢で共犯者の襲撃に備えた，という 1 齣が写真付きで報じられた。次回で詳述する韓国大統領経験者の悲運・危険性と絡む日・韓の安全意識の大差の証左に成るが，日本の従来の不備を裏付ける論証の支援材料の続出は，有難いと言うより寧ろ不気味に感じる。

本稿の題の鍵詞の「変」は変調・変事・事変・凶変に由来し，変化・変易・変移・変異・変革の多義を持ち，2021 年の中国の 10 大流行語 1 位の「百年未有之大変局」（百年来の未曾有の大変化の局面。初出＝習近平の世界情勢に関する 17.12.28 講話）に引っ掛ける。天数乱舞の「巧合」（好都合な偶然の一致）が演義（史実を文学的に脚色した通俗物語）に成らなくても，変事続発の新千年紀（ミレニアム）の初期にはせめて「文革」再来の様な縁起の悪い暗号の暗合・的中を避けたい。

2022.7.25，68 歳の誕生日，中共「1 大」開幕 101 周年の翌々日

再校時追記（9.18）

出稿後の 8 月 17 日の高橋治之と贈賄側の幹部 3 名（青木擴憲 AOKI ホールディングス会長等）逮捕，9 月 14

日の角川歴彦（KADOKAWA 会長）逮捕で，五輪招致に儘有る汚職疑獄の解明・追及は更に進展した。

8 月 30 日の政治局会議で中共「20 大」の 10 月 16 日開会が決ったが，習近平の「反腐敗闘争」の最後の大物粛清（4 年前の「8.30」張陽拘束，「10.16」房峰輝・張党籍剥奪）と重なる。初日は中国初の核爆弾実験の 58 周年に当り，筆者が既刊論文で指摘した通り，その成功は毛沢東時代の人々の「赤い遺伝子」の形成に影響が大きい。1964 年東京五輪開催中のフルシチョフ失脚と同日である事も，本稿の論説と直接に関る。

（夏　剛，立命館大学国際関係学部教授）

2021：变 ——百周年的再起动 “红羊劫”的前奏曲？（3）

本部分首先从北京开创一地先后举办夏、冬两季奥运会的首例，引出东亚多国、地区“雁行”型相继实现经济猛进的奇迹，及近代以来日本、中国之间约 1/3 世纪的整体发展时差，在此背景下剖析“被诅咒”的 2020 年东京奥运会的主办方丑闻连爆、东道国怪事迭出。

回顾“日中文化摩擦全面频发元年”（2003）的一连串骚动，指出日本由昭和改朝换代进入平成后的劣化及“和平麻痹”。将 2021 年天皇侄女真子成婚的“小室（夫姓）剧场”视为防人之心淡漠的世风显露。

以南京大屠杀、“百人斩”案犯的下场和遗言为切入点，审视日中战争等历次外来侵略所致的遗恨不绝，及“以德报怨”对“以直报怨”、“以血洗血”、“不杀不足以平民愤”等现实、感情和理想的并存、冲突。

由当代日、中政要的引退年龄及机制寻求两国政治文化的异同，从日本首相更替较多的 9 月联系台风常袭时期和世界性恐怖活动频发的“黑 9 月”，论及历史剧变与魔咒背后的季节性要素。

附记中详述了笔者转向切近现实的日中社会、政治、文化、语言比较，并注视历史进程所隐含诸多“天数”的契机，阐发连载第 1～3 部分及下一部分中随处冒出的巧合、相关、暗示，及事实和“天数”比虚构的小说更离奇的感受。

（夏　刚，立命馆大学国际关系学院教授）